国際教養大学

AKITA INTERNATIONAL UNIVERSITY 2023—2024

国境や文化、言語を越えて多面的な交流が進むグローバル化の時代。
情報が瞬く間に全世界を駆け巡り、生活が便利になっていく一方で、
自分の立ち位置や進むべき道は見えにくくなっています。

そんな先行きの不透明な時代に、リーダーになりたいと思う人は多くはないのかもしれません。
だからこそ私たちは、「Be a Global Leader!」のメッセージを発信し続けます。
なぜなら、それは、困難に立ち向かう姿勢や周囲との関わり方、
そして、その先の生き方そのものを指し示すからです。

多様な価値観に溢れ、混沌とした社会を導くリーダーに求められるのは、
他者を認め、決まった答えのない諸問題に果敢に挑戦する力。
学修の過程や生活のあらゆる場面で異文化に触れ、日々チャレンジの連続であるこのキャンパスで育まれる力は、
未来を切り拓く力になるはずです。

小さな学び舎から大きな舞台へ。

国際教養大学に息づく AIU SPIRIT

都会の灯りから遠く離れたキャンパスに浮かび上がるのは
勉学や仲間との白熱した議論、
そして課外活動に打ち込む学生たちの活発な姿ー
そんな国際教養大学に「あえて」入学してくる学生たちは、
自発的に学ぼうとする強い姿勢とチャレンジ精神に溢れています。
互いに刺激し合い、切磋琢磨しながら自分の殻を打ち破っていく。
開学以来、挑戦を続けてきた国際教養大学には、
そんな精神文化 "AIU SPIRIT" が息づいています。

国際教養大学 ミッションステートメント

国際教養大学は、「国際教養教育」を教学理念に掲げ、グローバル社会におけるリーダーを育成することを使命とする。

国際教養教育は、世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力、これらの上に築かれたグローバルな視野とともに、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力を涵養する。

国際教養教育を受けた者は、確固たる「個」を確立し、道義心の修養を通じて開かれた高潔な精神と情熱を持って時代の諸課題に立ち向かい、自らが暮らす地域や所属する国家のみならず広く人類社会に貢献する。

求める学生像

国際教養大学は、その理念に共感する次のような学生を求めています。
主体的に学ぶ意欲が強く、鋭い問題意識を持つ学生であって、

- 社会科学、人文科学、自然科学の広い分野について均衡のとれた基礎学力、論理的、批判的、創造的な思考力を身に付けた学生あるいは特定分野について卓越した経験や能力を有しながらより広い分野について学修を深めようとする意欲を持つ学生
- 海外での学修経験や諸活動への参加経験、国内での国際交流事業などに積極的参加を経験するなど世界の多様な文化、言語、歴史、社会などの国際関係について強い関心と探求心を持つ学生
- 国際社会を舞台に活躍できるような実践的な外国語運用能力（特に英語）と、幅広い教養の修得を志す学生

大学名に込められた教学の理念

中嶋嶺雄初代学長が遺した大学の名称案の走り書き。
「わが国の高等教育から失われた豊かな教養教育の確立と
実践的な外国語コミュニケーション能力の養成を目指す大学を」ー
いくつもの案を検討する中で、その想いと理念が
フォーカスされていった過程が見えるようです。

Contents

Akita International University 2023 — 2024

01 国際教養大学の教学理念／ミッションステートメント
求める学生像／AIU SPIRIT
02 AIUエコシステム
04 学長メッセージ
各界の皆様からのメッセージ
06 卒業生INTERVIEW
10 応用国際教養教育「AILA」が目指すもの
12 応用国際教養教育のしくみ
14 統合知と人間力を結びつける取り組み

FEATURE 01
18 すべて英語の少人数授業
20 カリキュラム
26 英語集中プログラム（EAP）
28 グローバル・ビジネス領域（GB）
30 グローバル・スタディズ領域（GS）
32 グローバル・コネクティビティ領域（GC）
34 教職課程
35 日本語プログラム／日本研究プログラム
36 中嶋記念図書館
38 能動的学修センター（ALC）
40 教員紹介

FEATURE 02
44 1年間の留学義務
46 留学先からのメッセージ
48 海外の提携大学
ヨーロッパ・アフリカの提携大学
50 アジア・オセアニア・北米・中南米の提携大学

FEATURE 03
52 多文化共生のキャンパスライフ
54 学生寮と学生宿舎
56 学生活動
57 年間行事
58 キャンパスマップ

FEATURE 04
60 多彩な可能性を広げる進路選択支援
61 進路選択支援（CDC）
卒業生の主な就職先
62 社会で活躍する先輩たち
63 大学院進学支援（ACSC）
大学院合格実績／大学院進学者の声

FEATURE 05
64 多様な人材を発掘する入試制度
65 入試日程／入試制度一覧
69 新入生の声

70 学費と奨学金／奨学寄附金
72 専門職大学院
73 沿革とガバナンス／基礎データ
裏表紙 大学公式ウェブサイト・公式SNSアカウント／交通アクセス

未知との出会いを
未知を生きる力へ

多様な学生がそろうAIUですが、不思議なことに、よくこんな言葉が聞かれます。

「AIUの学生は、なにか共通するものを持っている」

それはきっと、AIU独自の教育環境に理由があります。

英語による質の高い授業を行うからこそ、海外の一流大学との提携が可能であり、そうした大学との交換留学によって、多文化共生キャンパスが実現しています。一方では、地域との交流活動が活発な公立大学としての顔も持ち、そのローカル性が留学生を継続的に惹きつける要因にもなっています。これらの特長が有機的に結びつくことで、様々な相乗効果を発揮し、他にはない独自の「AIUエコシステム」を生み出しているのです。

学生たちは常に多様な価値観に触れる中で、自己と他者を尊重しながら、想像力を持って論理的に課題を解決する力を身につけていきます。本学ではその積み重ねこそが、グローバルリーダーの資質を伸ばす核となり、「AIU SPIRIT」を形づくるものと考えています。

Message from the President

学長メッセージ

ここだけでできる教育、そしてここだけで育つ人材

公立大学法人 国際教養大学
理事長・学長
モンテ・カセム
Monte CASSIM

1947年スリランカ生まれ。スリランカ大学卒業後、1972年来日。東京大学大学院で都市工学を学び、三井建設、国際連合地域開発センターなどを経て1994年立命館大学教授に就任。立命館アジア太平洋大学学長、学校法人立命館副総長、大学院大学至善館学長を歴任。2016年瑞宝中綬章を受章。2017年スリランカ政府より国民英雄(Vidya Nidhi)の称号を授与された。専門は環境とライフサイエンス。2021年6月から本学理事長・学長。

国際教養大学（AIU）は、ここ秋田の地でそれまで日本になかった新しいグローバル教育をスタートさせ、全国各地から学生が集まるとともに、Times Higher Educationの大学評価にも象徴されるように、今や世界が認める大学になりました。これは多様性と活力に満ちた学生と教職員、秋田の地域社会、そして世界各地の提携大学が織りなすAIU Communityが生み出した奇跡と言えるでしょう。

AIUは、グローバルリーダーの育成を目的としてリベラルアーツ（教養）教育を展開してきました。広範な知識を吸収し人格を陶冶することは本学の教育の核心です。一方、ますます混沌とする世界をたくましく生き抜くには、さらに高いレベルでの「応用力」が必要になります。そのため、2021年より「応用国際教養教育（Applied International Liberal Arts: AILA）」という新たな教育手法を導入しました。ある科目と他の科目群との関連性、理論と現実課題との乖離の実証的検証、思考を論理的に文章にまとめ、発信する力を段階的に強化し、さらに学外・海外での実体験を通して自己省察と確立をはかっていきます。「異なる知識体系を弾力的に融合する力、多角的分析力、そして課題解決力（統合知）」と「誠実さ、忍耐力、礼節、そして社会的責任感（人間力）」を身につけるべく学生の成長を後押ししていくのです。

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大により「1年間の留学義務」が叶わなかった時期にも、本学は海外提携校と連携し、オンラインによる「バーチャル留学」を提供したほか、CouseraやedX等、世界の一流大学によって提供されているオンライン授業と長期インターンシップの組み合わせを各学生が自由にデザイン・実行する「Independent Study」といった留学代替認定制度を導入しました。このように非常時下においても様々な学びを柔軟に織り交ぜながら新たな学びの仕組みを構築することは、まさに本学の応用国際教養教育を反映する一側面でしょう。

急速な社会の変化を象徴するDX（Digital Transformation）は、リベラルアーツ教育の成果を発揮する格好の舞台となるでしょう。技術そのものはエンジニアによって開発されるとしても、それを人々の豊かな暮らしに応用する手だては、各学問分野を超えた視点を持つ者のみが見いだすことができるからです。また、GX（Green Transformation）においては、脱炭素社会の実現に向けた様々な変革が提案されています。この全世界的な目標を達成するためには、各国と協調しながら世界を動かすリーダーシップが必要となります。

AIUでの学びのフィールドは、キャンパスをハブとして秋田県全域、提携校のある世界各地へと広がっていきます。本学には、皆さんの関心に応じた様々な科目履修に加え、多様な企業や自治体と協働しながら知識やスキルを身につけ、そして応用することで学際的応用力と人間力を育むための最適な学びの環境があります。

今後、世界の不確実性がどれだけ増そうとも、また、いかなる高度デジタル社会が到来しようとも、世界中の人々と繋がりながら課題を解決していけるグローバルリーダーの重要性が変わることはありません。AILAが生み出す無限の可能性を一緒に切り拓いていこうという志のある皆さんが、AIU Communityに加わってくださることを楽しみにしています。

国際社会に貢献できる人材育成を目指して

「国際教養教育」という教学理念を掲げ、
グローバル時代に対応した人材育成を目指す国際教養大学に、
各界の皆様からメッセージが寄せられています。

1957年日本人初の国連職員以後、数多くの重要な国際問題に取り組む

元国際連合事務次長
明石 康さん
Dr. Yasushi AKASHI

グローバル化時代は、異なる民族や文化に属する人たちが、互いのアイデンティティを自覚しつつ、寛容の精神や相互理解を育む時代です。国籍やバックグラウンドの違う人たちと協力して仕事を組み立てられる人が求められています。広い国際的視野を持ち、真の教養と語学力を身に付けられる大学が私の郷里に創設され発展していることは喜ばしいかぎりです。

豊かな国際感覚で活躍する日本のオピニオン・リーダー

評論家
公益財団法人 大宅壮一文庫
理事長
大宅 映子さん
Ms. Eiko OHYA

これからの日本を考えた時、世界の中で堂々と渡り合える人間をどれだけ増やせるか、が重要です。英語という言語は単なるツールであって、自分が主張したいことが先になくてはいけません。これが教養であり常識です。英語を勉強の目的ではなく、ツールとして使い、本気で勉学に励んでいる学生さんたちの未来は明るい、と確信しています。

貿易国日本を物流で支えるグローバルリーダー

日本郵船株式会社
取締役会長
長澤 仁志さん
Mr. Hitoshi NAGASAWA

グローバル化や情報通信技術の発展によって相互が複雑に絡み合い急速に変化し続けるこれからの国際社会において、その中心にあるのは間違いなく人であり、将来を力強く切り拓くのが個々の人間力であることは昔も今も変わりません。
皆さんの学生生活における様々な挑戦を通じ、外部環境の変化に動じることのない普遍的な力を身につけていかれることを願っています。

A Leading Commentator on East Asian Affairs

東アジア学の第一人者
カリフォルニア大学バークレー校
名誉教授
トマス・ゴールドさん
Dr. Thomas GOLD

I have watched AIU grow from a vision to a thriving and dynamic global university in every sense of the word. Its international faculty prepares students not only to use English at a professional level, but also to become truly global citizens through the unique opportunity to study at one of over 200 partner institutions overseas. AIU is challenging other universities in Japan to globalize as well, thereby helping the nation better meet the challenges of the 21st century.

※役職は2023年4月1日時点

Shuku OTOMO

大友 淑さん
2013年入学（宮城県）

外資系大手IT企業
広告営業本部 新規顧客開発本部
New Business Consultant

/01

PROFILE
AIU卒業後、日本IBMに入社し約3年にわたりデジタルセールス営業事業部に所属。
新規顧客開発営業としてITに関わる幅広いソリューション提案に従事した。2020年3月から現会社に転職。
広告営業本部 新規顧客開発本部に所属し、企業の事業戦略に沿ったデジタル広告の立案を行っている。

Special Feature

伝えることを諦めない 意見の違いこそコミュニケーションのチャンス

人と意見が違ったり、反対の意見を持っていても、意見をぶつけ合うことを避けて本当の気持ちを伝えることを諦めてしまっている人が多いように感じます。

AIUは、多種多様な学生や教職員が集まるコミュニティです。意見は「違って当たり前」であり、むしろ「違うことが自然」なこととして受け入れられます。授業は、一つのトピックについて、多様な視点から考えることが重視され、互いに意見の違いを尊重し合いながら議論を深めていくスタイルです。寮生活においても人との関わりが深いからこそ、うまく伝わらないことも多かったのですが、それでも自分の考えを伝えることを諦めたくありませんでした。どんなに自分から遠い意見をもつ相手であっても、自分の考えとその意図を丁寧に説明し、伝える努力をすることで相手に少しずつ近づける気がします。これは、言語や文化の異なる留学生たちとともにAIUで学び、生活したからこそ得られた姿勢です。

留学中に仲良くなった友人との一枚。留学中は友人たちとたくさん旅行にいきました。

現在、新規顧客開発本部で、会社がもつビッグデータを活用し、企業のニーズに沿ったデジタル広報戦略を立案してその実行をサポートする役割を担っています。あらゆる業界の企業がお客様となるため、取り巻く環境や抱えている課題も様々です。そうしたお客様と向き合う時にも、多角的な視点で提案し、意見の違いを尊重し合いながら議論を深めていくことを心がけています。「伝えること」と「受け入れること」を大切にする姿勢を忘れず、今後も心の通った議論を通じて人との関わりを深めながら、新しいことに果敢にチャレンジしていきたいと考えています。

YouTubeに関するイベント開催時の一枚。

Taku SAITO

斉藤 拓さん
2005年入学（北海道）

武田薬品工業株式会社
ジャパンファーマビジネスユニット
医療政策・ペイシェントアクセス統括部
課長代理

/02

PROFILE
AIU卒業後、内資系製薬会社へ入社し、秋田で営業職を経験後、本社にて薬価関連業務に従事。
その経験から、この分野で海外にも目を向けた仕事がしたいと思い転職。
現在は新薬の薬価決定に向けた具体的戦略立案、海外部門との連携、薬価改定に係る各種対応などに奮闘している。

いつまでも学び続けたい —— 今の私の原動力

「これからは、英語が話せて当たり前の時代。だから、英語＋αの武器を身につけろ。」— 高校の先生の言葉が、AIUを志すきっかけとなりました。

大学時代の私の夢は、研究者になることでした。地道に調べ、知識を増やしていくことが好きで、研究を重ねていく姿に憧れがありました。大学院進学の学費を貯めるため、まずは就職の道を選びました。働くなら未知の分野で学びある環境で働きたいという思いから、あえて新たな専門知識を必要とする製薬業界を選びました。

2007年にSt. Mary's College of Maryland（米国）に留学していたときの写真です。留学が終わり帰国する際に友人たちがお別れ会を開いてくれました。

現在は新薬の価格決定に携わる業務を担当していますが、研究・開発、製造、営業など他部門との横断的な連携が必須であり、時には医学・薬学の専門的な知識が求められます。さらに、薬価に関する制度は国により異なるため、海外複数カ国からの代表者が参加するミーティングでは、諸外国の基準も把握したうえで会議に臨まなければなりません。学び続けなければならないこの環境は、挑戦と新たな発見に満ちた日々を送っていたAIU時代の延長線上にあり、今も日々の成長を実感しています。

「世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献する」という存在意義のもと、言語、文化、立場などが異なる仲間たちと日常的に議論を重ねる業務は、AIU時代に培った他者の意見にしっかりと耳を傾けつつも、自分の軸を保って発信する力、そして双方が納得する方向へ導く推進力なくしては成り立ちません。

在学時にフットサル部（GPIAS）を立ち上げた際の初期メンバーの集合写真です。

未知の分野を求めて飛び込んだ製薬業界でしたが、今では日本においてのみならず、海外部門からも「日本の薬価のことは、斉藤に聞けば間違いない」と言っていただけるくらいに精通し、信頼される存在になりたいと思っています。さらに視野を広げるため、海外での業務にもチャレンジしていきたいです。

浅見 明咲さん
2010年入学（埼玉県）

防衛省防衛研究所
地域研究部アジア・アフリカ研究室
研究員

Asaki ASAMI

03

PROFILE
AIU卒業後、韓国のソウル国立大学国際大学院へ進学。韓国の歴史、政治、社会などを研究し、修士号を取得。
大学院卒業後は日系のメーカーに就職したものの、研究職の夢を諦めることなく、現在は防衛省のシンクタンクである防衛研究所で研究に従事。

Special Feature

AIUで見つけた自分だけのコンパス

人生の節目において、自分の進む道に思い悩む時期がきっとあると思います。そんな時、選択と決断のヒントとなる「人生のコンパス」を見つけられた場所がAIUだったんだと、今感じています。

進路を考えるうえでヒントとなったのは、AIUで出会った教授陣の存在でした。リベラルアーツ大学だからこそ、特定の分野に偏らない、多種多様なキャリアやバックグラウンドをもつ先生方が、それぞれ違う道を通ってAIUの地に辿り着いていることを知り、キャリアを形成していくことの面白さを感じました。キャリアは、まっすぐとした一本道でなく、さまざまな迂回路を経て最終的に自分の道を描いてゆくことになるのだと知ったのもその時でした。

AIU時代に、唯一ずっと続けていた活動です。フットサル部の仲間とは今でも定期的に会うほど仲良しです。

私は、AIU在籍時に休学したことがありました。自分自身と向き合うために立ち止まることを決断できたのも、そしてまたAIUに戻りたいと思えたのもAIUの多様性を尊重し合う風土に支えられたものでした。「私が私でいること」を自分で認めることができた瞬間でもありました。

防衛研究所に入所した当時は自分の研究者としての存在意義をなかなか見出せずにいました。しかし、AIUで学んだ「まずは自分が自分自身を認めること」の大切さを思い出し、地道な努力を重ねる研究という職業で、自分らしさが輝くと思えるようになりました。

大学院の卒業式で指導教授との一枚。入学時からお世話になり、泣きながら論文を書いていた時も温かく励ましてくださいました。

研究者としての道を歩む一人として、近く描く目標は米国の大学院で博士号を取得し研究者として一人前になること、遠く描く夢は朝鮮半島の安全保障問題に関する理解の促進に貢献することです。自分の実体験が、いつか誰かのコンパスとなるよう今日も研究を続けていきます。

経験による学びの深化

PROFILE
入社後から一貫してアフリカ地域における自動車ビジネスに従事。2016年から5年間は南アフリカに駐在。
プライベートでは1歳〜11歳までの3児の子育てに奮闘するパパ。

04

渡邉 一矢さん
2005年入学（北海道）

豊田通商株式会社
トヨタアフリカ自動車部
課長補

Kazuya WATANABE

私はアフリカ地域を舞台に、自動車関連ビジネスの開発・発展事業に取り組んでいます。次の世代を担うアフリカの若者たちが地域産業を支える自立した人材になれるよう、その基盤となる地域産業のネットワーク構築に従事しています。

仕事をするうえで重要だと考えるのは、現場に足を運び、自らの目で実態を捉えること。以前、エジプトで自動車組立事業を担当した際、組立用部品の輸入を滞りなく進めるため、現地の港に常駐して仲間たちと一丸となっていくつものトラブルを解決し、窮地を乗り越えたことがありました。そして、ようやく部品が組み上がって完成した最初の一台を目にした時、それまでの苦労が報われた気持ちになりました。

南アフリカを拠点とし、周辺のアフリカ各国のユーザーへ自動車部品を届ける業務に従事していました。

文化の異なる遠く離れた国の人たちとONE TEAMで働くことは簡単ではありません。自分とは異なる文化や環境の中で、異なる常識を持っていることを深く理解し、ビジネスを超えた、相手との信頼関係を築く努力が必要だからです。

AIUは、人と人とが繋がる「体験」が溢れている場所です。英語という共通言語を通して授業内外で様々な国・地域から集まる留学生や教員とコミュニケーションをとり、留学も経験しながら夢を追いかける仲間たちと切磋琢磨します。また、秋田の地域社会との関わりの中で人の温かさに触れ、自分は他者との繋がりの中で支えられ生きているのだと実感することができます。こうした体験から得られる学びは自分だけのものであり、想像していたよりも強く、深く、自分の中に根付いています。

タンザニアにて、アフリカ郊外の鉱山会社における自動車の使用状況を調査しました。

今後は、世界は「広い」だけじゃない、世界を「深く」知ることで見えてくる景色や得られる感動はその先にあることを、次の世代を担う子どもたちへ伝えていきたいと思っています。

応用国際教養教育 Applied International Liberal Arts：AILA®が目指すもの

※AILAは国際教養大学の登録商標です。

教養が意味するもの

専門を持つことの強みは、特定の分野に深い理解や優れた技能を有することです。しかし、私たちが現実社会で直面する問題は複雑で、特定の分野の視点だけでは解決し得ないものがほとんどです。例えば、ある企業で地球温暖化対策として商品包装の簡素化を進めることになったとしたら、どのような視点が必要でしょうか。まず、代替包装に使用する材料や梱包方法が、地球温暖化の原因となる排出二酸化炭素削減に寄与しうるかどうかを検証しなければなりません。また、簡素化しても商品が破損しないような強度を保つための方策も必要です。さらに、この取り組みが、単なる経費節減と捉えられてしまえば、企業のイメージダウンにつながりかねないため、適切な広報戦略を練ることも必要です。そして、方法を変更することは、これまでの作業に従事していた人々の仕事を奪ってしまうことにつながる可能性もあることから、法的・倫理的配慮も必要になるでしょう。このように、現代社会では1つの専門性だけで問題を解決することが困難になってきているのです。

教養をより身近な表現に置き換えると、それは「物知り」ということになるでしょう。こうした印象も手伝って、いろいろな分野の科目を雑多に学ぶことが教養学だと誤解されていた時期がありました。教養学が意味するのは、種々の学問分野を架橋する力を養うことで、これこそがリベラルアーツの本来的な意義なのです。

教養学から国際教養学へ

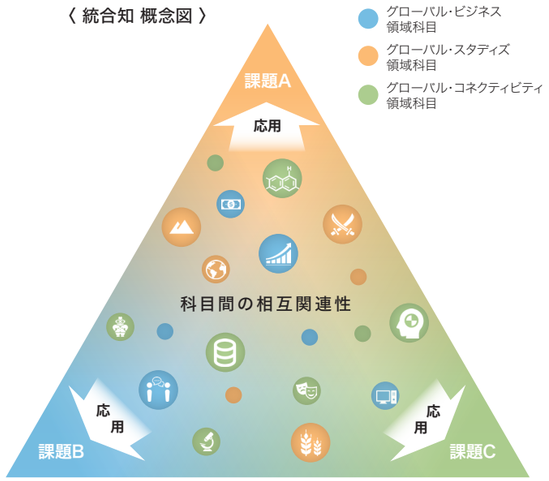
21世紀は、それまでの歴史のどの時代に比してもあらゆる側面で劇的な変化を遂げています。その要因は多岐にわたりますが、その主たる要因は、インターネットに象徴されるITの急速な発展と地球規模の気候変動と言えるでしょう。情報化社会においては、世界の事件、事故、災害、紛争の発生が瞬時に日本にインパクトを与えるようになりました。急速な気候変動は、一国の努力で解決し得ないことは明らかであり、気候変動に対する国際社会の取り組みは、世界の国と地域がそれぞれの利益と損失を勘案しながら妥協点を探っていく静かな闘いであるとも言えます。このように近年急速に発達したグローバル社会においては、リベラルアーツも視野をさらに広げることが求められるようになったのです。こうした世界の動向に呼応するべく、国際教養大学は、2004年の開学時から「国際教養教育」という独自のリベラルアーツ教育を展開してきました。

今、「応用」国際教養教育へ

国際教養大学のミッションは、世界に通用するリーダーを輩出することであり、私たちは「グローバルリーダー」を「知力と人格に優れ、責任感と情熱を持って世界の舞台で行動できる人間」と定義しています。このミッションを達成する「しくみ」として、2021年4月、「応用国際教養教育（Applied International Liberal Arts: AILA）」という新しい教育手法を導入し、次の2点を強化することで、国際教養教育を一歩前に進めます。

1) 多様な「知識の引き出し」を自在に駆使し、それらを互いに関連・応用させ、最適解を探る力、すなわち「統合知」を高める能力をより効果的に身につけることができるカリキュラムとしました。

〈 統合知 概念図 〉



異なる分野の課題に立ち向かう
「統合知」を涵養

2) 統合知を実社会で生かすためには、異なった視点や立場を持った人々の心に響くような情報の発信能力と、信頼や賛同を得られるような人格を有していなければなりません。自身を社会へと適応させる経験を積みながら、様々な困難を克服し、人間力を強化する機会と環境を提供します。

応用国際教養教育の枠組み

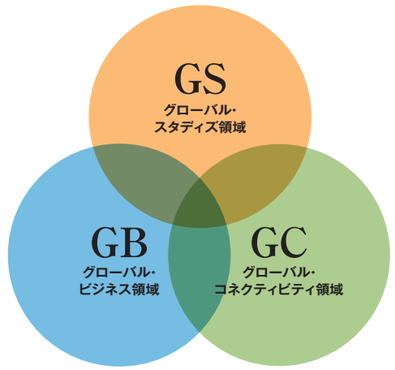
AILAでは、「統合知強化」と「人間力強化」が両輪を成しています。統合知強化の取り組みでは、AILA 1で、徹底して英語の4技能を習得し、文章を読み解く力、自身の考えを発展させて文章で表現する力、効果的にプレゼンテーションする力の基礎を固めます。AILA 2では、教養基盤科目を学ぶ過程で、科目間の関連性に気づく力を養いながら、グローバル・ビジネス、グローバル・スタディズ、グローバル・コネクティビティのいずれの領域に進むかを選択します。この選択は、「学びの軸足」をどこに置くかを定めるものであって、専門分野を限定することを意味しません。それぞれの領域は、クラスターと呼ばれる「学びの切り口（分野）」を持っています。自身が選択した領域を軸足にして、他の領域のクラスターの科目を選択することが可能であり、関心のあるテーマに基づき、学際的な学びと思考の訓練を積んでいきます。AILA 3では、留学先での厳しい学修から得た知識や経験を本学での学びと統合して整理し、リサーチペーパー（卒業論文など）の作成に向けた考察を深めます。AILA 4では、集大成として自身の研究テーマをリサーチペーパー（卒業論文など）としてまとめます。

人間力強化の取り組みは、まず入学と同時に、多様性溢れる義務寮や学生宿舎、教室などあらゆる場面で異文化に触れることで始まります。課外活動や地域との交流が活発化していく過程で、自己と社会の関係性に悩むこともあるでしょう。そして、友人や家族から完全に離れる留学期間は、自身を冷静に見つめ直す機会となります。挫折と自己相対化を繰り返しながら困難を克服し、社会の厳しさや矛盾と対峙していくことを通して自尊心や倫理観、自律心、高貴なる責任感を確立していきます。

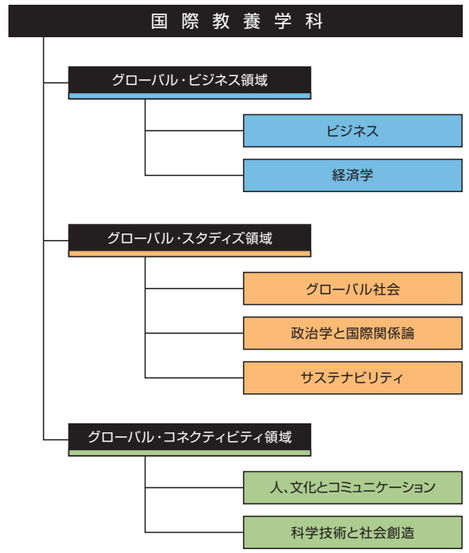
グローバルリーダーを育てる学修環境

知識を実際に統合し応用する力、そして人間力の成長はどのようにして育まれるのでしょうか。そこで必要となるのが、実践の場です。本学では、ほぼすべての教養専門科目群にAILAプロジェクトという取り組みを導入し、座学を超えた実践的な活動を盛り込みました。その他にも、地元企業と学生が連携して企業の問題解決やイノベーションを進める「AIUデザインLAB」、海外提携校との国際協働課題解決型プロジェクト（PBL）、教員と学生の協働研究活動、企業・団体での長期インターンシップ、国内外でのボランティア活動など、本学には多彩な実践の場が揃っています。こうしたプログラムの中から自身に必要なものをどれほど自律的に、そして貪欲に手にしていけるかが、より大きな成長への鍵となります。本学独自の教育システム、豊富な課外活動や地域交流、多文化共生のキャンパスなど、国際教養大学という学修環境そのものが本学のAILAを実現する舞台になっているのです。

学びの軸足



学びの切り口（分野）：7つのクラスター



図で見る

応用国際教養教育のしくみ

「応用国際教養教育（Applied International Liberal Arts: AILA）」は、
統合知と人間力が相互に作用しながらグローバルリーダーとしての
素養を高めていく「しくみ」です。

詳細は
大学公式ウェブサイト

または**動画**
でご覧いただけます

すべて英語の
少人数授業
P.18

個人アドバイジング
P.19

24時間365日開館の
図書館
P.36

世界中から集まる
教授陣
P.40

秋田ならではの
地域・文化
P.16–17、57

統合知を育てるしくみ

カリキュラム

英語集中プログラム（EAP） P.26
→ 基礎科目群 / 教養基盤科目群
→ 教養専門科目群
グローバル・ビジネス領域
グローバル・スタディズ領域
グローバル・コネクティビティ領域 P.28–33

AILA 1 基礎	AILA 2 成長	AILA 3 発展	AILA 4 応用
英語4技能の徹底	学際的な学び 専門領域の選択	1年間の留学	卒業論文
基礎力・表現力	調査・論理構成力	分析・接続力	総合力

人間力を育てるしくみ

自律性　社会性　忍耐力　倫理観
多様性理解　自尊心　貢献の精神

AIU独自の環境

1年間の義務寮
異文化イマージョン
→ テーマ別ハウス群
盛んな地域交流と国際協働
→ 1年間の海外生活
提携校毎に少人数で派遣
→ 社会への接続の機会
成長実感の共有

多彩な実践の場

- ◎学生活動 P.56
- ◎多文化共生キャンパス P.52
- ◎学修・居住一体型キャンパス P.17、P.54
- ◎ボランティア活動
- ◎長期インターンシップ
- ◎課題解決型プロジェクト P.14
- ◎企業連携プロジェクト P.15

国際教養大学が
育成する

グローバルリーダー

＝

広範な知識
＋
論理的思考力
＋
問題解決力
＋
多様性理解
＋
高貴なる責任感
＋
行動力

統合知と人間力を結びつける取り組み

Unique Programs and Activities to Enhance AILA

複数の学問領域をまたいだ多角的な視点で問題解決にあたるスキル（統合知）は、
多くの人々や地域社会と理解し合いながらプロジェクトを進めていく
社会的スキル（人間力）があってこそ実社会で活かされます。
人と深く関わりながら、
国際教養教育で身につけた能力を発揮する訓練を積む
様々な実践の場があります。

1 国際協働課題解決型プロジェクト

International Project-Based Learning

PBL、答えはここに。

水野 智仁 Dr. Norihito MIZUNO（事業推進責任者）

ASEAN地域の提携校との国際協働PBL（Project-Based Learning：課題解決型科目）を実施しています。PBLでは提携校との国内外での協働により、講義、資料調査、フィールドワークなどによるデータ収集・分析、発表・討論、レポートの作成を通して、各地域に関連した様々な課題に取り組みます。そして、異文化体験・交流を経ながら、文献資料や収集したデータの多角的分析に基づく考察力や課題に対する解決力を養うとともに、コミュニケーション能力や共同作業能力を身につけることを目指します。2022年度は、マレーシアのボルネオ島サバ州におけるグリーン・エコノミー（持続可能な開発・発展を実現する経済の在り方）、秋田県とタイ東北部における持続的地域発展・振興の可能性について、PBLを実施しました。

森田 陽湖 Yoko MORITA

カセサート大学とのPBL科目
GSS304 日本とタイにおける持続可能な地域発展の研究（PBL）を履修

国際協力に関心があったことから、海外で実践的な経験をしたいと思い、PBLに参加しました。「持続可能なコミュニティ開発」というテーマのもと、タイの農村地域の魅力と課題を探究し、タイの学生や地元の方と議論を重ねながら解決策を模索しました。最終発表では、サコンナコン地域のエコツーリズムにおける成長可能性を提言し、環境保全・伝統文化などの側面から分析した成果を発表することができました。PBLを通して、地域開発について理解を深めることができたと同時に、異文化交流も体験でき、非常に貴重な機会となりました。

2 企業連携プロジェクト

Collaborative Project with Business Sector

AIUデザインLAB

学生と秋田県内の企業が協働で取り組む課題解決プログラムです。「基礎編」として「デザイン思考」を学び、「応用編」として大学、地域、企業の課題を通して、実践的な学びへと深化させます。

【課題例】
●若者が働きたくなる秋田を実現するビジネスアイデアを創造せよ
●ポストコロナの新たな旅のあり方をデザインせよ
●縮小する国内需要、海外販路拡大へ向けプロダクト・販売手法を創造せよ

国際教養大学のAIUデザインLABについては、動画でもご覧いただけます

科目例 SOC326 関係人口論（JR東日本寄附講座）

Urban-Rural Linkages and Community Development (JR-East funded course)

JR東日本秋田支社と本学が締結した連携協定のもとで、都市と地方の新しい関係性を示す概念である「関係人口」をテーマに据えたフィールド演習型の科目を開講しています。講座では、過疎高齢化が進む地域において、地域住民が移住者や訪問者と協働しながら展開している地域づくりの様々な事例について、学生が実際に現場を訪れ、インタビュー調査を通じて学びながら、従来の地域活性化や農村再生の枠組みにとどまらない自律的なコミュニティ開発のあり方を探求します。

伊勢 悠希 Yuki ISE

秋田のような日本の地方における地域活性化において、「関係人口」がどのような役割なのかを、様々な地域の先行事例や研究、理論をもとに学生同士で考察しました。
また、秋田県内のフィールドワークでは、実際に関係人口の創出に積極的な行政の方や、関係人口として地方で活動している方から話を伺い、その役割などについて議論を深めました。住民、行政、移住者といったそれぞれビジョンが異なる者同士が創り出す共生環境において、定住者でも観光客でもない「関係人口」といったある種の仲介人がもたらす地域への影響の強さを肌で感じ取ることができました。

科目例 GSS314 世界のエネルギー動向：可能性と課題（産学金連携寄附講座）

Global Energy Status: Opportunities and Challenges (Industry-Academic-Financial Partnership funded course)

三菱商事洋上風力株式会社、株式会社ウェンティ・ジャパン及び株式会社北都銀行との連携協定に基づき、2022年春学期から電力・エネルギー全般をテーマとした寄附講座を開講しています。世界の再生可能エネルギーの取り組みや課題を、講義やフィールドワークを通じて学び、秋田県の課題に応用しながら、様々な課題解決の思考訓練を行います。

岸岡 梨実衣 Rimii KISHIOKA

これまでも環境持続可能性やグリーンエネルギーには強い関心をもっていましたが、どんな課題があるのか、その課題解決はなぜ難しいのか、理解できていないまま前進していませんでした。
講義内のディスカッションを通して、持続可能性を追求されている様々な先進企業の方々から、実体験に基づくアドバイスや率直なフィードバックをいただき、曖昧だった疑問が一つひとつ解消されていきました。その結果、輪郭のないぼんやりとした自分の意見やアイデアに、現実の課題や事例を反映することでき、確固とした提案に立て直すことができました。今回の講座は、秋田の風力発電の未来に大きな希望と可能性を抱くきっかけとなりました。

3 AILAプロジェクト
AILA Activities and Projects

ほぼすべての教養専門科目群の授業において、知識の統合と応用実践の機会をAILAプロジェクトとして授業の内外で提供しています。

プロジェクト例

コンサベーションと持続可能な開発
SUS310 Conservation and Sustainable Development

自然環境が世界の経済、社会でいかに重要な役割を果たしているのかを理解し、学生が持続可能な開発の担い手となれるよう、環境保全の課題を考察します。例えば、持続可能な土地利用の実現といったテーマに沿った少人数のグループワークで、持続可能な開発を実現する方法を検討し、レポートを作成します。自分とは異なる視点を持つ仲間と問題に向き合い、ときには意見の衝突を通じて課題への理解を深めることで、協働で問題解決策の方法を導き出す術を身につけていきます。様々な見方が交錯する実社会において、最初から皆が賛成するアイデアは未熟な考えと捉え、「アイボリー・タワー（象牙の塔）」を抜け出した学びを目指します。

4 地域交流活動
Community Outreach

秋田県内の小・中学校を中心に、園児から大学生まで幅広い世代との交流活動を行っています。交流活動を通して、学生は大学生活で培った学びを実践し、深めています。2020年度からはICTを活用した交流活動も行っています。

国際教養大学のオンライン交流プログラムについては、動画でもご覧いただけます

5 日本の英語教育の改革
Reform of English Education in Japan

イングリッシュビレッジ

中高校生を対象とした、「英語を英語で学ぶ」イングリッシュビレッジを開講しています。講師となる本学の学生（大学院生、学部生、留学生）は、事前に担当教員からトレーニングを受け、英語で中高校生に授業をするという経験から、自律的かつ能動的に学修する姿勢を身につけています。秋田県内に限らず、県外の中高校生も参加しており、国際教養大学というグローバルな環境での英語学習を楽しんでいます。

6 海外大学とのパートナーズプログラム
Partners Program

上級日本語・秋田学 冬期集中プログラム

オーストラリア国立大学の日本語上級レベルの学生が、秋田や日本の祭り、伝統、観光といった側面を体験するだけではなく、それぞれが抱える少子高齢化および文化・伝統継承問題について学びました。また、秋田県仙北市角館町白岩地区における冬まつりに参加する等、秋田の人々との交流を重ねました。

アリス・マグロックリン
Alice MCLOUGHLIN

オーストラリア国立大学（オーストラリア）

このプログラムに参加できたことは素晴らしい経験でした。秋田の文化に身を置くことは、そのやりがいと楽しさに加えて日本語の上達にもつながりました。また、短期間ではありますが、AIUの学生としての生活は、とても充実した時間でした。秋田だけでなく、日本全体をより深く理解することができ、このプログラムは私にとって一生忘れられないものになりました。

7 テーマ別ハウス群による24時間リベラルアーツ教育
Themed Houses

キャンパス内には、新入生が入寮する学生寮、2年生以上の学生が入居する学生宿舎があり、交換留学生とともに居住しています。様々な学生が集うキャンパス内で、特定のテーマに基づいた活動をする「テーマ別ハウス群」が、2014年度から導入されています。メンバーは、1学期間の共同生活を行い、テーマに沿ったイベントの企画・運営に取り組みます。2021年度は、オンラインでの活動となりましたが、日本語ハウス、ロシア（スラブ）言語文化ハウスが活発な取り組みをしました。キャンパス内での生活もリベラルアーツ教育の一部ととらえ、日常生活の中でも自らの力を高めていきます。

TOP GLOBAL UNIVERSITY JAPAN

スーパーグローバル大学創成支援事業

国際教養大学は、2014年、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の採択を受け、「日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想」に取り組んでいます。
2020年の中間評価では最高の「S評価」を受けました。

FEATURE 01

すべて英語の少人数授業

High Engagement, All in English

英語による授業科目

100%

英語で考え、意見を主張できる能力を鍛えます

国際教養大学の際立った特長の一つが「すべての授業を英語で開講している」ことです。ただし、本学は「英語を学ぶ大学」ではありません。「英語で学び、英語で考える大学」です。

大切なことは、自分が学びたい分野を見つけ、それを深めていくこと。「知識」を修得した上で、世界を舞台に「自らの言葉」で発信し、行動できる力を身につけることです。英語はそのツールにすぎません。

また、本学は2004年の開学以来、一貫して少人数教育を徹底しており、1クラスあたりの受講者数は16名が平均です。これもまた、教員と学生のコミュニケーションの機会を増やすことにより、自ら考え、意見を主張できる能力を磨いてもらうことを目的としています。

さらに、アカデミック・アドバイジング・システムなど一人ひとりの学生をきめ細かくサポートする体制も整えています。大学が課す厳しい学業基準を達成するたびに、皆さんの自律心、積極性、自信、忍耐力が育まれます。これらは、小さな大学ならではの大きな特長と言えるでしょう。

1科目あたり平均
登録学生数／1クラス

16名

2022年秋学期のデータ

学生数が20名未満
の授業比率

77%

2022年秋学期のデータ

学生数と
専任教員数の比

14:1

2022年9月1日時点

学生数が50名以上
の授業比率

2%

2022年秋学期のデータ

外国人教員の割合

58%

2022年9月1日時点

アカデミック・アドバイジング・システム

学生の学問への探究心を刺激するとともに、学業における壁を乗り越えるための支援を提供する制度です。

学生一人ひとりに本学の専任教員がアドバイザーとして割り当てられており、学業に関する様々な問題について相談し、アドバイスを受けることができます。

例えば、学修計画、専門領域の選択、留学先大学の選択および留学先での履修計画、卒業後の進路など、学生が重要な決定をする際に、アドバイザーと相談しながら、卒業に向けてスムーズに学業を進めることができます。

/ 国際教養大学/Akita International University

>> FEATURE 01 については、動画でもご覧いただけます。>>

カリキュラム Curriculum

就職 / **大学院進学**

AILA 4 応用

卒業 124単位以上

総合セミナー
Capstone Seminar

自発的に行動し、AIUでの学びを通じて獲得した知識とスキルを統合しながら、総仕上げのプロジェクトを完成させます。

リサーチペーパーの執筆

学術的なリサーチペーパー（卒業論文）を執筆するのが基本ですが、コンピュータ・プログラムの作成、地域社会・企業との協働活動の成果なども総合セミナーとして認定されます。

AILA 3 発展

教養専門科目群 P.28–33
Advanced Liberal Arts Courses (ALA)
「学びの軸足」となる領域を選択し、様々な「切り口（分野）」で学びを深めます。

グローバル・ビジネス領域 (GB) / グローバル・スタディズ領域 (GS) / グローバル・コネクティビティ領域 (GC)

留学（1年間）

留学先の決定

自ら定めた学びの軸足（領域）を基に留学先を検討し、決定していきます。国際センターの留学ラウンジや個別相談、留学フェアなどの機会を活用して情報を収集し、自身の目標に最も適した留学先を選択します。

所属領域の選択

英語集中プログラム（EAP）を修了した学生は、幅広い分野の科目を履修しながら、より深く学びたい分野について考え、所属する領域を決定していきます。同時に、AILA 4の総合セミナーで追求する研究テーマについても考え始めます。

※EAPを修了するためには、一定の英語力・成績要件をクリアする必要があります。そのため、EAPの修了時期は学生によって異なり、多くは2年次の春から領域や留学先についての検討を始めます。

AILA 2 成長

教養基盤科目群
Core Liberal Arts Courses (CLA)
幅広い知識とスキルを身につけ、教養専門科目群に進む基盤を築きます。

基礎科目群
Foundation Courses

大学での学び方、より高度な英語力、グローバル社会、キャリア形成など、大学で学ぶための基礎を固めていきます。

AILA 1 基礎

英語集中プログラム P.26
English for Academic Purposes Program (EAP)

英語で大学教育を受けるために必要な学術英語の運用能力を集中的に習得します。

EAPブリッジプログラム
EAPⅢ（上級） EAPⅡ（中級） EAPⅠ（初級）

入学 TOEFL® TEST EAPクラス分けテスト

英語力によって4つのレベルにクラスを編成。自分の実力に合った授業からスタートします。

※AILA: Applied International Liberal Arts（応用国際教養教育）について、詳しくは P.10 をご覧ください。

AILAの学びを深める独自の開講システム

領域＝学びの軸足

グローバル・ビジネス（GB）、グローバル・スタディズ（GS）、グローバル・コネクティビティ（GC）から一つの領域を選択し、それぞれの学問領域に軸足を置いた観点から社会の課題を捉えていきます。

クラスター＝学びの切り口

100, 200番台レベルの外国語などを除く教養基礎科目、教養専門科目は、学びの切り口を示す7つの分野に科目を分類しており、これらをクラスターと呼んでいます。それぞれの科目が、どのような学問領域に深く関わっているかを示すことにより、自身の領域にある学びの切り口を明確化するとともに、他領域のどのような視点を含めて議論するべき科目であるかを意識しながら学修することができます。

クロスリスト科目＝領域・クラスターを横断した学びの機会

「クロスリスト」とは、異なった学問分野にまたがっている本学のカリキュラムにおいて、各領域・クラスターを「横断（クロス）」するように学べるシステムです。例えば、経済やビジネスの分野と環境資源や政策・企業経営との繋がり、政治、メディアとデジタル技術の融合など、分野横断的なテーマや課題の学修において、学問の境界を越えて、多角的な視野で思考し、複数の領域の情報を統合することで、異なる見解を理解し、複雑な課題にも通用する問題解決力を磨きます。また、このクロスリスティングシステムによって、柔軟性に富んだカリキュラムとなり、複数の領域で単位を取得できる科目も多くあります。科目選択の自由度が高くなり、学生は自分の目標や志に合わせて学修を進めることができます。

科目コード / 科目名 / クラスター
ECN344 エコビジネスとサステイナビリティ B S

この科目は、B（ビジネス）と S（サステナビリティ）にまたがる2つのクラスター（切り口）に関連した分野やテーマを取り扱うことを示します。この科目では、哲学、経済学、政治学、科学など複数の学問分野の考え方を組み合わせ、ビジネスが地球の未来とどのように関わっているかを考察します。

学びの切り口（分野）：7つのクラスター

- B **ビジネス**クラスター
- E **経済学**クラスター
- G **グローバル社会**クラスター
- P **政治学と国際関係論**クラスター
- S **サステナビリティ**クラスター
- H **人、文化とコミュニケーション**クラスター
- T **科学技術と社会創造**クラスター

グローバル・ビジネス領域（GB）

B ビジネス クラスター

ビジネスの世界で必須の学問である会計学、資金調達・運用を学ぶファイナンス、顧客のニーズを的確に把握するマーケティング、経営の戦略や組織の問題を扱うマネジメントを学修します。基礎的なコースの段階から専門的な概念の解説はもとより、課題解決のための議論を活発に行い、批判的思考、コミュニケーションの訓練を徹底的に行います。

E 経済学 クラスター

文系・理系の枠組みを超えた人材育成を目指した科目群で構成しています。学生は基礎的な段階からミクロ・マクロ経済学や、統計学の学修と並行してリアルデータの分析や政策評価のケーススタディを行い、専門知識の応用力を身につけます。発展段階にあたる国際経済や環境、開発経済などの専門的なコースでは、そうした能力と最新の研究による知見を融合して、学生の関心を研究可能な水準まで昇華させていきます。

グローバル・スタディズ領域（GS）

G グローバル社会 クラスター

グローバル化の渦中にあって人類は、貧困や格差、人の移動、差別や人権をめぐる諸問題、宗教やイデオロギー、文化に起因する摩擦など、多種多様な問題に直面しています。本クラスターでは、私たちが日々の生活を送る地域社会が抱える問題から、国・地域レベル、さらには文字通り地球規模に広がる問題まで、幅広く網羅しつつ学修します。

P 政治学と国際関係論 クラスター

政治学をはじめ、地理学、歴史学、国際関係論など複数の分野にまたがる多様な科目の履修を通して、日本を含む東アジア、東南アジア、北アメリカ、欧州等の各国の法律や政治制度、国際機関とその役割、日米関係や日中関係等を含む国際関係、地域あるいは地球規模での安全保障問題などについて学修します。

S サステナビリティ クラスター

冷戦終結後の世界では多くの国々や地域がグローバル化や科学技術の進歩により経済発展を遂げましたが、その一方で環境や資源をめぐる様々な問題が深刻化しつつあります。2015年に国際連合が持続可能な開発を目指すべく17のグローバル目標を採択したように、今や人類は持続可能な発展に向けた具体的な行動が求められています。本クラスターでは、持続可能な環境、経済、社会の構築という人類社会につきつけられた重大課題と人類社会の目指すべき姿について多角的に学修します。

グローバル・コネクティビティ領域（GC）

H 人、文化とコミュニケーション クラスター

人文科学分野の科目で構成される本クラスターでは、歴史、文化、芸術をはじめ、広範囲にわたる知識と分析力、ならびに言語やコミュニケーション力の獲得を目指します。日本および世界の文化的、学術的知識を広げ、グローバル社会の背景と異文化への理解を深めます。

T 科学技術と社会創造 クラスター

私たちの働き方やコミュニケーション、情報アクセスや情報処理をはじめとする現代生活におけるデジタルテクノロジーを題材に、様々な科学技術の影響によって生じる社会的、経済的、哲学的な問題を考察します。最先端科学技術による新しいデジタル環境を活用しながら、より豊かな未来社会を創造する方法を探求します。

カリキュラム Curriculum

AILA 1 基礎 → **AILA 2 成長** →

入学 → TOEFL® TEST EAPクラス分けテスト

英語集中プログラム
English for Academic Purposes Program (EAP)
「英語で学ぶための英語力」を養成します。
- EAPブリッジプログラム
- EAPⅢ
- EAPⅡ
- EAPⅠ

P.26

基礎科目群
Foundation Courses
大学での学び方、より高度な英語力、グローバル社会、キャリア形成など、大学で学ぶための基礎を固めていきます。

教養基盤科目群
Core Liberal Arts Courses (CLA)
幅広い知識とスキルを身につけ、教養専門科目群に進む基盤を築きます。

教養専門科目群
Advanced Liberal Arts Courses (ALA)
- グローバル・ビジネス領域 GB
- グローバル・スタディズ領域 GS
- グローバル・コネクティビティ領域 GC

英語集中プログラム 9単位以上（EAPブリッジ・コースを履修する場合は3単位）

クラスレベル	EAPⅠ（9単位）TOEFL ITP® TEST 479点以下	EAPⅡ（9単位）TOEFL ITP® TEST 480点～499点	EAPⅢ（9単位）TOEFL ITP® TEST 500点以上
Reading	◉内容理解力を高める ◉読むスピードを上げる ◉頻出度の高い語彙を使う能力を伸ばす	◉最頻出英単語2,000語をマスターする ◉内容の要点や話の筋を見極める ◉読み物に対する自分の意見や感情を説明する	◉大学レベルの課題に取り組むために必要な語彙力を身につける ◉批評的リーディング技術を磨く
Writing	◉基本的なライティング技術を学ぶ ◉単文の文法を復習する ◉パラグラフを書く練習をする	◉様々なライティングスキル・思考スキルを磨く ◉パラグラフから全体の流れを意識したライティングへ移行する ◉論理的かつ読みやすい文章を書く	◉学術的なエッセイ、長文のライティングに取り組む ◉自己校正の練習やクラスでの意見交換をする ◉適切なスタイル・書き方を選択する
Listening & Speaking	◉公的場面と日常生活でのコミュニケーションスキルを高める	◉より学術的な内容でのコミュニケーションスキルを高める	◉プレゼンテーションやデモンストレーションを行う ◉批判的思考に基づいたディスカッションを行う
Computer Basics	大学の授業に必要なコンピュータを使う能力を育成する		
TOEFL® TEST Preparation	TOEFL® TEST受験の準備をサポートし、テストに含まれる全スキルを向上させる		

EAPブリッジ・コース（3単位）

◉TOEFL ITP® TEST 550点以上
◉英語圏の国で生活した経験がある、または長期間英語で教育を受けたことがある

高い英語能力を有する新入生を対象とした大学教育への橋渡しとなるプログラム

自分自身の文化的アイデンティティについて学び、それを基に大学生活や周りの環境にどう適応するのかについて考えます。
入学後の1学期目に、ブリッジ・コースの他に基礎科目群の中から次の3科目を履修します。

アカデミック・リーディング（3単位）
大学の授業で使われる様々な分野の文献を読みこなすための読解力、スピードを身につける。

英作文Ⅰ（3単位）
1,500語～2,000語の小論文に取り組むなど、大学の授業に必要なライティングの実践スキルを学ぶ。

コンピュータ・リテラシー（3単位）
社会でも役立つコンピュータの基礎知識と運用能力を習得する。

この一覧には、2022年10月31日現在のカリキュラムの科目を記載しています。
最新の開講科目情報はこちらから確認いただけます。

基礎科目群 30単位以上

必修科目

ENG100 英作文Ⅰ
ENG101 アカデミック・リーディング
ENG150 英作文Ⅱと図書館調査手法序論
CCS100 オリエンテーション
CCS140 キャリア・デザイン
CCS160 留学セミナー
IGS200 グローバル研究概論
HPE110, 120, 130, 140, 145 体育実技Ⅰ～Ⅴのいずれか
HPE150 保健体育講義

選択必修科目

CCS120 コンピュータ・リテラシー
CCS125 プログラミング基礎

選択科目

EAP107 英語発音矯正
CCS201 社会探求活動
CCS206, 211 長期社会探求活動 Ⅰ～Ⅱ
CCS240 デザイン思考探求
CCS250 デザイン思考実践

クラスターの凡例

- B ビジネスクラスター
- E 経済学クラスター
- G グローバル社会クラスター
- P 政治学と国際関係論クラスター
- S サステナビリティクラスター
- H 人、文化とコミュニケーションクラスター
- T 科学技術と社会創造クラスター

各クラスターの詳細はP.21をご覧ください。

科目コードとは

科目コードは、科目の分野とレベルを表し、科目選択や段階的な履修を計画しやすくするために国際的に広く用いられているコードです。
（例）ANT150 文化人類学
① ②
①アルファベット3文字…科目の分野
ANT…Anthropology（人類学）
②数字3桁…科目のレベル
100番台:初級 200番台:中級 300番台:上級
400番台:上級（セミナー、一部のPBL科目、上級言語科目等）

教養基盤科目群 31単位以上

教養基盤科目群の科目の履修を通じて、軸足を置く領域を定めるために必要な、幅広い学問分野を学ぶことを要件としています。 青で示した科目は教養基盤科目群と教養専門科目群の両方の要件を満たす科目です。

外国語 6単位以上

CHN100, 200 中国語Ⅰ・Ⅱ
CHN101, 201 中国語Ⅰ実践・Ⅱ実践
FRN100, 200 フランス語Ⅰ・Ⅱ
FRN101, 201 フランス語Ⅰ実践・Ⅱ実践
KRN100, 200 韓国語Ⅰ・Ⅱ
KRN101, 201 韓国語Ⅰ実践・Ⅱ実践
RUS100, 200 ロシア語Ⅰ・Ⅱ
RUS101, 201 ロシア語Ⅰ実践・Ⅱ実践
SPN100, 200 スペイン語Ⅰ・Ⅱ
SPN101, 201 スペイン語Ⅰ実践・Ⅱ実践

社会科学 6単位以上

ANT150 文化人類学 G S H
CCS105 リーダーシップ論
EDU151 教育制度論 G
ENV100 環境科学 S
GEO150 人文地理学 G S
GEO160 自然地理学 G S
HIS101 世界史Ⅰ P H
HIS102 世界史Ⅱ P S H
PLS150 政治学 P
PSY151 心理学Ⅰ H
PSY152 心理学Ⅱ H
SOC150 社会学 G
ANT230 先史考古学と日本人エスニシティ論 H
COM260 報道メディアと文化とイデオロギー H
ECN210 経済学原理ミクロ B E S
ECN230 国際財務管理 B E
GEO220 北アメリカの地理 G
GEO240 東アジアの地理 G
GND200 ジェンダー学概論 G
PLS210 国際関係論 P
PLS220 政治思想概論 P
PLS245 国際法と国際機構 P
SOC280 国際協力・開発論Ⅰ P S
SOC285 地域発展論 G S
SOC290 メディア・リテラシー H
SUS200 持続可能な未来 S
SUS205 サステナビリティ教育 S

人文社会 6単位以上

ART150 美術史 H
ART161 美術実技Ⅰガラス細工 H
ENG102 スピーチ・コミュニケーションの基礎 H
ENG103 グローバルイシュー分析と討議 H
ENG110 英語文学 H
ENG115 叙事詩から始まる文学 H
ENG120 英語学概論 H
ENG121 英語教育教材としての民衆文化 H
ENG170 プロフェッショナル・ライティング H
ENG171 ビジネス現場のデジタル・コミュニケーション H T
ENG172 ニュースの英語 H
ENG175 コミュニケーションと演劇 H T
ENG180 言語学 H
ENG181 社会言語学 H
HUM120 批判的思考とディベート H
PHI150 西洋思想文化 H T
PHI160 東洋思想文化 H
COM250 異文化間コミュニケーション H
ENG200 応用言語学 H
ENG211 世界の英語文学 H
ENG260 クリエイティブ・ライティング H
ENG270 国際ニュースのディベート P H
ENG275 国際ニュースの実践的聴取 P H
HUM230 科学史と科学哲学 H T
HUM260 修辞学 H
MUS230 クラシック音楽の聴き方 H
MUS231, 232, 233 初級ヴァイオリン実技 Ⅰ～Ⅲ
MUS250 生きるための音楽 H
MUS255 マクロ「音楽」学 H
PHI200 理論哲学 H
PHI210 実践哲学 H

日本研究 6単位以上

JAS115 日本伝統文化Ⅰ H
JAS135 日本伝統文化Ⅱ H
JAS150 世界の中の日本 H
JAS200 日本の文学Ⅰ H
JAS201 日本史Ⅰ P
JAS202 日本史Ⅱ P
JAS220 日本の政治 P
JAS225 日本国憲法と法 P
JAS250 日本社会概論 G
JAS275 日本映画Ⅰ H
JAS280 秋田学Ⅰ S
ANT300 人間のあり方と自己：文化人類学の視点から G H
ART300 世界の中の日本美術 H
ECN315 日本金融と実践 B
ECN343 日本のビジネス文化 B
JAS300 日本の文学Ⅱ H
JAS305 日本における宗教 H
JAS310 異文化理解の視点から見る日本の社会と文化 H
JAS325 日本の外交政策 P
JAS352 日本語言語学 H
JAS355 グローバル化する日本の重要課題 H
JAS367 近代日本社会文化史 H
JAS370 現代日本の視覚文化 H
JAS375 日本映画Ⅱ H
JAS376 日本映画Ⅲ H
JAS380 秋田学Ⅱ S
JAS385 遺産観光論 S
JAS395 日本先史考古学演習 H
PLS340 日米関係論 P
PLS362 日中関係論 P

自然科学 4単位以上

CHM100 化学入門
CHM105 化学実験
PHY100 物理学入門
PHY105 物理実験
BIO100 生物学入門 S
BIO105 生物実験 S
BIO205 バイオテクノロジー演習

数学 3単位以上

MAT100 教養数学 T
MAT150 代数学 B E
MAT200 統計学 B E T
MAT240 デジタル世界の数学 T
MAT250 微積分学 B E T
MAT260 線形代数学 B E T

日本語教育副専攻 P.35

次の条件を満たすことにより、副専攻の取得が可能です。
副専攻・必修科目 15単位以上
副専攻・選択科目 12単位以上
履修科目のGPA（成績評価平均点）3.00以上

教職課程※ P.34

TLP110 現代社会の教育基礎論
TLP120 教育心理学
TLP130 教職概論
TLP140 教育課程の理論と実践
TLP150 英語科教育法Ⅰ
TLP160 特別支援教育論
TLP221 教育方法論とICT活用教育
TLP230 生徒指導・進路指導論
TLP240 教育相談
TLP250 英語科教育法Ⅱ
TLP260 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
TLP310 教育実習
TLP330 教職実践演習
※教育実習を除き、卒業単位には含まれません。

GPAとは

履修した科目の成績に評価点を付与し、評価点合計を単位数合計で除する成績評価平均点（Grade Point Average：GPA）を、学業成績をはかる国際的基準として採用しています。

本学の成績の評価法（12段階）

成績（Grade）	成績点（Score）	評価点（Grade Points）
A+	100	4.00
A（Excellent）	95～99	4.00
A−	90～94	3.70
B+	87～89	3.30
B（Good）	83～86	3.00
B−	80～82	2.70
C+	77～79	2.30
C（Satisfactory）	73～76	2.00
C−	70～72	1.70
D+	66～69	1.30
D（Poor）	60～65	1.00
F（Failure）	59 or lower	0.00

GPA（成績評価平均点）の算出方法

履修科目例（Course）	成績（Grade）	評価点（GP）	履修単位数（Crds）	換算値（GP×Crds）
英作文Ⅰ	A	4.00	3	12.00
代数学	C	2.00	3	6.00
言語学	B	3.00	3	9.00
中国語Ⅰ	B	3.00	2	6.00
国際関係論	A	4.00	3	12.00
計			14	45.00

GPA：45.00÷14≒3.21
※小数点第3位以下は四捨五入

カリキュラム Curriculum

AILA 3 発展 → AILA 4 応用

1年間の留学義務 P.44

留学の要件
- TOEFL ITP® TEST 550点相当以上
- GPA（成績評価平均点）2.50以上

教養専門科目群 Advanced Liberal Arts Courses (ALA)

「学びの軸足」となる領域を選択し、様々な「切り口（分野）」で学びを深めます。

グローバル・ビジネス領域	GB	P.28
グローバル・スタディズ領域	GS	P.30
グローバル・コネクティビティ領域	GC	P.32

総合セミナー Capstone Seminar

自発的に行動し、AIUでの学びをじて獲得した知識とスキルを統合しながら、総仕上げのプロジェクトを完成させます。

- 124単位以上
- GPA（成績評価平均点）2.00以上

また、卒業までにTOEFL ITP® TEST 600点相当への到達を目標としています。

卒業 → 就職 / 大学院進学

教養専門科目群 48単位以上

青で示した科目は教養基盤科目群と教養専門科目群の両方の要件を満たす科目です。

右の科目はどの領域にも適用することができます

CHN300	中国語 Ⅲ	FRN301	フランス語 Ⅲ 実践	SPN300	スペイン語 Ⅲ	KRN400	韓国語演習実践
CHN301	中国語 Ⅲ 実践	KRN300	韓国語 Ⅲ	SPN301	スペイン語 Ⅲ 実践		
FRN300	フランス語 Ⅲ	KRN301	韓国語 Ⅲ 実践	CHN400	中国語演習実践		

グローバル・ビジネス領域 GB

MAT150	代数学	B E
ECN205	経済学の数学的方法	E T
ECN210	経済学原理ミクロ ◎	B E S
ECN220	経済データ分析	E T
ECN230	**国際財務管理**	B E
ECN240	国際ビジネス	B
ECN250	経営における意思決定の基礎	B
ECN260	組織行動論	B
ECN270	マーケティング原理	B H
MAT200	統計学 ●	B E T
MAT250	微積分学	B E T
MAT260	線形代数学	B E T
ECN300	マネージメント原理と実践	B
ECN301	金融理論と応用	B
ECN305	経済学原理マクロ ◎	B E S
ECN308	流通論	B
ECN309	国際ビジネスロー	B
ECN310	会計学	B
ECN312	財務会計	B
ECN314	管理会計	B
ECN315	日本金融と実践	B
ECN316	マーケティングと数量分析	B
ECN317	消費者行動	B
ECN318	**グローバル・マーケティング**	B
ECN320	国際貿易論	E
ECN321	産業組織論	E
ECN323	貨幣、銀行と金融市場	E
ECN325	開発経済学	E
ECN327	計量経済学	E
ECN328	中級ミクロ経済学	E
ECN330	企業財務	B
ECN334	戦略的マネージメント	B
ECN337	技術と社会	B T
ECN338	時系列分析	E
ECN339	ファイナンスデータ演習	B
ECN341	人的資源管理論	B
ECN343	日本のビジネス文化	B
ECN344	エコビジネスとサステイナビリティ	B S
ECN347	ポートフォリオマネジメント	B
ECN348	行動ファイナンス	B
ECN353	MBAエッセンシャルズ	B
ECN354	社会的企業論	B
ECN366	中級マクロ経済学	E
ECN367	オープンマクロ経済学	E
ECN368	**環境経済学**	E S
ECN390	企業のサステナビリティ戦略	B S
ECN391	デジタル・マーケティング戦略	B
ECN392	マーケティング・コミュニケーション	B H
GBS303	国境を越えずに国境を超える（AIU-HAN共同科目）	B
MAT300	データモデリング	B T

● グローバル・ビジネス領域必修
◎ グローバル・ビジネス領域選択必修

科目紹介

ECN230 国際財務管理

グローバル展開する企業が円滑に経営を続けていくためには、国際金融市場の動きを正しく理解し、その流れに沿った資金調達や資産運用を行うことが求められます。この科目では、為替先渡取引やオプション契約、借入金融など多国籍企業が財務リスクを回避するのに役立つ様々な概念・理論を学び、その運用手法の修得を目指します。

ECN318 グローバル・マーケティング

ダイナミックに変化し続けるグローバル市場の中で、効果的に顧客へ価値を提供するためには、マーケティング戦略に関わる概念や理論だけではなく、文化的、歴史的、経済的、法的、論理的、そして社会的な問題を認識することも必要となります。この科目ではグローバル市場を様々な角度から調査・分析・評価する手法を学びます。

ECN368 環境経済学

環境汚染や気候変動に対する規制や政策を実施する際、便益（ベネフィット）と費用（コスト）の両方が発生します。環境経済学の講義では、こうしたトレードオフの関係を適切に理解し、環境税や排出権取引などの実際の環境政策について、便益費用分析のフレームワークに則った評価手法を学びます。

グローバル・スタディズ領域 GS

ANT150	文化人類学	G S H
BIO100	生物学入門	S
BIO105	生物実験	S
EDU151	教育制度論	G
ENV100	環境科学	S
GEO150	人文地理学	G S
GEO160	自然地理学	G S
HIS101	世界史 Ⅰ	P H
HIS102	世界史 Ⅱ	P S H
PLS150	政治学	P
SOC150	社会学	G
ECN210	経済学原理ミクロ	B E S
ENG270	国際ニュースのディベート	P H
ENG275	国際ニュースの実践的聴取	P H
GEO220	北アメリカの地理	G
GEO240	東アジアの地理	G
GEO260	都市地理学	G S
GEO270	村落地理学	G S
GND200	ジェンダー学概論	G
HIS210	アメリカ史	P
HIS290	中国近現代史	P
HIS296	朝鮮近現代史	P
HIS297	モンゴル近現代史	P
HIS298	欧州近現代史	P
JAS201	日本史 Ⅰ	P
JAS202	日本史 Ⅱ	P
JAS220	日本の政治	P
JAS225	日本国憲法と法	P
JAS250	日本社会概論	G
JAS280	秋田学 Ⅰ	S
PLS210	国際関係論	P
PLS220	政治思想概論	P
PLS245	国際法と国際機構	P
PLS250	ネーションとナショナリズム	P
PLS260	比較政治論	P
PLS280	アメリカの政治システム	P
PLS285	欧州の政治システム	P
SOC200	社会科学調査法	G P S
SOC280	国際協力・開発論 Ⅰ	P S
SOC285	地域発展論	G S
SUS200	**持続可能な未来**	S
SUS205	サステナビリティ教育	S
ANT300	人間のあり方と自己：文化人類学の視点から	G H
DGT330	人工知能と人類	G T
DGT340	世界のデジタルコミュニティ	G H T
ECN305	経済学原理マクロ	B E S
ECN344	エコビジネスとサステイナビリティ	B S
ECN365	EUの政治と経済	P
ECN368	環境経済学	E S
ECN390	企業のサステナビリティ戦略	B S
ENV320	国際環境科学	S
GEO300	地域多様性論	G
GSS301	人間の安全保障	G P
GSS302	グリーン・エコノミーへの多角的アプローチ（PBL）	S
GSS303	日タイ（秋田・タイ）関係の過去・現在・未来（PBL）	P
GSS304	日本とタイにおける持続可能な地域発展の研究（PBL）	S
GSS307	コミュニティ・サービス・ラーニング	G S
GSS313	国際動態論	G P S
GSS314	世界のエネルギー動向：可能性と課題（産学金連携寄附講座）	S
HIS355	環大西洋米欧交流史	P
IST391	EU学への招待	P
JAS325	日本の外交政策	P
JAS380	秋田学 Ⅱ	S
JAS385	遺産観光論	S
PLS340	日米関係論	P
PLS360	近代中国の政治と思想	P
PLS361	中国の外交政策	P
PLS362	日中関係論	P
PLS363	韓国開発政治論	P
PLS367	東南アジアの政治と社会	P
PLS376	国際組織の法と政治	P
PLS377	国家と市場	P
PLS378	国際安全保障	P
PLS380	国境と人の移動	G P
PLS381	**国際強制移動学**	G P
PLS385	社会運動	G P T
PLS386	政治的コミュニケーション	P H
PLS387	ビジュアル・ポリティクス	P H T
PLS390	アメリカの外交政策	P
PSY310	サイバー心理学	G T
SOC310	グローバル化時代における社会的課題	G
SOC320	西洋における子供観の歴史的変遷	G
SOC325	農村社会学	G S
SOC326	関係人口論（JR東日本寄附講座）	G S
SOC335	国際協力・開発論 Ⅱ	P S
SOC365	中国現代社会	G P
SOC370	マスメディアと社会	G H
SOC371	グローバルメディア	G H
SOC375	今日の台湾	G P
SOC385	ロシア現代社会	G P
SUS300	サステイナビリティ学の経験的概念と方法論	S
SUS310	コンサベーションと持続可能な開発	S
SUS370	サステナビリティ学におけるリモートセンシング技術の応用	S T

科目紹介

PLS381 国際強制移動学

世界では、迫害や紛争、自然災害などの理由でやむを得ず移住を余儀なくされる人々が年々増えています。本科目は、移動を余儀なくされる人々の視点から考えることを重視しながら、その課題と論点を様々な角度から学びます。講義では、「難民」の歴史や法制度を学ぶほか、「国内避難民」や「地中海のボートピープル」、「環境難民」、「ジェンダーと強制移動」などの課題を検討します。また、映像も多く取り入れ、学生のディスカッションも重視しています。

SUS200 持続可能な未来

現在、我々は幾何級数的人口増加に伴い、エネルギー、鉱物、水、食料資源の枯渇といった人類の生存を根本から脅かす課題群に直面しています。さらに気候変動による異常気象の頻発、感染症の拡大なども深刻化し、将来世代の存続を真剣に検討しなければならなくなっています。このような状況に対応すべく国連は17からなる持続可能な発展目標を掲げ、マクロ・ミクロレベルでの対応を各国政府が主体となって取り組んでいます。本科目では持続可能な未来構築に向けて何をどのように理解し、そして何をすべきかを多元的側面から学びます。

グローバル・コネクティビティ領域 GC

ANT150	文化人類学	G S H
ART150	美術史	H
ART161	美術実技 Ⅰ ガラス細工	H
CCS125	プログラミング基礎	T
DGT150	デジタル時代の重要課題	T
ENG102	スピーチ・コミュニケーションの基礎	H
ENG103	グローバルイシュー分析と討議	H
ENG110	英語文学	H
ENG115	叙事詩から始まる文学	H
ENG120	英語学概論	H
ENG121	英語教育教材としての民衆文化	H
ENG170	プロフェッショナル・ライティング	H
ENG171	ビジネス現場のデジタル・コミュニケーション	H T
ENG172	ニュースの英語	H
ENG175	**コミュニケーションと演劇**	H T
ENG180	言語学	H
ENG181	社会言語学	H
HIS101	世界史 Ⅰ	P H
HIS102	世界史 Ⅱ	P S H
HUM120	批判的思考とディベート	H
JAS115	日本伝統文化 Ⅰ	H
JAS135	日本伝統文化 Ⅱ	H
JAS150	世界の中の日本	H
MAT100	教養数学	T
PHI150	西洋思想文化	H T
PHI160	東洋思想文化	H
PSY151	心理学 Ⅰ	H
PSY152	心理学 Ⅱ	H
ANT230	先史考古学と日本人エスニシティ論	H
COM250	異文化間コミュニケーション	H
COM260	報道メディアと文化とイデオロギー	H
COM280	科学コミュニケーション	H T
DGT200	学習と科学技術	T
DGT220	デジタルストーリーテリング	H T
ECN205	経済学の数学的方法	E T
ECN220	経済データ分析	E T
ECN270	マーケティング原理	B H
ENG200	応用言語学	H
ENG211	世界の英語文学	H
ENG260	クリエイティブ・ライティング	H
ENG270	国際ニュースのディベート	P H
ENG275	国際ニュースの実践的聴取	P H
HUM220	英米民衆文化論	H
HUM230	科学史と科学哲学	H T
HUM260	修辞学	H
INF260	情報科学	T
JAS200	日本の文学 Ⅰ	H
JAS275	日本映画 Ⅰ	H
MAT200	統計学	B E T
MAT230	AI、ゲームと数学	T
MAT240	デジタル世界の数学	T
MAT250	微積分学	B E T
MAT260	線形代数学	B E T
MUS230	クラシック音楽の聴き方	H
MUS231～233	初級ヴァイオリン実技 Ⅰ～Ⅲ	H
MUS250	生きるための音楽	H
MUS255	マクロ「音楽」学	H
PHI200	理論哲学	H
PHI210	実践哲学	H
SOC290	メディア・リテラシー	H
ANT300	人間のあり方と自己：文化人類学の視点から	G H
ART300	世界の中の日本美術	H
ART310	科学と芸術の文化史、理論、評論	H T
CCS320	機械学習とビッグデータ	T
COM360	応用語用論	H
DGT300	学習とデザイン	T
DGT320	デジタル時代における意味構築	H T
DGT330	**人工知能と人類**	G T
DGT340	世界のデジタルコミュニティ	G H T
ECN337	技術と社会	B T
ECN392	マーケティング・コミュニケーション	B H
ENG300	グローバルコミュニケーション	H
JAS300	日本の文学 Ⅱ	H
JAS305	日本における宗教	H
JAS310	異文化理解の視点から見る日本の社会と文化	H
JAS352	日本語言語学	H
JAS355	グローバル化する日本の重要課題	H
JAS367	近代日本社会文化史	H
JAS370	現代日本の視覚文化	H
JAS375	日本映画 Ⅱ	H
JAS376	日本映画 Ⅲ	H
JAS395	日本先史考古学演習	H
MAT300	データモデリング	B T
MAT340	詩的プログラミング	T
PHI300	比較哲学	H
PLS385	社会運動	G P T
PLS386	政治的コミュニケーション	P H
PLS387	ビジュアル・ポリティクス	P H T
PSY310	サイバー心理学	G T
SOC370	マスメディアと社会	G H
SOC371	グローバルメディア	G H
SUS370	サステナビリティ学におけるリモートセンシング技術の応用	S T

科目紹介

DGT330 人工知能と人類

ゲームから自動車の運転、癌の診断から犯罪者の有罪判決まで、AI（人工知能）は人々の日常生活や社会でますます重要な役割を担いつつあります。この科目では、AIの情勢と進化、そしてAIがもたらす影響を探ります。「インテリジェンス」とは何かについての哲学的思想に関する文献を読み、考え、議論することから始め、知的活動を実現しうるテクノロジーの検証、そしてこの分野のさらなる進歩への最新アプローチや課題について学びます。

ENG175 コミュニケーションと演劇

コミュニケーションには言語要素と非言語要素が必要です。コミュニケーションと演劇では体験的学習法を用いて環境、社会、文化、言語、デジタルの視点からグローバルなテーマを取り扱います。演劇を体験することによりグローバル市民について学ぶとともに創造的なタスクに協力して取り組むことで、効果的なコミュニケーションが取れる人材を目指します。英語でのコミュニケーションにて、自然に堂々と対応できるスキルを身につけます。

クラスターの凡例

- B ビジネスクラスター
- E 経済学クラスター
- G グローバル社会クラスター
- P 政治学と国際関係論クラスター
- S サステナビリティクラスター
- H 人、文化とコミュニケーションクラスター
- T 科学技術と社会創造クラスター

各クラスターの詳細はP.21をご覧ください。

TOEFL, TOEFL iBT, TOEFL ITP and TOEIC are registered trademarks of Educational Testing Service (ETS). This brochure is not endorsed or approved by ETS.

FEATURE 01

EAP 英語集中プログラム

English for Academic Purposes Program

国際教養大学に入学すると最初に英語集中プログラム（EAP）でアカデミック・イングリッシュを学びます。本学や留学先の大学において、英語で行われる講義を理解し、自らの考えを発信して、論文をまとめるなど、学問を深めていくために必要な英語力を修得します。

教員からのメッセージ

マルコム・シム

英語集中プログラム・外国語教育代表
准教授

グローバルな視点で「世界で通用する英語運用能力」を磨く

国際教養大学では学位取得のための授業はすべて英語で行われることから、高いレベルの英語運用能力が求められます。英語集中プログラム（EAP）は、入学後に学生が経験する最初のプログラムであり、本学での学びが学生にとっての成功体験となるための重要な段階であると考えています。

EAPプログラムの段階における主な目標は、1）大学レベルのリベラルアーツ科目を履修するのに十分な学術的な英語運用能力を身につけること、2）多文化が共生する本学の環境を最大限に生かして、グローバルな視点を身につけることです。また、学生の自己認識を高めることも重要な要素として捉え、EAPの学びを通じて主体的に成長し自身の能力を最大限発揮できるようになることを目指しています。

こうした高い目標を達成するために、学生はEAPの講師陣の指導のもと、論文作成、プレゼンテーション、口頭での詳しい説明や深い議論などの実践的な手法を学びます。国際色豊かな学生コミュニティの一員として、言語的、文化的、そして人格的に優れた能力を発揮していく術を身につけます。

※ここでは、教授からの英文メッセージの日本語訳を掲載しています。

特色 1

学生の力に合わせたレベル分け

入学時の学生の英語能力は一様ではありません。そのため、新入生は入学後すぐ、授業が始まる前に学術的な英語力を測るテスト（TOEFL ITP® TEST）を受けます。EAPでは、このテストの結果を目安に3つのレベル（Ⅰ·Ⅱ·Ⅲ）にクラスを分けて、個々の学生の力に合った教授法により効率よく力を伸ばしていきます。

EAPⅢより高いレベルの英語能力を持ち、一定の条件を満たした新入生は、EAPⅢの履修を免除され、代わりに高校から大学教育への“橋渡し”となる導入教育「EAPブリッジプログラム」で、本学の教養教育で必要となる学習スキルを修得しながら、基礎科目群の特定の科目を履修します。

EAPの進級・修了には、TOEFL® TESTのスコア、各クラスの出席や成績など定められた要件を満たす必要があります。

特色 2

「英語で学ぶ」ための英語を学ぶ

授業は、各レベルともWriting、Reading、Listening & Speakingのコースを中心に構成されており、外国人を中心とした教員の指導のもとで学術的な題材を扱いながら、この4技能を伸ばしていきます（各技能の修得内容やレベルはP.22を参照ください）。技能の向上だけでなく、人文科学·自然科学·社会科学など幅広いテーマの読解や作文、また、各種メディアで話題のトピックや社会情勢等のニュースを題材にしたプレゼンテーションや議論など、内容も重視して実践的に学びます。EAPⅡ·Ⅲの学生は、EAPの他に基礎科目群から1～2科目を履修でき、EAPで学術英語力を修得しながら「英語で学ぶ」ステージに段階的に入ることができます。

EAPを修了する頃には、講義を聴く、ノートをとる、内容を理解してそれをもとに自分で考える、自分が考えたことを発表する、討論する、レポートや論文を作成するなど、大学で学ぶために必要なことが英語でできるようになります。「英語で学ぶ」準備が整い、次のステージである「基礎科目群／教養基盤科目群」の履修へと進み、専門領域の学修に備えます。

特色 3

自らの目標に向かって努力する「自主言語学修」

EAPのカリキュラムには授業の補足として「自主言語学修」が含まれています。例えば、ディスカッションで使用する教材の準備や、授業外に週3時間以上英語で多読することが求められます。このような課題に能動的に取り組むためのサポートとして、言語異文化学修センター（LDIC）（P.38）では、学生が自主的かつ活発に言語学修を進めるために必要な教材や設備を提供しています。さらに、授業の一環として行われる「自己学修プロジェクト」を通し、自分自身の学修に責任を持つ姿勢を身につけ、英語のスキルアップと同時に、言語学修への理解を深めます。この経験は、「教養基盤科目群」で選択する英語以外の外国語科目や留学先の言語の学修など、自主的かつ効果的にLDICを活用し、学びを継続する能動的言語学修者になることへとつながります。

FEATURE 01 すべて英語の少人数授業

学生紹介

松尾 優

（佐賀県／2022年入学）

ある月曜日の１日

6:00	
7:00	起床
8:00	カフェテリアで朝食
9:00	
10:00	寮で予習
11:00	
12:00	カレッジカフェで昼食 ［授業］オリエンテーション
13:00	
14:00	［授業］EAPアカデミック·ライティング
15:00	
16:00	
17:00	自由時間
18:00	図書館で課題
19:00	カフェテリアで夕食
20:00	フットサル
21:00	
22:00	寮で課題
23:00	
24:00	就寝

EAP最後の授業に撮った、先生とクラスメイトとの記念写真（写真の中列左から4番目が松尾さん）

グループワークのメンバーと課題終わりにご褒美アイスを。（写真右端が松尾さん）

時間割・タイムスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00		EAP アカデミック·リーディング		EAP アカデミック·リーディング			
10:00	予習		予習		朝食	朝食	
11:00					自由時間	フットサル	自由時間
12:00	昼食						
13:00	オリエンテーション	昼食	昼食	昼食	昼食		
14:00	EAP アカデミック·ライティング	EAP アカデミック·リスニングとスピーキング	EAP アカデミック·ライティング	EAP アカデミック·リスニングとスピーキング			
15:00					課題		
16:00		コンピューターベーシック					
17:00	自由時間	課題	自由時間				
18:00	課題		アルバイト	フットサル	自由時間	夕食	夕食 予習&課題
19:00	夕食	夕食					
20:00	フットサル	アルバイト		夕食			

本学への志望動機は？

高校時代にドイツへの留学を経験し、日本に帰国してからも外国語に触れながら勉強をしたいと思っていました。すべて英語の授業、1年間の留学が義務という点に惹かれ、AIUを受験しました。一方で迷っていた他大学にも合格し、最後までどちらの大学に進学するか悩んでいました。そんな時にAIUの事務局の方から、「授業は自ら積極的に発言をしなければならないスタイル」だと聞き、そのような環境に身を置くからこそ自分を成長させることができると思い、最終的にAIUを選びました。

特に印象に残ったEAPの授業は？

「EAPアカデミック·リスニングとスピーキング」のディベートでは、日本語で考えてから英語で発言するのではなく、英語で考え英語で発言することを実践しました。ディベートでは、普段の会話で使う英語とは違った単語を使うこともあり、そこが難しくも楽しい、学びが多い授業でした。相手の意見を認め尊重し合うことや、相手へ伝えたいという気持ち自体が重要だと再認識しました。

AIUを目指す皆さんに伝えたいこと

AIUに入学したからといって、自然に英語が話せるようになるということはありません。自分がAIUで何をしたいかを思い描き、また、そのことを忘れずに心の中で保持することで、行動に積極性が生まれ、求めているものが手に入るようになります。その過程には様々な苦労が伴いますが、何度も試行錯誤を繰り返し、一つひとつ乗り越えていくことではじめて成長できるのだと実感しています。

FEATURE 01 GB

グローバル・ビジネス領域

〔教養専門科目群〕Global Business Program

GB領域は、「ビジネス」と「経済学」の2つのクラスターからなります。学生は各自の興味関心に沿って、各クラスターの科目を履修するとともに、総合セミナーにおける研究テーマを絞り込み、最終的な成果物としてリサーチペーパー（卒業論文）を作成します。

ビジネス	クラスター
経済学	クラスター

クラスターの詳細はP.21をご覧ください。

教員からのメッセージ

クリントン・ワトキンス

グローバル・ビジネス領域長
教授

バランスのとれたグローバルビジネス教育で未来へ

グローバル・ビジネス（GB）領域は、ビジネス分野において必要とされる専門知識に加え、リベラルアーツ教育を融合し、一般的なビジネス課程とは一線を画したカリキュラムを提供しています。批判的そして創造的な思考、問題解決のための専門的なアプローチ、コミュニケーションスキル、ビジネスの意思決定の背景にある文化的・歴史的側面の理解を深めることに重点を置いています。これらのスキルは、学生の将来のビジネスキャリアにおける長期的な成長に不可欠なものだと考えているからです。

本領域では、会計、ビジネス文化、経済、金融、法律、経営、マーケティング、定量分析、サステナビリティなど、ビジネス分野の初歩から応用までの科目群を開講し、ビジネスの基礎を築きます。教員は国際的・学際的な視野に立ち、対話型の授業を展開しながら、学生の積極的な授業参加を促します。学生は、多様で豊かな学修環境の利点を生かし、互いの意見から学び合っています。本領域の教授陣は優れた教育者であるとともに、各分野で活躍する研究者です。また、ビジネス分野において豊富な経験を持つ人材も揃っています。

本領域での学びは、学生の将来にどのような影響を与えるのでしょうか。広い視野と職業人としての確固たる基盤を確立した卒業生は、国際競争力を持って、デジタル技術の進歩、グローバル化、環境におけるサステナビリティへの懸念といった将来の大きな課題に斬新な発想で対処していくでしょう。ビジネスは、現代社会と豊かな生活のあらゆる側面に影響を与えています。世の中で下されている経営判断が人や社会にどのような影響を与えるかをよく理解することは、学生自身の将来においてのみならず、豊かな社会を創り上げていくうえでも大変重要です。

※ここでは、教授からの英文メッセージの日本語訳を掲載しています。

創造力、批判的思考力、そしてグローバルな視点を養う

グローバル化の進展により、企業活動は拡大・複雑化の度合いを増しています。変化が加速し、不確実性が増していく現代において、企業が社会に有用な財・サービスを持続的に提供していくためには、ニーズを地域規模、そして地球規模で的確に把握しつつ戦略を策定しなければいけません。本領域では、これに対応すべく経済学およびビジネスを中心に幅広い教育を提供し、創造力、批判的思考力、そして、グローバルな視点を備えた人材を育成します。

総合セミナー　テーマ例

◎都道府県別観光者数の決定要因
◎女性の雇用および結婚行動
◎外資小売業の日本市場進出に関する分析
◎ヘドニック法による文化財の価値評価
◎都道府県・地域別各種犯罪指標の決定要因
◎少子化、人口減少の決定要因
◎タームスプレッドと経済変動との関係

FEATURE 01 すべて英語の少人数授業

学生紹介

吉田　容

（石川県／2019年入学）

ある水曜日の１日

7:00	
8:00	起床 学生宿舎で朝食
9:00	
10:00	［授業］管理会計
11:00	↓
12:00	
13:00	昼食 図書館で予習・復習
14:00	↓
15:00	［授業］国際ビジネス
16:00	↓
17:00	学生宿舎で簿記の勉強
18:00	↓ ウォーキング 学生宿舎で夕食
19:00	
20:00	学生宿舎で自主学習
21:00	↓
22:00	
23:00	
24:00	
1:00	就寝

ペットケアeコマースでのオンライン・インターンシップを経験しました。デジタルマーケティングの授業での学びを実践する貴重な機会となりました。（写真の前列左端が吉田さん）

留学先であるアメリカのジョージ・ワシントン大学で、日本文化クラブに所属していました。（写真の後列左端が吉田さん）

時間割・タイムスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00							
10:00							
11:00	管理会計	簿記の勉強	管理会計	MBA エッセンシャルズ	簿記の勉強	友人とゴルフ	買い出し
12:00		昼食		昼食	昼食		掃除
13:00	昼食	企業財務	昼食	MBA エッセンシャルズ	課題	昼食	昼食
14:00	予習・復習		予習・復習	課題		課題	
15:00							
16:00	国際ビジネス	日本伝統文化Ⅱ：華道、歌舞伎、能と日本舞踊	国際ビジネス	日本伝統文化Ⅱ：華道、歌舞伎、能と日本舞踊			
17:00	簿記の勉強		簿記の勉強	簿記の勉強			
18:00	ウォーキング		ウォーキング		夕食	夕食	夕食
19:00	夕食	夕食	夕食	夕食	アルバイト	ウォーキング 簿記の勉強	簿記の勉強
20:00	自主学習・就職活動準備	学生生活支援プロジェクト	自主学習・就職活動準備	自主学習・就職活動準備		自主学習・就職活動準備	自主学習・就職活動準備

本学への志望動機は？

東日本大震災直後、災害時のペットの悲惨な避難状況を目の当たりにし、そこからボランティア活動を始めました。「動物愛護後進国である日本を発展させるために『自分なりの』貢献の仕方を見つけたい」と考えるようになっていたなかで、AIUのギャップイヤー入試を知り、オープンキャンパスに参加しました。すべて英語の模擬授業を受講したり、在学生の留学体験を聞くことができ、自分の将来の目標のために必要な力を伸ばすために最適な環境だと感じました。また、24時間利用できる図書館や竿燈会の活動など、AIU特有の生活環境に魅力を感じ、受験を決意しました。

特に印象に残ったGBの授業は？

「ECN310 会計学」です。会計学は、単に数字の学習ではなく、その背景にある幾多の人間の関わり合いについての学問です。企業が行っている活動に焦点をあて、異なる業種や業態のビジネスを理解するコミュニケーションツールとして存在する会計学に、面白さを感じました。さらに国や企業によって、会計に対する考え方・基準が異なるという点にも会計学を学ぶ楽しさを感じました。

AIUを目指す皆さんに伝えたいこと

「There is no way around the hard work, embrace it.（努力に逃げ道はない、努力を受せ。）」は、私の尊敬する、2022年に引退したテニス界のレジェンド、ロジャー・フェデラー氏の言葉です。

AIUでは多種多様な学びの機会がある分、自身の探究心を追求して主体的に行動することが大切だと感じます。皆さんにも、楽しんで努力し続ける姿勢を大事にしてほしいです。

FEATURE 01 GS

グローバル・スタディズ領域

〔教養専門科目群〕Global Studies Program

GS領域は、「グローバル社会」、「政治学と国際関係論」、「サステナビリティ」の3つのクラスターからなります。学生は自身の興味関心に沿って、各クラスターの科目を履修するとともに、総合セミナーにおける研究テーマを絞り込み、最終的な成果物としてリサーチペーパー（卒業論文）を作成します。

グローバル社会	クラスター
政治学と国際関係論	クラスター
サステナビリティ	クラスター

クラスターの詳細はP.21をご覧ください。

Dr. Norihito MIZUNO

教員からのメッセージ

水野 智仁

グローバル・スタディズ領域長
教授

混沌の世界を生き抜き、雄飛することを目指して

今や世界は「混沌」の渦中にあるといって過言ではありません。1990年代初頭における冷戦構造の消失は、世界各地に様々な政治社会変動をもたらしました。同時に、インターネット等の科学技術の進歩は、高度情報化社会の出現を促し、人種、民族、宗教、国境などの垣根を超えた人やモノの行き来を地球規模で拡大させました。

一方で、人種や民族、宗教、政治・社会制度に起因する紛争や軋轢が世界各地で繰り返されてきたのも事実です。環境破壊や気候変動、パンデミックといった超地域的な問題が深刻になりつつあるなか、ついにはコロナ禍という地球規模的な危機にも見舞われました。反グローバリズムの台頭や、国際関係の力学的変化も見逃せず、AIの出現とデジタル化の進展は人類社会のありように劇的な変化をもたらしつつあります。

こうしたなか、我ら人類は個人として集団としての生き方を問われているのやもしれません。人がその性ゆえに自身の幸福や富貴を欲するのは当然のこととしても、私利私欲の追求ばかりに専心することを是とするわけにもいきません。渋沢栄一が「社会の一員、国家の一民たる以上、何人も一国一郷に対し我がものであるとの覚悟を持たねばならぬ」と述べたように、我々には社会、国家の成員として、さらには地球社会の責任ある一員としての自覚をもって思考し、行動することが求められているのではないでしょうか。

本領域は、各国・地域の歴史、文化、社会、政治、経済をはじめ、多国家・地域間関係、国際機関・組織の機能と役割、地球規模的諸問題に関する科目を提供し、学際的知見に裏打ちされた思考力と行動力を備え、自国のみならず人類社会に広く貢献できる有為な人材の育成を目指します。

広範な知識に裏打ちされた思考力、文化的感性、分析力を育む

グローバル化を生き抜くためには、広範な知識に裏打ちされた論理的かつ創造的な思考力・発想力を身につけなければなりません。そこで、本領域では学生に対して、各国や各地域の歴史、文化、社会、政治、経済をはじめ、国家間・地域間の関係、国際機関・国際組織の機能と役割、地球規模の現象や問題に関する様々な授業科目を履修することを求めます。学生は、知識の蓄積と深化に努めるとともに、学修活動への積極的参加を通して、従来の発想や価値観にとらわれない柔軟な考察・分析力を磨いていきます。

総合セミナー　テーマ例

◎秋田の地域振興とインバウンド観光
◎中国の台頭と日米安保体制
◎アメリカとカナダにおける多文化主義の比較
◎国籍・帰化に係る各国法制比較
◎外国人労働者受け入れをめぐる日台比較
◎メディアにおける表現規制と表現の自由
◎日本における韓国大衆文化の受容
◎国際環境政策における政府機関と非政府機関の視点
◎持続可能な都市におけるレジリエンス

FEATURE 01 すべて英語の少人数授業

Samuel Kentaro OLIVER

学生紹介

オリバー
サミュエル 健太郎

（鹿児島県／2019年入学）

ある月曜日の１日

9:00	
	起床
10:00	朝食
11:00	図書館で自習
12:00	学生宿舎で昼食
13:00	
14:00	[授業] ビジュアル・ポリティクス
15:00	
	[授業] サイバー心理学
16:00	
17:00	学生宿舎で昼寝
18:00	
	手話サークル
19:00	
20:00	
	手話サークル定例会
21:00	
22:00	学生宿舎でルームメイトと夕食
23:00	課題
24:00	
1:00	手話勉強
2:00	
3:00	就寝

手話部に入部してから約1カ月ほどで部長に就任！コロナ禍ではオンラインでの活動も行っていました。（写真左上がオリバーさん）

学外のシェアハウスに住んでいた時期。ご近所の方と仲良くさせてもらい、毎週のようにご飯をお裾分けしてもらったり、お家に招いてもらったり、クリスマスや誕生日も一緒にお祝いしたりしました。（写真左手前がオリバーさん）

時間割・タイムスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00							
10:00	朝食	朝食	朝食	朝食			
						朝食	朝食
11:00	自習	自習	自習	自習		瞑想	掃除
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	ブランチ	昼食	昼食
13:00						買い物	自習
14:00	ビジュアル・ポリティクス	手話勉強	ビジュアル・ポリティクス	自由時間	体育実技		ドライブ
15:00							
16:00	サイバー心理学	日本伝統文化II：華道、歌舞伎、能と日本舞踊	サイバー心理学	日本伝統文化II：華道、歌舞伎、能と日本舞踊	モルック（フィンランドの野外スポーツ）	フリスビー	
17:00	昼寝	トランスナショナル研究セミナー	昼寝	トランスナショナル研究セミナー	夕食作り	課題	課題
18:00			夕食作り				
19:00	手話サークル	アルバイト		インターンシップ	インターンシップ	知り合いの農家さんとご飯	夕食作り
20:00	手話サークル定例会		手話サークル定例会				プロジェクトミーティング

本学への志望動機は？

高校3年時の担任の先生が秋田県出身で、クラスメイトにAIUを勧めていたことから、AIUを知りました。初めて話を聞いた際、「まさに自分のための大学だ！」と思ったことを覚えています。自分が育った環境から、英語を話すことには抵抗がなかったこと、また、自分の興味関心の分野が定まっていなかったことから、幅広い分野を英語で学べるというところに魅力を感じました。

特に印象に残ったGSの授業は？

「PLS387 ビジュアル・ポリティクス」です。「政治的なテーマを視覚的に1分の映像で伝える」という課題があり、私は関心があった手話をテーマに選びました。秋田に住む知人のろう者の方に直接、動画への出演を依頼し、飲食店を舞台にカメラを回しました。教室、クラスメイト、教員という枠組みを越え、自分自身が主体となって課題に取り組むことができ、達成感のある授業でした。

AIUを目指す皆さんに伝えたいこと

私は高校まで「先生の評価の目」をとても気にしすぎる生徒でした。AIUに入学し、出会った人々と話したり交流したりする中で、他人にどう見られるかで物事を決めるのではなく、自分基準で判断の軸を持てるようになったと感じます。高校生から見るとAIU生は個性派揃いで、高校時代から何かしら特別な活動に取り組んでいた人たちが多いというイメージがあるかもしれません。ですが、「入試のため」にボランティアやインターンシップなどをするのではなく、「自分の成長のため」に「自分が好きだと思えること」に取り組んでほしいと思います。

FEATURE 01 GC

グローバル・コネクティビティ領域

〔教養専門科目群〕Global Connectivity Program

GC領域は、「人、文化とコミュニケーション」、「科学技術と社会創造」の2つのクラスターからなります。学生は自身の興味関心に沿って、各クラスターの科目を履修するとともに、総合セミナーにおける研究テーマを絞り込み、最終的な成果物としてリサーチペーパー（卒業論文）を作成します。

人、文化とコミュニケーション	クラスター
科学技術と社会創造	クラスター

クラスターの詳細はP.21をご覧ください。

Dr. Florent DOMENACH

教員からのメッセージ

フローラン・ドメナック

グローバル・コネクティビティ領域長
ICTコーディネーター
教授

「文系」「理系」の壁を越えて

今、未来への備えとしてどのような教育が求められているのでしょうか。未来を予測するのは難しいことですが、技術の進歩が加速する中、テクノロジーがこれからの社会に及ぼす影響はますます大きくなるでしょう。学生たちが卒業後の人生において成功を収めるには、現在の「文系」「理系」の壁を越えて学ぶ必要があります。

GC領域のカリキュラムでは、最新のデジタルテクノロジーを駆使すると同時に、文化などの人文科学を深く理解し、広範囲にわたる様々な分野を接続させながら学ぶことにより、変化する社会に柔軟に適応・対応できるような学生を育てていきます。人文科学は、テクノロジーと共存する私たちの生活を有意義なものにし、テクノロジーを改めて理解することは、学生たちにとって未来への鍵となるでしょう。

現代社会において、「つながり（Connectivity）」のデジタル化と常態化、そしてオートメーション、人工知能（AI）の台頭に代表されるようなデジタルテクノロジーの急速な進歩は、私たちに難しい問いを突きつけます。「新しい技術と関係性から恩恵を受けるのは誰か？」「誰が取り残されるのか？」「どのようにして人間の価値観に基づいた社会を形成することができるのか？」「人間の判断をどの範囲までAIに置き換えるべきか？」本領域ではこのような答えのない疑問に対して、人文科学とテクノロジーのつながりの探求というアプローチから、考察を深めていきます。

批判的思考、論理的分析、文化理解だけでなく、効果的なコミュニケーションによるクリエイティブな課題解決力は、生涯に渡る学びの土台を作るでしょう。本領域で学生は、個々の人生、地域社会、そして世界において、有意義かつ持続可能な影響を与えるために必要な知識とスキルを修得します。

※ここでは、教授からの英文メッセージの日本語訳を掲載しています。

人、文化とコミュニケーションと最先端技術に関連する科目群を通して、両者における接続性（コネクティビティ）を学ぶ

人類は有史以来、言語やコミュニケーション手段を発達させながら多様な文化を育んできました。一方で近年はデジタルテクノロジーやAI、ビックデータ等、各種技術の飛躍的な発展が私たちの生活や社会に大きな変化をもたらしています。

本領域では、文化や文学、哲学といった生きることの意味や価値を追求する人文科学と、私たちの現代社会に急速に浸透しつつあるAIや最先端技術を同じ土俵で学修します。分野の違うこれらの科目を接続させながら学ぶことにより、ますます発展するであろう各種技術が私たちの日常生活、政治、経済に及ぼす影響を多角的な視点で分析し、それらをどのように活用してこれからの社会を創造していくのかを洞察する力を身につけます。

総合セミナー　テーマ例

◎ **心と機械**
AI技術の発達が示唆する、ヒトの心と意識

◎ **AI構築**
ディープラーニングを使用したアブストラクトゲームの簡易AIエンジン開発

◎ **顔認証技術とマイノリティ**
AIと、社会に潜在する偏見についての考察

◎ **言語の未来**
自動翻訳技術の進歩が言語学習に与える影響

◎ **科学と芸術**
折り紙の工学的応用を題材とした科学と芸術の創造的な相互作用

◎ **デジタル時代の学び**
学習と遊びの理論の実践、検証及び発展を目的としたデジタル及び非デジタルメディアの設計

Madoka ISAWA

学生紹介

井澤 円花

（京都府／2020年入学）

ある月曜日の１日

7:00	
8:00	起床 学生宿舎で朝食 自主学習・課題
9:00	
10:00	[授業] 英作文IIと図書館調査手法序論
11:00	
12:00	学生宿舎で昼食
13:00	
14:00	[授業] 統計学
15:00	
16:00	自主学習・課題
17:00	[授業] 保健体育講義
18:00	学生宿舎で夕食
19:00	
20:00	[授業] 特別支援教育論
21:00	クラブ活動
22:00	宿舎で自主学習・課題
23:00	
24:00	就寝

EAPで一緒だった同期とは、グループワークやディスカッションを通して切磋琢磨できる仲間となりました。（写真左から5番目が井澤さん）

留学先のアメリカ・ケンタッキー大学の仲間と。留学中は異文化交流を通して新たな価値観や考え方を学ぶことで成長できた1年でした。

時間割・タイムスケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00	自主学習・課題	異文化間コミュニケーション	自主学習・課題	異文化間コミュニケーション	自主学習・課題	朝食	朝食
10:00	英作文IIと図書館調査手法序論	英語学概論	英作文IIと図書館調査手法序論	英語学概論		自主学習・課題	友人と秋田散策
11:00							
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食		
13:00					自主学習・課題	昼食	友人と昼食
14:00	統計学	グローバル研究概論	統計学	グローバル研究概論	キャリア・デザイン		
15:00						アルバイト	自主学習・課題
16:00	自主学習・課題	自主学習・課題	自主学習・課題	自主学習・課題	買い物		
17:00			保健体育講義				
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食		
19:00		教育心理学		教育心理学	自主学習・課題		夕食
20:00	特別支援教育論	自主学習・課題	特別支援教育論	自主学習・課題		夕食	自由時間

本学への志望動機は？

日本にいながら英語でリベラルアーツ教育を受けられる点に惹かれ、AIUへの進学を決めました。私は高校での進路選択の際、将来自分が何をしたいかはっきりと分からない中、大学での学びを一つの分野に絞ることに抵抗がありました。そのため、文理問わず、幅広い分野を学べるAIUのカリキュラムは非常に魅力的でした。また、英語で学び、考え、意見を発信する力が養えるAIUは将来、英語をツールとしてグローバルに活躍したい私にとって、必要な力が身につけられる場所だと思いました。

特に印象に残ったGCの授業は？

「JAS200 日本の文学 I」です。日本の文学作品を英語で読み、その奥深さについて英語でクラスメイトとディスカッションできるところが魅力です。二葉亭四迷の『浮雲』や志賀直哉の『城の崎にて』といった名作を英語で読むことで、原文と英訳の表現の違いなど、日本語で読む時とは違う面白さがありました。文学作品に対する考えを日本語では言語化できても、英語では上手く伝えられない時は、留学生の回答から、自分の考えを的確に伝えるための英語表現を学んでいました。

AIUを目指す皆さんに伝えたいこと

AIUの魅力は自分の「学びたい」が叶う環境が整っていること、また、AIU独自のコミュニティにあると感じます。幅広い分野のテーマを取り扱う授業が開講されているため、大学に入学して、新たに学びたいと思った分野の授業に出会えると思います。加えて、AIUには自分では考えつかないような活動をしている学生が多くいて、そんな仲間の姿勢から日々刺激を受けています。学生同士が互いの挑戦を応援し合えるとてもあたたかいコミュニティです。

FEATURE 01

教職課程

Teacher's License Program

教職課程は、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得するためのプログラムです。学習指導要領では、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」ことが目標として掲げられています。目標達成のために、英語教員には高度で実践的な英語力と指導力が求められています。教職課程では、本学独自のカリキュラムや必修の留学を通して身につけた高い英語力と幅広い知識、国際感覚、そして教育者としての専門性をもった、次代の英語教育をリードする教員を養成します。

教員からのメッセージ

眞壁 聡子

教職課程代表
教授

日本の英語教育をリードする第一級の英語教員を目指して

本学での学修をもとに、更なる可能性を求めて世界に飛び出していく皆さんは、英語運用能力や課題解決能力においても、日本の英語教育界をリードする人材であることは間違いありません。教育は人を成長させ、社会を変え、世界を発展させる営みであり、人類に平和をもたらす崇高な使命をもっています。人に寄り添い、正しく教え導き、育てていくためには、まずは自分を成長させることが求められます。切磋琢磨しながら、理想とする教育者への道をともに歩みましょう。

特色 1 自ら学ぶ、みんなで学ぶ

少人数教育の特色を生かし、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを通して、互いに学び合い、自分の意見を発表して議論するなど、教員となる際に役立つ実践的なカリキュラムが用意されています。そして、学校や子どもたちを取り巻く様々な事象や課題について、理論と実践の両面から学びます。

特色 2 夢の実現に向けてサポート

本学では、卒業までにTOEFL® TESTや留学などいくつものチャレンジがありますが、教職課程履修者にはさらにもう一つ、教員免許の取得というチャレンジが加わります。教職課程では「履修カルテ」や「教育実習ガイダンス」などによる履修指導と、専任教員によるきめ細かな個別アドバイスによって、一人ひとりに対して丁寧にサポートする体制を整えています。

教職課程の流れ

1年次	2年次	3年次	4年次
オリエンテーション → アドバイジング →	教育実習事前ガイダンス（全4回）		教育実習事後ガイダンス
教職課程科目の履修（70単位）			
履修計画の立案～履修。留学中（4年卒業の場合は2年次冬から3年次秋）は教職課程科目の履修はできません			
教育実習申込 → 春		教育実習 → 春（2週間） / 教員採用試験 → 7～9月 / 免許状申請 → 卒業申請時	

→ 教員免許状の取得

※ 図は4年卒業の学生の場合の目安です。 ※教職課程科目の一部（23単位程度）は卒業単位には含まれません。 ※ 留学時期や教職科目以外の科目の履修状況によっては、4年間で卒業することができない場合があります。

学生紹介

土方 眞佑子

（東京都／2020年入学）

教職課程ではどんなことを勉強しますか？

教職課程では、日本の教育制度や学校教育といった理論的なことから、学習指導案の作成や模擬授業の実施など実践的なことまで、教育にまつわることを網羅的に学びます。生徒の立場でしか見たことのなかった学校という場を外側から見ることで、人に「教え」、人を「育てる」ということを学びます。

AIUを目指すみなさんに伝えたいこと

異なるバックグラウンドや考え方を持つ人たちと、「教育」について、自らの経験を振り返りながら学び合うことで、今までの「当たり前」が当たり前でなかったことに気づくことができるのが、AIUの教職課程の魅力です。また、留学先での様々な国・地域の学生との出会いから、日本の外国語教育を考える上での新たな視点を得ることもできます。そんなAIUでともに学び、教育に関する多角的な視点をもった思考力を養うことができます。

FEATURE 01

日本語プログラム

Japanese Language Program

日本語プログラムでは、日本語の運用能力を高め、日本文化への理解を深めるために、世界各地から集まった留学生たちが学んでいます。正規学生でも、日本語を母語としない場合は、日本語クラスの履修が可能です。

教員からのメッセージ

阿部 祐子

日本語プログラム代表
教授

日本語で世界とつながろう！

国際教養大学は、世界各地から約200名の留学生を受け入れており※、日本語を全く使えない初心者から上級レベルまでの学生が、レベル別に日本語を学んでいます。留学生の専攻分野は様々で、必ずしも日本語を専門に勉強している学生ではありませんが、皆一様に日本での生活や文化に強い関心を持っており、学内外での活動にも積極的に参加する学生が多くいます。

留学生との異文化交流を期待して入学する正規学生も多いと思います。留学生は、英語で開講される日本研究、ビジネス、国際関係などの授業を、正規学生とともに履修しますし、学生寮や学生宿舎での共同生活、クラブ・委員会活動などを通しても、相互に学ぶことのできる多くの異文化交流空間が提供されています。

日本語プログラムでは、日本語を通して日本社会や文化についてともに学べるような留学生と正規学生との交流の場を多く作り出しています。異なる習慣や価値観を持つ人々が、円滑にコミュニケーションを取れるようなお手伝いをしたいと思っています。

※平常時

特色 1 レベルに応じたクラス編成

経験豊富な教授陣による少人数クラスで、学生の日本語能力に応じ初級から上級まで11のレベルに分けられています。総合的に日本語を学ぶクラスから、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」など、個別のスキルアップに重点を置くクラスまで、学生のニーズに応じた多彩な科目を提供します。地域の学校との交流や様々な日本の伝統文化が残る秋田を探訪するフィールド・トリップを取り入れるなど、生きた日本語と文化を学べるカリキュラムです。

特色 2 日本語教育副専攻

日本人にとって母語である日本語を、外国語として教える方法を学ぶことにより、言語や文化に対する視野が広がります。また、日本語会話パートナーなどを通じて、日本語を学ぶ留学生との交流を深めることができます。日本語教育に関心がある学生や、将来、日本語教師を目指したい学生は、「日本語教授法」、「日本語学概論」など、所定の科目を履修することで、「日本語教育副専攻」を修めることができます。

FEATURE 01

日本研究プログラム

Japan Studies Program

日本研究プログラムでは、「日本」について様々な視点から学びます。世界各地から訪れる留学生と意見を交わしながら学ぶことで、日本への理解を一層深めることができます。このプログラムは文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の採択を受け、さらに充実させていきます。

特色 1 日本について英語で学ぶ

日本を専門に研究する教授陣が、様々な解釈を通して異なる視点から、日本についてより深く理解する機会を提供します。自分が育った国について英語で学ぶことは、他国の人々とコミュニケーションを図る場面で、自信を持って自分の考えを表現することにつながります。

特色 2 多様な科目

日本研究では何についてどのように学ぶのでしょうか。伝統文化である華道・茶道から日本の大衆文化、歴史、政治経済、地域研究、映画、アニメまで、多様な科目が開講されています。また、教室での座学だけではなく、実践やフィールド・トリップなど体験型授業も交えて学びます。

茶道の授業

特色 3 留学生とともに学ぶ

「日本人らしさとは？」「なぜ世界最高峰のアニメーションの多くが日本から生まれるのか？」世界各地からの留学生たちと様々なテーマについて英語で議論を繰り広げられるのは、国際教養大学ならではの体験です。異文化で育ったクラスメイトとともに学ぶことで、多様な価値観に対する理解力を互いに深め、文化を超えた友情とネットワークを築くことができます。

中嶋記念図書館 Nakajima Library

24時間365日開館の図書館

開館時間
在学生・教職員／24時間（365日利用可能）
高校生カード利用者／午前6時～午後10時（365日利用可能）
一般利用者／平日：午前8時30分～午後10時
土日・祝日・長期休暇期間：午前10時～午後6時
（※年末年始期間を除く）

※開館時間は変更される場合があります。最新情報は大学ウェブサイトをご確認ください。

国際教養大学の図書館は眠ることがありません。

学生たちの学ぶ意欲に応え、いつでも、時間の制約なく勉強に集中できる環境を提供しています。

「本のコロセウム」をテーマに「本と人との出会いの場となる劇場空間」としてデザインされたこの図書館は、24時間365日、学生たちが本と向き合い、勉学に打ち込む「知の闘技場」でもあるのです。

美しい秋田杉と伝統技術を生かした傘型屋根が織りなす落ち着きと安らぎのある空間で、学生たちは、ともに学ぶ仲間の姿に刺激されながら、深夜まで勉強に励んでいます。

図書館の呼称「中嶋記念図書館」は、中嶋嶺雄初代学長の本学創設・発展への功績を称えたものです。「24時間の開館」は、中嶋初代学長の「いつでも勉強できる場を提供したい。」という強い思いから実現しました。

応用国際教養教育を支えるハイブリッド図書館

Hybrid Library

所蔵資料数 （2023年4月1日現在）

◎図書／85,498冊（洋書：52,828冊、和書：32,670冊）
◎雑誌／228タイトル（洋雑誌：122タイトル、和雑誌：106タイトル）
◎視聴覚資料／3,753点
◎電子書籍／約460,000タイトル
◎電子ジャーナル／約9,500タイトル
◎データベース／5種類

中嶋記念図書館は、洋書を中心とした紙媒体やデジタル媒体の資料で構成されるハイブリッド図書館で、国際教養大学の応用国際教養教育を支える「知の拠点」です。とりわけ、デジタル媒体の資料のほとんどは英語の学術情報であり、国際的に高く評価されているものを収集・採用しています。これらは、海外の大学生と同等のリサーチ能力と論文執筆能力を身につけることを目的に提供されています。

学生は、本学が提供するデジタル媒体の資料にいつでも、世界中のどこからでもアクセスすることが可能です。また、オンラインのディスカバリーサービスや引用文献情報検索ツールを利用することで、学修に必要な情報をすばやく適確に得られます。図書館ではこのようなデジタル資料の利用方法を紹介するワークショップや、学生からの質問に答えるレファレンスサービスもオンラインで実施し、DXの時代にふさわしい学修支援を行っています。

本学の図書館は、建築家 仙田 満氏（東京工業大学名誉教授）の設計で村野藤吾賞、日本建築家協会賞、国際建築賞2010、グッドデザイン賞、他多数の賞を受賞しております。

GOOD DESIGN

2013年6月、国連寄託図書館に認定されました。

能動的学修センター（ALC） Active Learning Center

能動的学修センターは、学生の自律学修と自己効力感の育成を支援することを目的とし、外国語、異文化、コミュニケーションについての自律学修を支援する言語異文化学修センター、ピア・サポートにより学修能力向上を支援する学修達成センター、大学院進学を支援するアカデミック・キャリア支援センター、数理的能力の強化を支援する超域学修ルームで構成されています。

LDIC 言語異文化学修センター
LDIC: Language Development and Intercultural Studies Center

言語異文化学修センターは、外国語、異文化、コミュニケーションについての自律学修を支援する施設です。英語をはじめ多数の外国語に関する豊富な教材と充実した設備を整え、外国語会話パートナープログラムなど留学生との交流もサポートします。

充実した学修設備

施　設

多目的ルーム
（マルチメディア機能付きグループ学修用）……6室
スピーキングルーム
（リスニング、スピーキング、発音の練習が可能）……12室
DVDブース……12席
オープン学修スペース……22席
学修ブース……4席
リーディングラウンジ……24席

外国語会話力の向上をサポート

外国語会話パートナープログラムを通して、世界各国から集まっている留学生と様々な言語※で会話を楽しみながら、お互いの文化について理解を深めることができます。

※英語、スペイン語、フランス語、中国語、韓国語、ロシア語 など

ワークショップ・イベント

毎学期、学生を対象に高い英語運用能力の修得を目的として、ゲストスピーカーや教員によるワークショップ、学生主導による学修活動を実施しています。

外国語の自律学修をサポート

LDICでは、英語集中プログラム（EAP）や外国語実践科目を履修する学生をはじめ、留学など様々な目的で外国語の習得を目指す学生が利用できる教材を数多くそろえています。英語多読用教材Xreading、24カ国語の会話を学べるRosetta Stone®は、オンラインでどこからでも利用することができます。

豊富な学修教材

DVD、ミステリーなどの小説、旅のガイドブック、語学検定試験対策本など、英語を主とした43言語※にわたる様々な媒体の教材を取り揃えています。自分のレベルや目的に合った教材を選び学修できます。

※アラビア語、イタリア語、インドネシア語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、広東語、カンボジア語、ギリシャ語、クロアチア語、スウェーデン語、スペイン語、スロバキア語、スロベニア語、スワヒリ語、タイ語、台湾語、タガログ語、タミール語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トルコ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒンディー語、フィンランド語、フランス語、ベトナム語、ヘブライ語、ポーランド語、ポルトガル語、マルタ語、マレー語、モンゴル語、ラテン語、ラトビア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語

LDICの開館時間については、
大学ウェブサイトでご確認ください ➡

IFR 超域学修ルーム（インフィニティルーム）
IFR: Infinity Room

「応用国際教養教育」を掲げる本学では、文系・理系を問わず様々な学問分野について、横断的な学修を深めていきます。とはいえ、数学を始めとした理系科目に苦手意識を持つ学生がいるのも事実。このインフィニティルームは、学生が対面・オンラインを問わず自由に出入りし、数学を「体感」して楽しむことができる実験的なスペースです。学生の好奇心を満たしてくれる遊び心満載のこの空間は、数学を入り口に、学生たちをSTEM科目（科学、技術、工学、数学）の分野へと誘い、バランスのとれたリベラルアーツ教育を充実させます。

リーディングラウンジ

スピーキングルーム

オープン学修スペース

AAC 学修達成センター
AAC: Academic Achievement Center

学修達成センターは、チューターとなる学生が、他の学生を個別学修支援するピア（仲間）・サポートの場です。AACでは、学生の学業における能力を伸ばすだけでなく、主体的に学ぶ力を引き出すことも目的としており、不得意な分野だけではなく、得意な分野においてもさらに力を伸ばせるよう、個々の学生の目標達成に向けて丁寧にサポートします。

チューター

研修を修了した大学院生、学部生がチューターとなり個別学修支援を行います。約 20 名のチューターがサポートします。

集中ワークショップ

個別学修支援のほかに、ライティング、TOEFL ITP® TEST、プレゼンテーションなどの分野について、チューターがワークショップ形式で集中的にアドバイスを行います。

個別学修支援

個別学修支援は、事前の予約により、1回 60 分、週 2 回まで受けられます。

［サポート分野］
○アカデミック・ライティング　○アカデミック・リーディング
○アカデミック・プレゼンテーション
○TOEFL ITP® TEST、TOEFL iBT® TEST
○IELTS™リーディング・ライティング　○日本語科目（留学生対象）
○教養数学、代数学、微積分学、統計学　○生物学

ACSC アカデミック・キャリア支援センター
ACSC: Academic Career Support Center

アカデミック・キャリア支援センターは、大学院進学を検討、予定している学部生に対し、進学相談、ワークショップ、特別講演などを通じて、分野・地域横断的に国内外の大学院および専門職大学院への進学をサポートします。

サポート内容、大学院合格実績および大学院進学者の声はP.63をご覧ください。

教員紹介 Faculty Members

学長／教授［スリランカ］
モンテ・カセム
Monte CASSIM
修士／東京大学

副学長／教授／国際交流部長［日本］
熊谷 嘉隆
Yoshitaka KUMAGAI
博士／オレゴン州立大学

副学長［日本］
磯貝 健
Ken ISOGAI
修士／コーネル大学

国際教養学部 国際教養学科 教員一覧

英語集中プログラム（EAP）

学部長／教授［アメリカ］
パトリック・ドーティ
Patrick DOUGHERTY
博士／ノーザンアリゾナ大学
教育、応用言語学

准教授［アメリカ］
カルロス・バディング
Carlos BUDDING
修士／ジョージメイソン大学、ギャローデット大学
第二言語教育

学生部長／准教授［日本］
長沼 奈絵子
Naeko NAGANUMA
修士／セントクラウド州立大学
応用言語学、英語教育学

英語集中プログラムコーディネーター／
助教［イギリス］
ジェイムズ・リード
James REID
修士／エセックス大学
教育心理学

講師［イギリス］
リー・ベネット
Leigh BENNETT
修士／キングス・カレッジ・ロンドン
アカデミック・ライティング

特任講師［イギリス］
レベッカ・クレッグササキ
Rebecca CLEGG-SASAKI
修士／国際教養大学
EAP

英語集中プログラム・外国語教育代表／
准教授［オーストラリア］
マルコム・シム
Malcolm SIM
博士／マッコーリー大学
応用言語学

准教授［アメリカ］
ジョエル・フリードリック
Joel FRIEDERICH
芸術学修士／モンタナ大学
クリエイティブ・ライティング、詩

助教［カナダ］
マーク・ディボア
Mark DE BOER
修士／バーミンガム大学
内容言語統合型学習、実践、文章完成法、評価

助教［カナダ］
ミゲル・ソーサ
Miguel SOSA
修士／コロンビア大学、オタワ大学
言語学、音楽学

講師［アメリカ］
ブライアン・ハーン
Bryan HAHN
修士／ロヨラ・メリーマウント大学
第二言語としての英語教授法、人類学

特任講師［日本］
十川 祐希
Yuki TOGAWA
修士／カーネギーメロン大学
第二言語習得と教授法（ESL&JSL）

教授［日本］
荒木 直子
Naoko ARAKI
博士／メルボルン大学
外国語教育、演劇教育学、カリキュラムと教育法

准教授［アメリカ］
リー・フリードリック
Lee FRIEDERICH
博士／ワシントン大学セントルイス
現代日本女性詩、英語文学

助教［アイルランド］
イアン・ハーリー
Ian HURLEY
博士／ダブリン市立大学
EAP、応用言語学、言語学、教育学

助教［日本］
田金 雄一
Yuichi TAGANE
修士／国際教養大学
第二言語ライティング、学業における不正行為

講師［イギリス］
ジョー・サイクス
Joe SYKES
修士／シェフィールド・ハラム大学
教育学

外国語教育

教授［中国］
陳 風
Feng CHEN
修士／東京外国語大学
日本語学、中国語学、日中対照研究

講師［日本］
中田 俊介
Shunsuke NAKATA
修士／エクス=マルセイユ第一大学、東京外国語大学
フランス語音声学、音韻論、音声教育

准教授［韓国］
邊 姫京
Hi-Gyung BYUN
博士／東京大学
音声学、日韓対照研究、韓国語教育

助教［韓国］
崔 壯源
Jang-Won CHOI
博士／広島大学
音声教育方法

各教員の詳細については、こちらをご覧ください。

◎職位 ◎出身国・地域 ◎氏名 ◎学位 ◎研究所属分野 の順で記載

教養専門科目群 グローバルビジネス領域（GB）

グローバル・ビジネス領域長／
教授［オーストラリア］
クリントン・ワトキンス
Clinton WATKINS
博士／西オーストラリア大学
金融

助教［香港］
杜 文媞
Wenti DU
博士／クレアモント大学院大学
マクロ経済学、国際経済学、国際金融

特任教授［日本］
江原 晴郎
Haruo EBARA
修士／慶応義塾大学
企業財務管理の意思決定理論

客員教授［日本］
齋藤 弘
Hiroshi SAITO
修士／ジョンズ・ホプキンス大学
グローバル下の日本金融・政治の現状と課題

客員教授［日本］
山内 麻理
Mari YAMAUCHI
博士／慶応義塾大学
ビジネス手法による社会課題解決の実践

准教授［日本］
俵 典和
Norikazu TAWARA
博士／シカゴ大学
労働経済学、マクロ経済学、経済成長論

助教［韓国］
スンキュー・リー
Sungkyu LEE
博士／高麗大学
マーケティング戦略

特任教授［アメリカ］
アンドリュー・サター
Andrew SUTTER
法学博士／カリフォルニア大学
ディグロース、比較法、応用哲学

客員教授［日本］
笹渕 一史
Kazushi SASABUCHI
修士／アーサーDリトル経営大学
（現 ハルト・インターナショナル・ビジネススクール）
経営組織論、マクロ経済政策、金融経済

客員准教授［日本］
小原 祥嵩
Yoshitaka OHARA
修士／大阪府立大学
雇用制度や教育訓練制度の国際比較、
制度的補完性

准教授［日本］
中川 秀幸
Hideyuki NAKAGAWA
博士／カリフォルニア大学バークレー校
応用ミクロ経済学

助教［タイ］
スパルーク・サファイトゥーン
Suppaleuk SARPPHAITOON
博士／クレアモント大学院大学
日本経済、金融、高齢化社会

客員教授［日本］
隈本 純
Jun KUMAMOTO
博士／国際基督教大学
マーケティング

客員教授［日本］
山岡 三四郎
Sanshiro YAMAOKA
修士／スタンフォード大学
マネジメント、リーダーシップ、企業分析

教養専門科目群 グローバルスタディズ領域（GS）

グローバル・スタディズ領域長／教授［日本］
水野 智仁
Norihito MIZUNO
博士／オハイオ州立大学
近世・近代日本の東アジア交流史

准教授［アメリカ］
ケビン・ハックムス
Kevin HOCKMUTH
博士／テンプル大学
政治経済学、開発論、韓国研究

准教授［日本］
名取 洋司
Yoji NATORI
博士／ウィスコンシン大学マディソン校
生物多様性保全、SATOYAMA、自然資本

准教授［アメリカ］
ノア・ケオネ・ヴィエルネス
Noah Keone VIERNES
博士／ハワイ大学マノア校
政治理論

助教［日本］
竹本 周平
Shuhei TAKEMOTO
修士／東京外国語大学
米露関係、米露核軍備管理、国際安全保障

客員教授［日本］
古川 英治
Eiji FURUKAWA
修士／オックスフォード大学大学院
国際関係、ロシア・東欧、ジャーナリズム

教授［韓国］
キ・ドゥ・ヒョン
Ki Deuk HYUN
博士／テキサス大学オースティン校
メディア研究

准教授［日本］
堀井 里子
Satoko HORII
博士／サセックス大学
人の移動をめぐる政治制度（主にEU）

准教授［日本］
大森 久子
Hisako OMORI
博士／マクマスター大学
文化人類学、宗教学

助教［台湾］
陳 宥樺
Yu-Hua CHEN
博士／オーストラリア国立大学
台湾研究、中国研究、国際関係論

特任教授［日本］
増田 達夫
Tatsuo MASUDA
学士／ケンブリッジ大学
気候変動・エネルギー、技術、歴史・地政学

客員教授［日本］
石川 薫
Kaoru ISHIKAWA
学士／東京大学
人間の安全保障、人道支援、国際経済

教授［日本］
豊田 哲也
Tetsuya TOYODA
高等研究学位（DEA）／パリ第2大学
国際法、国際組織

准教授［日本］
工藤 尚悟
Shogo KUDO
博士／東京大学
サステイナビリティ学、開発学、地域づくり

准教授［日本］
楫本 歩美
Ayumi SUGIMOTO
博士／東京大学
環境社会学、農村社会学、コミュニティ研究

助教［イギリス］
ルーク・ディリー
Luke DILLEY
博士／ニューカッスル大学
農村研究、農村社会学

特任准教授［アメリカ］
シグ・ランエガー
Sig LANGEGGER
博士／コロラド大学デンバー校
都市の公共空間

客員教授［アメリカ］
パトリック・ショーブ
Patrick SHORB
博士／プリンストン大学
歴史、教育学

※この一覧には、2023年4月1日現在の専任教員、特任教員、客員教員を記載しています。

教員紹介 Faculty Members

国際教養学部 国際教養学科 教員一覧

教養専門科目群 グローバル・コネクティビティ領域（GC）

学科長／教授［イギリス］
アンディ・クロフツ Andy CROFTS
博士／ヨーク大学
細胞生物学、科学教育

グローバル・コネクティビティ領域長／ICTコーディネーター／教授［フランス］
フローラン・ドメナック Florent DOMENACH
博士／パリ第一大学パンテオン・ソルボンヌ
データマイニング、プログラミング教育

教授［ハンガリー］
アティラ・エグリナギ Attila EGRI-NAGY
博士／ハートフォードシャー大学
計算機代数、人工知能、数学教育

教授［日本］
奈良 寧 Yasushi NARA
博士／北海道大学
原子核理論

准教授［日本］
千葉 加恵子 Kaeko CHIBA
博士／ブリストル大学
社会階層、ジェンダー、日本の伝統芸能

准教授［アメリカ］
ショーン・オライリー Sean O'REILLY
博士／ハーバード大学
日本映画史、映画分析、日本史、幕末時代

助教［ロシア］
イリーナ・クズネツォワ Irina KUZNETCOVA
博士／オハイオ州立大学
テクノロジーと教育、ゲーム、
EMI（英語を媒介とする授業）、教育心理学

助教［アイルランド］
カイル・シャトルワース Kyle SHUTTLEWORTH
博士／クイーンズ大学ベルファスト
哲学、倫理学、環境倫理学、和辻哲郎の思想

助教［日本］
橘 保貴 Yasuki TACHIBANA
博士／東京大学
高エネルギー原子核物理

助教［アメリカ］
パメラ・テイラー Pamela TAYLOR
博士／京都大学
感情心理学

講師［アイルランド］
クフラン・剛・マクギバン Cuhullan Tsuyoshi MCGIVERN
修士／クイーンズランド工科大学
運動、体重管理、ヨガ、ウェルネス

特任教授［日本］
阿部 邦子 Kuniko ABE
博士／パリ大学ソルボンヌ校
美術史、建築史、東西比較芸術論、文化遺産学

特任教授［日本］
金岡 秀郎 Hidero KANAOKA
修士／東京大学
モンゴル学、仏教学

特任教授［日本］
渡辺 玲子 Reiko WATANABE
修士／ジュリアード音楽院
演奏と演奏解釈

特任准教授［日本］
廣津留 すみれ Sumire HIROTSURU
修士／ジュリアード音楽院
音楽（ヴァイオリン演奏）

客員教授［韓国］
加藤 清孝 Kiyotaka KATO
博士／コネティカット大学
スポーツマネジメント

客員教授［日本］
小牟禮 尊人 Takahito KOMURE
学士／東京造形大学
吹きガラスとキルンワークでの作品制作

客員教授［日本］
鈴木 正明 Masaaki SUZUKI
博士／東京大学
計算機を利用した位相幾何学

日本語プログラム

日本語プログラム代表／教授［日本］
阿部 祐子 Yuko ABE
博士／お茶の水女子大学
日本語教育、異文化間教育

教授［日本］
近藤 裕美子 Yumiko KONDO
修士／筑波大学
日本語教育学、教師教育学

准教授［日本］
浜田 英紀 Hideki HAMADA
博士／インディアナ大学
日本語教育、外国語教育

助教［日本］
橋本 洋輔 Yosuke HASHIMOTO
博士／東北大学
日本語教育、特別支援教育、
認知神経科学

助教［日本］
初田 絢奈 Ayana HATSUDA
博士／アリゾナ大学
日本語社会言語学、会話分析

教職課程

教職課程代表／教授［日本］
眞壁 聡子 Satoko MAKABE
学士／秋田大学
高等学校教育
（教育課程、特別活動等）

准教授［日本］
遠藤 秀弘 Hidehiro ENDO
博士／バデュー大学
教育学、多文化教育、英語教育

特任教授［日本］
佐藤 健公 Kenkoh SATOH
学士／弘前大学
高等学校教育
（生徒指導、教育実習等）

客員教授［日本］
塚本 宏明 Hiroaki TSUKAMOTO
学士／秋田大学
各国と日本のインクルーシブ教育

名 誉 教 授

名誉学長［日本］
中嶋 嶺雄 Mineo NAKAJIMA

名誉教授［日本］
鮎澤 孝子 Takako AYUSAWA

名誉教授［日本］
森園 浩一 Koichi MORIZONO

名誉教授［日本］
杉山 朗子 Akiko SUGIYAMA

名誉特任教授［日本］
縣 正彦 Masahiko AGATA

特別功労教授［日本］
寺田 典城 Sukeshiro TERATA

名誉教授［日本］
前中 ひろみ Hiromi MAENAKA

名誉教授［日本］
伊藤 陽一 Youichi ITO

名誉教授［ポーランド］
マーチン・シュローダー Marcin SCHROEDER

特別功労教授［日本］
紿田 英哉 Hideya TAIDA

名誉教授［日本］
勝又 美智雄 Michio KATSUMATA

名誉教授［日本］
市川 博也 Hiroya ICHIKAWA

名誉教授［中国］
ウェイ・ホンユン Hongyun WEI

名誉教授［日本］
明石 康 Yasushi AKASHI

名誉教授［ロシア］
アレキサンダー・ドーリン Alexander DOLIN

名誉教授［日本］
佐野 ひろみ Hiromi SANO

名誉特任教授［イギリス］
グレゴリー・クラーク Gregory CLARK

各教員の詳細については、こちらをご覧ください。

◎職位 ◎出身国・地域 ◎氏名 ◎学位 ◎研究所属分野 の順で記載

専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科 教員一覧

英語教育実践領域

グローバル・コミュニケーション実践研究科長・専攻長／英語教育実践領域代表／教授［日本］
内田 浩樹 Hiroki UCHIDA
修士／南山大学
英語教育

教授［日本］
町田 智久 Tomohisa MACHIDA
博士／イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
小学校英語教育、教師教育、外国語不安

教授［アメリカ］
クレイ・ウィリアムス Clay WILLIAMS
博士／アリゾナ大学
心理言語学、視覚的言語処理

准教授［アメリカ］
クリストファー・カール・ヘイル Christopher Carl HALE
博士／ノースイースタン大学
アクションリサーチ、第二言語習得

日本語教育実践領域

日本語教育実践領域代表／教授［日本］
左治木 敦子 Atsuko SAJIKI
博士／インディアナ大学
日本語教授法、日本語教師養成

准教授［日本］
堀内 仁 Hitoshi HORIUCHI
博士／テキサス大学オースティン校
言語学、日本語教育

准教授［日本］
嶋 ちはる Chiharu SHIMA
博士／ウィスコンシン大学マディソン校
第二言語習得、第二言語での相互行為

特任教授［日本］
伊東 祐郎 Sukero ITO
修士／西イリノイ大学
日本語教育学、応用言語学（テスティング・評価）

発信力実践領域

発信力実践領域代表／准教授［日本］
谷川 幹 Miki TANIKAWA
博士／テキサス大学オースティン校
国際メディア、グローバルコミュニケーション

准教授［韓国］
鄭 赫濬 Hyuk Jun CHEONG
博士／テネシー大学ノックスビル校
デジタルマーケティング、広告、定性調査手法

客員教授［日本］
清宮 徹 Toru KIYOMIYA
博士／ミシガン州立大学
組織コミュニケーション、組織ディスコース

客員教授［日本］
小西 克哉 Katsuya KONISHI
修士／東京外国語大学
アメリカ政治過程論、外交、会議通訳

産学連携 研究・学修支援組織 教員一覧

中嶋記念図書館

図書館長／教授［日本］
豊田 哲也 Tetsuya TOYODA
高等研究学位（DEA）／パリ第2大学
国際法、国際組織

応用国際教養教育推進機構

応用国際教養教育推進機構長［スリランカ］
モンテ・カセム Monte CASSIM
修士／東京大学

応用国際教養教育推進機構副機構長／日本学修センター長［日本］
熊谷 嘉隆 Yoshitaka KUMAGAI
博士／オレゴン州立大学

応用国際教養教育推進機構副機構長［日本］
磯貝 健 Ken ISOGAI
修士／コーネル大学

能動的学修センター

能動的学修センター長／教授［アメリカ］
パトリック・ドーティ Patrick DOUGHERTY
博士／ノーザンアリゾナ大学
教育、応用言語学

言語異文化学修センターコーディネーター／准教授［アメリカ］
カルロス・バディング Carlos BUDDING
修士／ジョージメイソン大学、ギャローデット大学
第二言語教育

学修達成センターコーディネーター／准教授［日本］
遠藤 秀弘 Hidehiro ENDO
博士／バデュー大学
教育学、多文化教育、英語教育

アカデミック・キャリア支援センターコーディネーター／准教授［日本］
大森 久子 Hisako OMORI
博士／マクマスター大学
文化人類学、宗教学

超域学修ルームコーディネーター／教授［ハンガリー］
アティラ・エグリナギ Attila EGRI-NAGY
博士／ハートフォードシャー大学
計算機代数、人工知能、数学教育

デザイン創造・データサイエンスセンター

デザイン創造・データサイエンスセンター長／特任教授［日本］
精山 明敏 Akitoshi SEIYAMA
博士／北海道大学
IoT技術の開発と脳科学への応用

デザイン創造データサイエンスセンターコーディネーター／准教授［日本］
俵 典和 Norikazu TAWARA
博士／シカゴ大学
労働経済学、マクロ経済学、経済成長論

地域連携協働研究センター

地域連携協働研究センター長／教授［イギリス］
アンディ・クロフツ Andy CROFTS
博士／ヨーク大学
細胞生物学・科学教育

テーマ別ハウス群コーディネーター（こまち寮）／教授［日本］
豊田 哲也 Tetsuya TOYODA
高等研究学位（DEA）／パリ第2大学
国際法、国際組織

地域連携協働研究センターコーディネーター／准教授［日本］
中川 秀幸 Hideyuki NAKAGAWA
博士／カリフォルニア大学バークレー校
応用ミクロ経済学

日本研究プログラムコーディネーター／准教授［アメリカ］
ショーン・オライリー Sean O'REILLY
博士／ハーバード大学
日本映画史、映画分析、日本史、幕末時代

テーマ別ハウス群コーディネーター（学生宿舎）／准教授（院）［日本］
嶋 ちはる Chiharu SHIMA
博士／ウィスコンシン大学マディソン校
第二言語習得、第二言語での相互行為

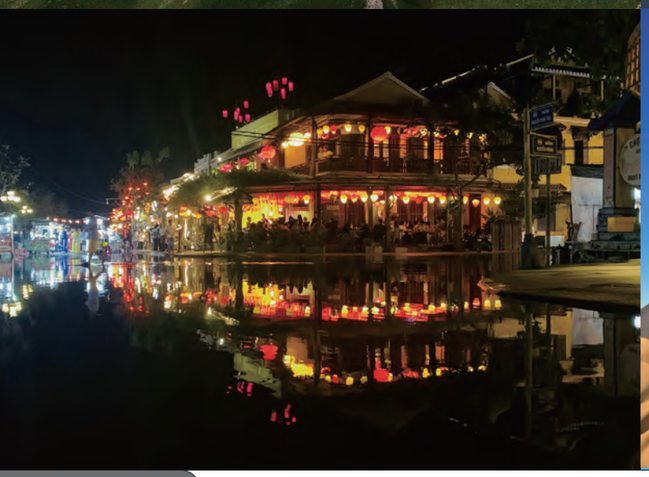
※この一覧には、2023年4月1日現在の専任教員、特任教員、客員教員を記載しています。

FEATURE 02

1年間の留学義務

One-Year Study Abroad Program

海外の提携大学数
51カ国・地域
201大学



留学の「中身」こそが成長の鍵

世界各国の未来を担う優秀な若者たちとともに、多彩な価値観に触れながら学び、議論し、新しい理解が生まれ、自分の国や自分自身を見つめ直し深く考えるというプロセスが留学にはあります。多くの留学プログラムがあるこの時代、成長して帰国し、未来の活躍につながる鍵となるのは、“中身のある留学”。団体ではなく「少人数」の留学、語学留学とは違いあくまでも“専門科目を修得しながら英語や第三言語の力を磨く留学”。本学ではすべての学生にそのチャンスがあります。英語で行われる授業でディスカッションやプレゼンテーションの経験を積んだ本学の学生は、留学先でリーダーシップを発揮し、さらに成長した姿で帰ってきます。

特色 1

集団派遣ではなく
「少人数」

交換留学とは、海外の提携大学から留学生を1名、1年間受け入れることで、本学から学生を1名、1年間派遣する仕組みです。したがって、一つの大学に大人数で送り込むことはせず、1～3名程度の少人数での派遣となります。結果的に、留学先の大学で本学の学生同士が固まることなく、現地の学生や世界各地からの留学生と存分に交わり、新しい考えや多彩な価値観に触れながら、人間的成長を遂げることができるのです。

特色 2

語学留学ではなく
「専門科目を学ぶ」

本学の留学は、単なる語学の習得ではなく、留学先の大学で専門課程を学び、単位を修得することを目的としています。出発前にアカデミック・アドバイザーと相談し、興味のある分野や将来の夢を考慮しながら留学先大学で履修する科目を決定し、所定の成績を修めることで、卒業に必要な単位として認定します。これにより、留学期間を含めても4年間で卒業することが可能となります。

特色 3

授業料は
「相互免除」

留学中の授業料は、一部の大学を除き、本学に授業料を納めることで免除されます（住居費、食費、渡航費、保険料、危機管理サービス料等は学生負担）。海外の大学では、年間の授業料が数百万円を超えることも珍しくなく、「留学」と聞くと高額な経費がかかることを想像する方も多いかもしれません。本学では、そういった留学に対する経済的な不安や負担を軽減し、より多様な可能性と成長の機会を提供しています。

※一定の英語力・成績要件をクリアしてから留学するため、留学時期は学生によって異なり、多くは2年次の冬から3年次の秋にかけて出発しています。
※学生の成績や提携大学の事情などにより、希望する大学に留学できない場合もあります。

留学出発までの流れ

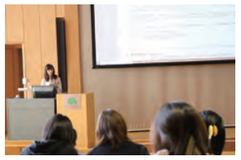
入学後
Step 1　情報収集

- **留学フェア**
  留学から帰国した先輩や留学生から、留学したい国や提携校の情報を収集
- **留学ラウンジの活用**
  提携校の資料、帰国レポートの閲覧
- **留学相談**
  国際センターで随時受付

留学の要件
◎TOEFL ITP® TEST 550点相当以上
◎GPA（成績評価平均点）2.50以上

出発の1年半～1年前
Step 2　学内申請・選考

- **留学説明会**
  申請スケジュール、申請方法などの確認
- **学内申請・選考**



出発の6カ月前
Step 3　留学準備開始

- **留学先決定**
- **留学先大学への願書送付**
- **留学先大学の受入許可**
- **留学セミナー（CCS160：必修1単位）受講**
- **各種手続き**
  住居申請、健康診断、予防接種、ビザ・滞在許可申請、危機管理、保険加入など
- **渡航準備**
  航空券手配、渡航チェック

出発　留学
P46-47

/ 国際教養大学/Akita International University
>> FEATURE 02 については、動画でもご覧いただけます。>>

留学先からのメッセージ Messages from Abroad

篠倉 なつみ Natsumi SASAKURA

愛知県／2019年入学

留学先大学（2022年度留学）

ポーランド | ウッチ大学 University of Lodz

ロシアによるウクライナ侵攻を受けて現地で企画した折り鶴のワークショップ。
写真右から 2 番目が篠倉さん。

現地で感じた、世界で起こっていることのリアル

小さい頃からヨーロッパへの憧れがあり、留学先にポーランドを選びましたが、到着して5日後にロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。ポーランドはロシア、ウクライナの隣国であり、私の留学先大学でのチューターもウクライナ人の女子学生でした。日本にいたら、どこか遠くの地で起きている戦争、で終わっていたかもしれないですが、授業中に先生が泣きながら今何が起きているか教えてくれたこと、空港で今からキーウに帰るというウクライナ女性と話したことなど、戦争の重さを身をもって実感し、私にとって忘れられない記憶になりました。この時期にポーランドに留学していた学生として、この経験を自分だけのものではなく、周りに広めて、将来何かに役立てられればと感じています。

留学先で学んだ授業

EU as a Global Actor

この授業では、「EUは世界でどのような役割を担っているのか」ということを学びました。授業は毎回学生からのプレゼンテーションとディスカッションで構成されていました。教授が疑問を投げかけ、学生全員で意見し合う授業スタイルはAIUとあまり変わりはありませんでしたが、学生の発言の活発さは段違いでした。教授の質問や意見だからといって、そこに立場は関係なく、丁々発止の議論が行われました。特に印象的だったのは、「EUはsuper powerといえるか」という議題です。ウクライナ侵攻やイギリスのEU離脱など、ホットな話題を絡めながら、正解がない問題について議論することは、とても興味深いものでした。

能勢 もなみ Monami NOSE

東京都／2019年入学

留学先大学（2022年度留学）

アメリカ合衆国 | ライオンカレッジ Lyon College

オレゴンで行われた世界陸上大会でボランティア活動を行いました。

初めの大きな一歩で広がる世界

留学先でもAIUと同じように、専門科目以外の授業も幅広く履修できるこの大学を選びました。

留学経験がないうえに、周りに日本人が私一人で最初は不安でしたが、常に英語を話さざるを得ない環境に身を置けたことで、自分でも実感できるくらい英語でのコミュニケーション力を伸ばすことができました。留学中は、特に勉学に力を入れ、春学期にはDean's List（優秀な成績を修めた学生が選ばれる学部長表彰リスト）に載せていただきとても嬉しかったです。

また、走ることが好きなので、長期休暇にアメリカの違う州で開催されていたマラソン大会や世界陸上大会のボランティアに参加し、スポーツを通して学外の方ともたくさん交流できました。何事もやってみないと分からない、話してみないと分からないということを改めて学び、これからも興味のあることにはどんどん挑戦していこうと思いました。

留学先で学んだ授業

World Politics

授業はどれも意義深く楽しかったのですが、ひとつ選ぶとすればこの授業です。私の専攻はビジネスでしたので、国際政治や国際関係についてはニュースなどでよく耳にしていた程度でした。しかし、それぞれの出来事に関わっている人たちの行動がどんな考えや理論に基づいているのかを謎解きのように紐解いていく学びに面白さを感じました。ビジネス科目の中でゲーム理論や国の財政を基に議論するなど、学びが分野を超えて融合する経験に大きな喜びを感じました。

太夫本 勝博 Katsuhiro TAYUMOTO

広島県／2019年入学

留学先大学（2022年度留学）

マレーシア | マラヤ大学 University of Malaya

留学先の友人との夕食。写真の左列奥から 2 番目が太夫本さん。

アザーンが鳴り響く毎日

謎が多く、自分には身近ではなかったイスラム文化に興味を持ち、その文化を体感してみたいと思い、マレーシアを留学先に選びました。

空港に到着した瞬間、ヒジャブ（イスラム教国内の女性が、頭や身体を覆う布）をデニムやシャツと合わせて、おしゃれに着こなす人がたくさんおり、自身の想像していたムスリム（イスラム教を信仰している人々）の服装とは違い、とても驚きました。また、街なかでは早朝にお祈りの歌「アザーン」が大音量で流れていて、カルチャーショックを味わいました。

学業面・生活面の両方でイスラム文化に触れたことで、イスラム教の影響の大きさや他文化との付き合い方について考えさせられました。中でも、お祈りのためにムスリムが路肩に車を止め、それが原因で渋滞になっても他宗教の人はそれを理解し、尊重している姿がとても印象に残っています。

留学生活を通じ、今まで自分が持っていたイスラム教へのバイアスが取り除かれました。多文化国家で経済が発展し、活気溢れるマレーシアという国が大好きになり、将来は仕事で携わりたいと強く思いました。

留学先で学んだ授業

Islamic Marketing

ムスリムをターゲットとしたマーケティングに関する授業が特に印象に残っています。ムスリムが消費者となった際に守るべきルール、重視することやハラール（イスラム法上で食べることが許されている食材や料理）商品の取り扱いについて学びました。ムスリムは、将来的に世界で一番数の多い消費者層になると言われていて、この授業で学んだことを将来仕事をする上で活かすことができるのでは、と考え履修しました。印象に残っているのは、肉のハラール認証のプロセスです。イスラム法に則って製造されたハラール商品は、数多くの厳しい審査があります。特に肉の場合では、屠殺の際に切る血管がイスラム法で明確に決められており、そのルールに従わないとムスリムに売ることはできないなど、イスラム文化が及ぼす影響の大きさを知ることができました。

武田 愛未 Manami TAKEDA

秋田県／2020年入学

留学先大学（2022年度留学）

韓国 | 延世大学 Yonsei University

日韓青年パートナーシップの活動にて。写真 2 列目の左から 2 番目が武田さん。

日韓関係についての深い学び

韓国は隣国ということもあり、文化や国民性が似ている部分もあったため、生活に適応するのに時間はかかりませんでした。しかし、言語の壁は大きく、最初は日常生活でさえ韓国語を思いどおりに話せず、意思疎通ができず落ち込むこともありました。現地でのインターンシップやサークル活動を通じて、韓国語や英語を使って友人や知り合いと交流する機会が増え、語学力向上や大学生活へのモチベーションを高めることができました。

特に一番の転機は、日韓の大学生・大学院生が一同に集まり、3日間、日韓関係について議論する、「日韓青年パートナーシップ」というイベントに参加したことです。韓国人の友だちが増え、将来を担う学生同士で日韓関係について韓国語と日本語を交えて深く語り合えたことは、とてもいい経験になりました。

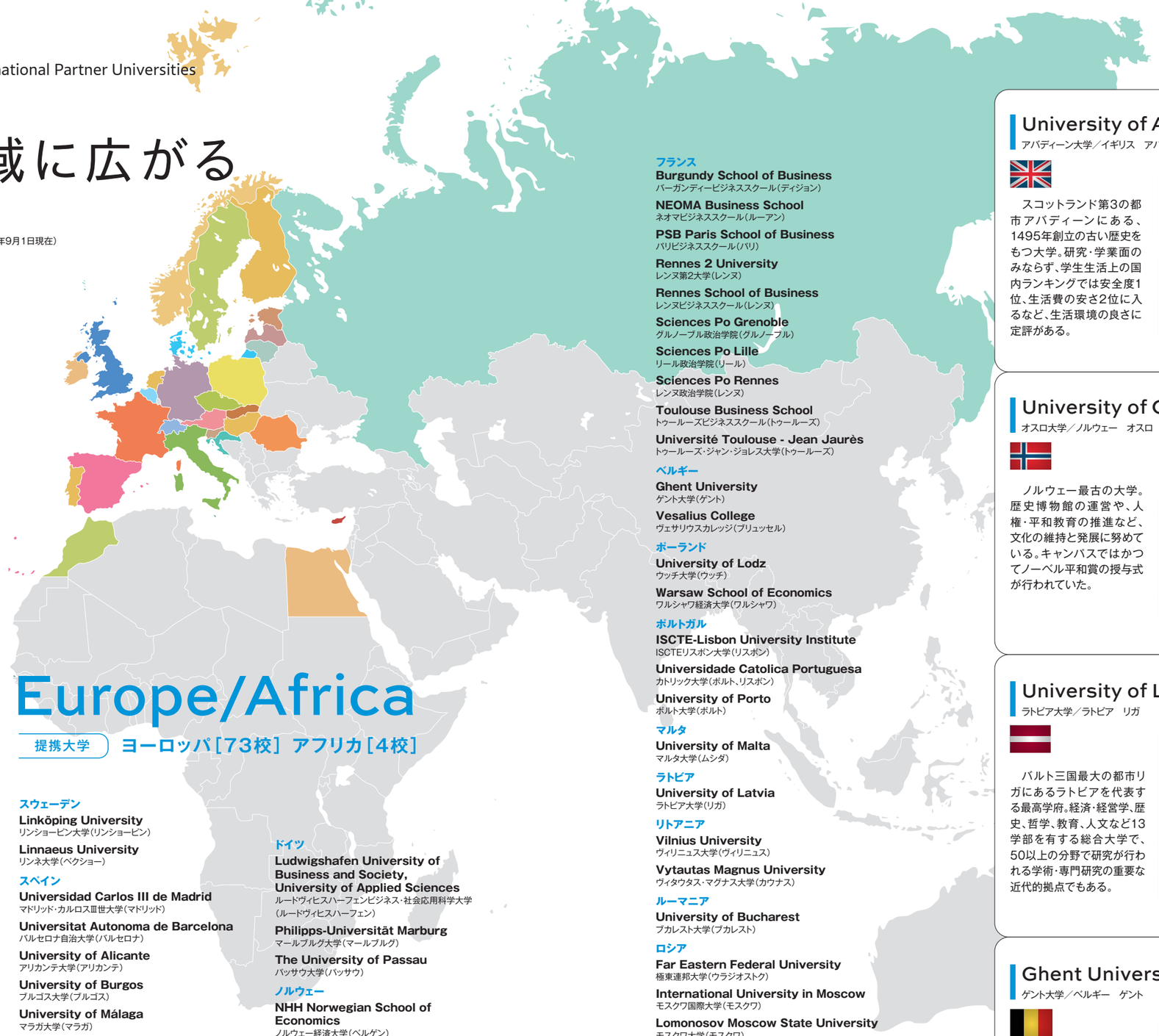
留学先で学んだ授業

Modern Korean History

韓国の歴史について一から学びながら、現代までの社会問題、文化、経済などあらゆる分野への理解を深められる授業です。私が韓国への留学を希望した理由の一つは、韓国で日韓関係の授業を受けたかったことです。教授は韓国人で、韓国側の視点から植民地時代や韓国独立について学ぶことができました。受講していた日本人は私一人だったのですが、他の学生と韓国の歴史について意見を交わすことができ、日韓の歴史についての理解をより深めることができました。

海外の提携大学 International Partner Universities

51の国と地域に広がる201の大学 (2022年9月1日現在)



Europe/Africa

提携大学 ヨーロッパ［73校］ アフリカ［4校］

アイルランド
- **Maynooth University**
  メイヌース大学（メイヌース）

イギリス
- **Keele University**
  キール大学（スタッフォードシャー）
- **Newcastle University**
  ニューカッスル大学（ニューカッスル・アポン・タイン）
- **The University of Sheffield**
  シェフィールド大学（シェフィールド）
- **University of Aberdeen**
  アバディーン大学（アバディーン）
- **University of Central Lancashire**
  セントラル・ランカシャー大学（プレストン）
- **University of East Anglia**
  イースト・アングリア大学（ノリッジ）
- **University of Essex**
  エセックス大学（コルチェスター）
- **University of Exeter**
  エクセター大学（エクセター）
- **University of Leeds**
  リーズ大学（リーズ）
- **University of Sussex**
  サセックス大学（ブライトン）

イタリア
- **University of Bologna**
  ボローニャ大学（ボローニャ）
- **University of Ferrara**
  フェラーラ大学（フェラーラ）
- **University of Siena**
  シエナ大学（シエナ）
- **University of Turin**
  トリノ大学（トリノ）

エストニア
- **Tallinn University**
  タリン大学（タリン）

オーストリア
- **FH Joanneum University of Applied Sciences**
  ヨアネウム応用科学大学（グラーツ）

オランダ
- **Amsterdam University of Applied Sciences**
  アムステルダム応用科学大学（アムステルダム）
- **HAN University of Applied Sciences**
  HAN応用科学大学（アルンヘン）
- **Hanze University of Applied Sciences**
  ハンゼ応用科学大学（フローニンゲン）
- **Leiden University**
  ライデン大学（ライデン）

キプロス
- **University of Nicosia**
  ニコシア大学（ニコシア）

クロアチア
- **Zagreb School of Economics and Management**
  ザグレブ経済経営大学（ザグレブ）

スイス
- **Eastern Switzerland University of Applied Sciences**
  東スイス応用科学大学（サンガレン）
- **Zurich University of Applied Sciences Winterthur**
  チューリッヒ応用科学大学（ヴィンタートゥール）

スウェーデン
- **Linköping University**
  リンショーピン大学（リンショーピン）
- **Linnaeus University**
  リンネ大学（ベクショー）

スペイン
- **Universidad Carlos III de Madrid**
  マドリッド・カルロスⅢ世大学（マドリッド）
- **Universitat Autonoma de Barcelona**
  バルセロナ自治大学（バルセロナ）
- **University of Alicante**
  アリカンテ大学（アリカンテ）
- **University of Burgos**
  ブルゴス大学（ブルゴス）
- **University of Málaga**
  マラガ大学（マラガ）

スロバキア
- **Comenius University**
  コメニウス大学（ブラチスラバ）

スロベニア
- **University of Ljubljana**
  リュブリャナ大学（リュブリャナ）

チェコ
- **Masaryk University**
  マサリック大学（ブルノ）

デンマーク
- **Aalborg University**
  オールボー大学（オールボー）
- **Aarhus University**
  オーフス大学（オーフス）

ドイツ
- **Ludwigshafen University of Business and Society, University of Applied Sciences**
  ルードヴィヒスハーフェンビジネス・社会応用科学大学（ルードヴィヒスハーフェン）
- **Philipps-Universität Marburg**
  マールブルグ大学（マールブルグ）
- **The University of Passau**
  パッサウ大学（パッサウ）

ノルウェー
- **NHH Norwegian School of Economics**
  ノルウェー経済大学（ベルゲン）
- **University of Bergen**
  ベルゲン大学（ベルゲン）
- **University of Oslo**
  オスロ大学（オスロ）

ハンガリー
- **University of Pécs**
  ペーチ大学（ペーチ）

フィンランド
- **Tampere University**
  タンペレ大学（タンペレ）
- **University of Lapland**
  ラップランド大学（ロヴァニエミ）
- **University of Vaasa**
  ヴァーサ大学（ヴァーサ）

フランス
- **Burgundy School of Business**
  バーガンディービジネススクール（ディジョン）
- **NEOMA Business School**
  ネオマビジネススクール（ルーアン）
- **PSB Paris School of Business**
  パリビジネススクール（パリ）
- **Rennes 2 University**
  レンヌ第2大学（レンヌ）
- **Rennes School of Business**
  レンヌビジネススクール（レンヌ）
- **Sciences Po Grenoble**
  グルノーブル政治学院（グルノーブル）
- **Sciences Po Lille**
  リール政治学院（リール）
- **Sciences Po Rennes**
  レンヌ政治学院（レンヌ）
- **Toulouse Business School**
  トゥールーズビジネススクール（トゥールーズ）
- **Université Toulouse - Jean Jaurès**
  トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学（トゥールーズ）

ベルギー
- **Ghent University**
  ゲント大学（ゲント）
- **Vesalius College**
  ヴェサリウスカレッジ（ブリュッセル）

ポーランド
- **University of Lodz**
  ウッチ大学（ウッチ）
- **Warsaw School of Economics**
  ワルシャワ経済大学（ワルシャワ）

ポルトガル
- **ISCTE-Lisbon University Institute**
  ISCTEリスボン大学（リスボン）
- **Universidade Catolica Portuguesa**
  カトリック大学（ポルト、リスボン）
- **University of Porto**
  ポルト大学（ポルト）

マルタ
- **University of Malta**
  マルタ大学（ムシダ）

ラトビア
- **University of Latvia**
  ラトビア大学（リガ）

リトアニア
- **Vilnius University**
  ヴィリニュス大学（ヴィリニュス）
- **Vytautas Magnus University**
  ヴィタウタス・マグナス大学（カウナス）

ルーマニア
- **University of Bucharest**
  ブカレスト大学（ブカレスト）

ロシア
- **Far Eastern Federal University**
  極東連邦大学（ウラジオストク）
- **International University in Moscow**
  モスクワ国際大学（モスクワ）
- **Lomonosov Moscow State University**
  モスクワ大学（モスクワ）
- **National Research University Higher School of Economics**
  ロシア国立研究大学高等経済学院（サンクトペテルブルク、モスクワ）

エジプト
- **Cairo University**
  カイロ大学（ギザ）
- **Egypt-Japan University of Science and Technology**
  エジプト-日本科学技術大学（ニュー・ボルグ・エル・アラブ）
- **The American University in Cairo**
  カイロ・アメリカン大学（ニューカイロ）

モロッコ
- **Al Akhawayn University**
  アル・アハワイン大学（イフレン）

University of Aberdeen
アバディーン大学／イギリス　アバディーン

スコットランド第3の都市アバディーンにある、1495年創立の古い歴史をもつ大学。研究・学業面のみならず、学生生活上の国内ランキングでは安全度1位、生活費の安さ2位に入るなど、生活環境の良さに定評がある。

University of Oslo
オスロ大学／ノルウェー　オスロ

ノルウェー最古の大学。歴史博物館の運営や、人権・平和教育の推進など、文化の維持と発展に努めている。キャンパスではかつてノーベル平和賞の授与式が行われていた。

University of Latvia
ラトビア大学／ラトビア　リガ

バルト三国最大の都市リガにあるラトビアを代表する最高学府。経済・経営学、歴史、哲学、教育、人文など13学部を有する総合大学で、50以上の分野で研究が行われる学術・専門研究の重要な近代的拠点でもある。

Ghent University
ゲント大学／ベルギー　ゲント

フランダース地方最大の都市ゲントにメインキャンパスを構える、世界的にも評価が高いベルギー屈指の大学。国際化にも力を入れており、多くの留学生が中世の面影が残るこの美しい大学都市で学んでいる。

各大学の詳細については、こちらをご覧ください。→

海外の提携大学 International Partner Universities

51の国と地域に広がる201の大学 (2022年9月1日現在)

インドネシア
- **Universitas Indonesia**
  インドネシア大学(デポック)

韓国
- **Ajou University**
  亜洲大学(スウォン)
- **Busan University of Foreign Studies**
  釜山外国語大学(釜山)
- **Ewha Womans University**
  梨花女子大学(ソウル)
- **Konkuk University**
  建国大学(ソウル)
- **Korea Advanced Institute of Science and Technology**
  韓国科学技術院(大田)
- **Korea University**
  高麗大学(ソウル)
- **Seoul National University**
  ソウル国立大学(ソウル)
- **Sogang University**
  西江大学(ソウル)
- **Yonsei University**
  延世大学(ソウル)

シンガポール
- **Nanyang Technological University**
  ナンヤン工科大学(シンガポール)
- **National University of Singapore**
  シンガポール国立大学(シンガポール)

タイ
- **Chulalongkorn University**
  チュラロンコン大学(バンコク)
- **Kasetsart University**
  カセサート大学(バンコク)
- **Mahidol University International College**
  マヒドン大学インターナショナルカレッジ(バンコク)
- **Thammasat University**
  タマサート大学(バンコク)

台湾
- **Fu Jen Catholic University**
  天主教輔仁大学(新北)
- **Kainan University**
  開南大学(桃園)
- **National Chengchi University**
  国立政治大学(台北)
- **National Chi Nan University**
  国立暨南国際大学(南投)
- **National Taiwan Normal University**
  国立台湾師範大学(台北)
- **National Taiwan University**
  国立台湾大学(台北)
- **Tamkang University**
  淡江大学(淡水)
- **Yuan Ze University**
  元智大学(桃園)

Asia/Oceania

提携大学 アジア[42校] オセアニア[13校]

中国
- **Jilin University**
  吉林大学(長春)
- **Nanjing University**
  南京大学(南京)
- **Nankai University**
  南開大学(天津)
- **Wuhan University**
  武漢大学(武漢)

香港
- **Hong Kong Baptist University**
  香港バプティスト大学(香港特別行政区)
- **Lingnan University**
  嶺南大学(香港特別行政区)
- **The Chinese University of Hong Kong**
  香港中文大学(香港特別行政区)
- **The University of Hong Kong**
  香港大学(香港特別行政区)

フィリピン
- **Ateneo de Manila University**
  アテネオ大学(ケソン)

ブルネイ
- **Universiti Brunei Darussalam**
  ブルネイ・ダルサラーム大学(バンダルスリブガワン)

ベトナム
- **Foreign Trade University**
  貿易大学(ハノイ)
- **VNU University of Economics and Business**
  ベトナム国家大学ハノイ校経済ビジネス大学(ハノイ)

マカオ
- **Macau University of Science and Technology**
  マカオ科技大学(マカオ特別行政区)
- **University of Macau**
  マカオ大学(マカオ特別行政区)

マレーシア
- **Universiti Sains Malaysia**
  マレーシア科学大学(ペナン)
- **University of Malaya**
  マラヤ大学(クアラルンプール)

モンゴル
- **National University of Mongolia**
  モンゴル国立大学(ウランバートル)
- **University of the Humanities**
  モンゴル人文大学(ウランバートル)

オーストラリア
- **Deakin University**
  ディーキン大学(メルボルン)
- **Griffith University**
  グリフィス大学(ブリスベン)
- **La Trobe University**
  ラトローブ大学(メルボルン)
- **Macquarie University**
  マッコーリー大学(シドニー)
- **Swinburne University of Technology**
  スウィンバン大学(メルボルン)
- **The Australian National University**
  オーストラリア国立大学(キャンベラ)
- **The University of New South Wales**
  ニューサウスウェールズ大学(シドニー)
- **The University of Sydney**
  シドニー大学(シドニー)
- **The University of the Sunshine Coast**
  サンシャインコースト大学(シッピーダウンズ)
- **The University of Western Australia**
  ウェスタンオーストラリア大学(パース)
- **University of Southern Queensland**
  サザンクイーンズランド大学(トゥーンバ)

ニュージーランド
- **University of Canterbury**
  カンタベリー大学(クライストチャーチ)
- **Victoria University of Wellington**
  ヴィクトリア大学ウェリントン校(ウェリントン)

カナダ
- **Université Laval**
  ラヴァール大学(ケベックシティ)
- **University of Manitoba**
  マニトバ大学(ウィニペグ)
- **University of Toronto**
  トロント大学(トロント)
- **University of Victoria**
  ヴィクトリア大学(ヴィクトリア)
- **University of Waterloo**
  ウォータールー大学(ウォータールー)
- **University of Windsor**
  ウィンザー大学(ウィンザー)
- **Wilfrid Laurier University**
  ウィルフリッドロリエ大学(ウォータールー)

アメリカ
- **Alverno College**
  アルヴァーノカレッジ(ミルウォーキー)
- **Ball State University**
  ボール州立大学(マンシー)
- **Beloit College**
  ベロイトカレッジ(ベロイト)
- **Centre College**
  センターカレッジ(ダンヴィル)
- **Dickinson College**
  ディキンソンカレッジ(カーライル)
- **Drexel University**
  ドレクセル大学(フィラデルフィア)
- **Eastern Oregon University**
  イースタンオレゴン大学(ラ・グランド)
- **George Mason University**
  ジョージメイソン大学(フェアファクス)
- **Gonzaga University**
  ゴンザガ大学(スポケーン)
- **Hamline University**
  ハムリン大学(セントポール)
- **Hampden-Sydney College**
  ハンプデン・シドニーカレッジ(ハンプデン・シドニー)
- **High Point University**
  ハイポイント大学(ハイポイント)
- **Ithaca College**
  イサカカレッジ(イサカ)
- **Knox College**
  ノックスカレッジ(ゲールズバーグ)
- **Lincoln Memorial University**
  リンカーンメモリアル大学(ハロゲイト)
- **Lyon College**
  ライオンカレッジ(ベイツヴィル)
- **Marist College**
  マリストカレッジ(ポキプシー)
- **Millsaps College**
  ミルサップスカレッジ(ジャクソン)
- **Mississippi State University**
  ミシシッピ州立大学(スタークビル)
- **Monmouth College**
  モンマスカレッジ(モンマス)
- **Oregon Institute of Technology**
  オレゴン工科大学(クラマスフォールズ)
- **Oregon State University**
  オレゴン州立大学(コーバリス)
- **Portland State University**
  ポートランド州立大学(ポートランド)
- **Presbyterian College**
  プレスビテリアンカレッジ(クリントン)
- **San Diego State University**
  サンディエゴ州立大学(サンディエゴ)
- **San Francisco State University**
  サンフランシスコ州立大学(サンフランシスコ)
- **Southern Oregon University**
  サザンオレゴン大学(アシュランド)
- **St. Cloud State University**
  セントクラウド州立大学(セントクラウド)
- **St. Mary's College of California**
  セントメアリーズカレッジオブカリフォルニア(モラガ)
- **St. Mary's College of Maryland**
  セントメアリーズカレッジオブメリーランド(セントメアリーズシティー)
- **State University of New York at Oswego**
  ニューヨーク州立大学オスウェゴ校(オスウェゴ)
- **The College of William and Mary**
  ウィリアム・アンド・メアリー大学(ウィリアムズバーグ)
- **The George Washington University**
  ジョージ・ワシントン大学(ワシントンD.C.)
- **The University of Hawai'i at Manoa**
  ハワイ大学マノア校(ホノルル)
- **The University of Kentucky**
  ケンタッキー大学(レキシントン)
- **The University of New Mexico**
  ニューメキシコ大学(アルバカーキ)
- **Towson University**
  タウソン大学(タウソン)
- **Union College**
  ユニオンカレッジ(スケネクタディ)
- **University of California Berkeley**
  カリフォルニア大学バークレー校(バークレー)
- **University of California Davis**
  カリフォルニア大学デイヴィス校(ディヴィス)
- **University of Colorado at Boulder**
  コロラド大学ボルダー校(ボルダー)
- **University of Delaware**
  デラウェア大学(ニューアーク) ※
- **University of Denver**
  デンバー大学(デンバー) ※
- **University of Illinois at Urbana-Champaign**
  イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校(シャンペーン)
- **University of Maine at Farmington**
  メイン大学ファーミントン校(ファーミントン)
- **University of Mary Washington**
  メアリーワシントン大学(フレデリクスバーグ)
- **University of Mount Union**
  マウントユニオン大学(アライアンス)
- **University of Northern Iowa**
  ノーザンアイオワ大学(シーダーフォールズ)
- **University of Oregon**
  オレゴン大学(ユージーン)
- **University of Richmond**
  リッチモンド大学(リッチモンド)
- **University of South Florida**
  サウスフロリダ大学(タンパ)
- **University of Utah**
  ユタ大学(ソルトレイクシティ)
- **Ursinus College**
  アーサイナスカレッジ(カレッジヴィル)
- **Washington & Jefferson College**
  ワシントン・ジェファーソンカレッジ(ワシントン)
- **Western Oregon University**
  ウェスタンオレゴン大学(モンマス)
- **Western Washington University**
  ウェスタンワシントン大学(ベリンハム)
- **Winona State University**
  ウィノナ州立大学(ウィノナ)

チリ
- **Universidad Adolfo Ibáñez**
  アドルフォ・イバネス大学(サンティアゴ)

バハマ
- **University of the Bahamas**
  バハマ大学(ナッソー)

ペルー
- **Universidad del Pacifico**
  パシフィコ大学(リマ)
- **Universidad San Ignacio de Loyola**
  サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学(リマ)

メキシコ
- **The University of Colima**
  コリマ大学(コリマ)

※先方の学部生受入れに限定した学術交流協定。

North and South America

提携大学 北米[64校] 中南米[5校]

University of Illinois at Urbana-Champaign

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校／アメリカ　シャンペーン

1867年に設立。ノーベル賞24名、ピュリッツァー賞29名の受賞者を輩出しているアメリカ屈指の名門大学。150以上の学部プログラムを提供し、米国でも最大規模を誇る研究図書館がある。世界各国の1万人もの留学生が在籍し、国際交流も盛ん。

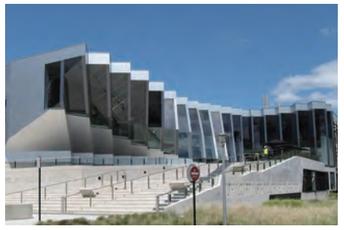
National University of Singapore

シンガポール国立大学／シンガポール

東南アジア随一の研究力、教育力をもつ総合大学。世界中の優秀な人材が集まる多言語・多文化で国際色豊かなキャンパス。

The Australian National University

オーストラリア国立大学／オーストラリア　キャンベラ



世界レベル大学としてオーストラリアの大学の先頭に立つ。広大なキャンパスで行われる教育は、大学院教育にも重点がおかれ、ノーベル賞を受賞した多くの研究者を輩出。

Korea Advanced Institute of Science and Technology

韓国科学技術院／韓国　大田

1971年に設立された国立大学。通称KAIST。2022年QS世界大学ランキングでは41位にランクインし世界的にも注目を集めている。学部は自然科学や生命科学、工学、情報産業などがあり、研究にも力を入れている。また、世界各国に270を超える提携校があり国際化にも積極的に取り組んでいる。

各大学の詳細については、こちらをご覧ください。→

FEATURE 03

多文化共生のキャンパスライフ

Multicultural Campus

キャンパス内留学生の割合

4人に1人

留学生とともに切磋琢磨しながら、個を磨きます

本学では、世界に広がる201の提携大学などからの留学生が年間200名以上学んでおり、キャンパスは「世界の縮図」ともいえる多文化共生空間を形成しています。（平常時）

授業はもちろん、学生寮や学生宿舎で留学生や他の学生とともに生活したり、クラブ活動を通してスポーツや文化活動を楽しんだり、授業が終わった後の雑談でさえ、様々な文化を体験できる国際交流の舞台となります。

また、全国各地から学生が集まっているので、国境を越えた異文化体験に加えて、日本国内の多彩な文化にも触れることができます。

世界と日本の様々な文化が集い、交流する「秋田の小さな大学」。

国際教養大学でのキャンパスライフそのものが、皆さんを豊かに育んでいくのです。

交換留学生の出身大学所在国・地域別人数

26カ国・地域

127名

※2022年9月1日現在（単位:名）

アメリカ	48	スロバキア	2	ブルネイ	1
イギリス	9	タイ	6	ポーランド	1
エストニア	1	台湾	7	ポルトガル	1
オーストラリア	7	チリ	1	香港	4
オランダ	5	チェコ	1	メキシコ	1
カナダ	4	ドイツ	5	ラトビア	2
韓国	2	ノルウェー	1	リトアニア	1
スウェーデン	1	フィンランド	3	ロシア	3
スペイン	2	フランス	8		

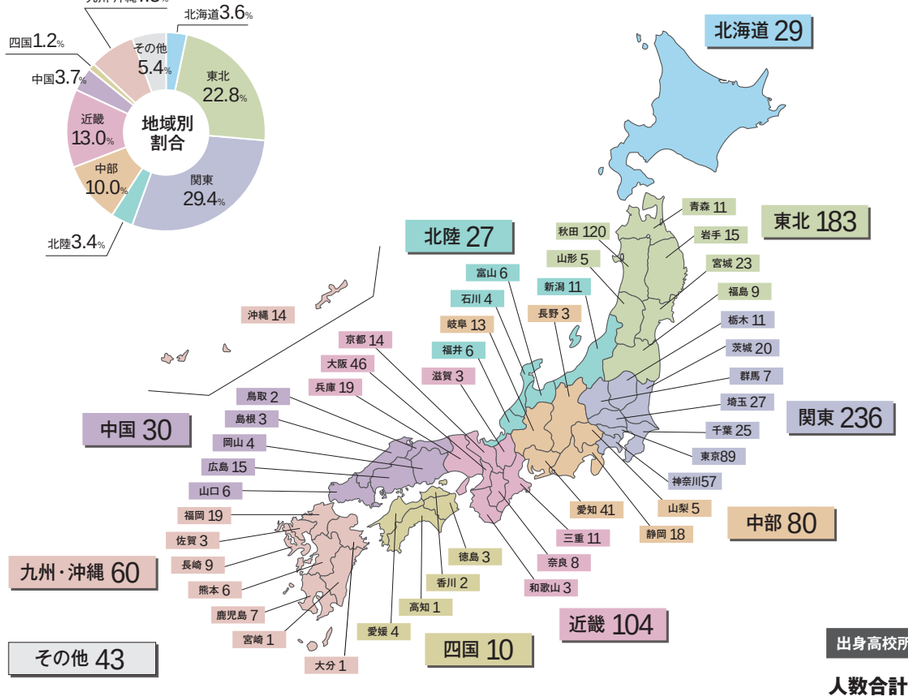
正規留学生の国・地域別人数

9カ国・地域

14名

※2022年9月1日現在（単位:名）

アメリカ	1	韓国	2	ベトナム	2
インドネシア	1	台湾	4	ベネズエラ	1
ウガンダ	1	ブルンジ	1	モンゴル	1



出身高校所在地別学生数

人数合計802名

※2022年9月1日現在（単位:名）
※その他は、海外、高卒認定など

/ 国際教養大学/Akita International University >> FEATURE 03 については、動画でもご覧いただけます。>>

学生寮と学生宿舎 Student Dormitory and Student Apartments

学生は、先輩・後輩や留学生との共同生活を通して、グローバルコミュニティで生活する術を学びます。コミュニティで一人ひとりが心地良く生活するためには、『調和』、つまり文化や生活習慣の違いを相互に認め理解し、相手を敬い助け合う姿勢が求められます。そのためには、規則の遵守や、忍耐、他者に意見する勇気も必要です。学生寮・学生宿舎は、単なる生活の場ではなく、授業では決して学ぶことのできない多くのことを得られる場なのです。

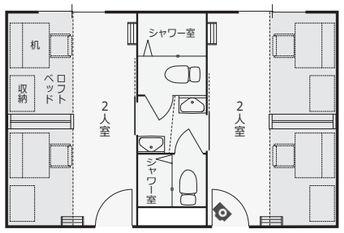
学生の88%が、キャンパス内の学生寮・学生宿舎で生活（平常時）

学生寮 Student Dormitory

こまち寮

2023年4月にリニューアルオープンしました。

※写真は、間取り図のカメラマークの角度から撮影したものです。



	ダブル仕様 ※原則、2人部屋として使用
部屋数	160室＋バリアフリー4室
間取り	14㎡（居室）
家　賃	28,000円～30,000円

※寮生活では、ミールプラン（朝昼夕の食事）の購入が必須となっています。春学期（4カ月）と秋学期（4カ月）は、ミールプランの食事が提供されます。GW、夏休み、年末年始、冬期間（1月から3月）などの食事は含まれていません。
ミールプラン金額：約250,000円（春学期＋秋学期）

1年次の寮生活が義務

国際教養大学の新入生は、全員、入学から1年間を大学の敷地内にある学生寮「こまち寮」で生活します。「なぜ今、寮生活なのか？」と疑問を抱かれる方もいるでしょう。しかし、本学では、寮生活も大切な国際教養教育の一部であると考えています。

こまち寮では、日本全国から集まる学生のほかにも、世界各国・地域からの留学生が生活しています。共同生活では窮屈に感じることもあるでしょう。しかし、同世代の仲間たちがひとつ屋根の下で暮らすことで、社会性やたくましさが身につきます。困難と遭遇するたびに、学生たちは自分自身と向き合い、仲間たち、そして大学の教職員と力を合わせて問題を解決する術を学んでいきます。この問題解決能力こそが、「なぜ今、寮生活なのか？」という疑問への答えであり、本学が育成する「世界を舞台に活躍する人材」に不可欠な資質なのです。

テーマ別ハウス群

国際教養大学では、スーパーグローバル大学創成支援事業の取り組みの一つとして、24時間リベラルアーツ教育の推進を目指す「テーマ別ハウス」を実施しています。

寮生活体験談
三浦 伶大馬
（秋田県／2021年入学）

寮生活「だからこそ」得られる経験と仲間

私は寮生活の魅力に惹かれ、AIUへの入学を決意しました。自室のドアを開けるとすぐ隣に友だちの部屋があり、一緒に勉強をしたり他愛のない話をしたりする生活は、まるで毎日が修学旅行のようでした。こまち寮にあるロビーでは、授業の課題であるグループプレゼンテーションのための話し合いをしたり、みんなでオリンピックや甲子園を観戦したりと、同じ建物に住んでいるからこそ経験できる日常が、ここには凝縮されています。寮での共同生活を通じて、時に大変とも感じるAIUでの生活を互いに支え合い、夢や自分の好きなこと、価値観などを真剣に語り合える、かけがえのない仲間と出会うことができました。

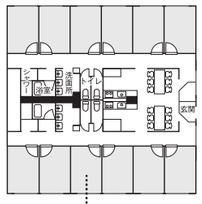
学生宿舎 Student Apartments

キャンパス内には、こまち寮のほか、学生宿舎として、グローバルヴィレッジ、さくらヴィレッジ、2022年3月に完成したつばきヴィレッジがあり、1年間の寮生活を終えた学生や留学生が入居しています。学生たちはキャンパス内で互いに刺激し合いながら、24時間、勉強やクラブ活動などに励んでいます。

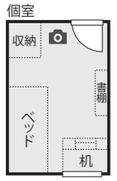
※学生宿舎は受入留学生が特に多くなった場合、すべての正規学生が入居できない場合があります。
その場合は、抽選を行い、民間のアパート等を探していただきます。

つばきヴィレッジ（12名の学生によるシェアハウス形式）

2022年にオープンしたつばきヴィレッジは12の居室と共有スペースを備えた宿舎です。

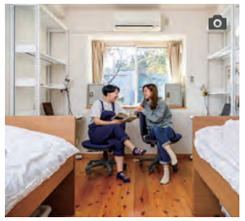


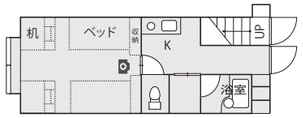
個室



	シングル仕様
部屋数	252室＋バリアフリー3室
間取り	213㎡（共用部＋居室9㎡×12）
家　賃	48,000～50,000円

グローバルヴィレッジ

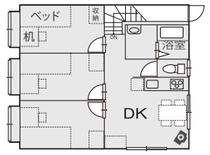




※図面はダブル仕様

	シングル仕様	ダブル仕様
部屋数	100室＋バリアフリー4室	92室
間取り	20㎡（K＋居室9㎡）	26㎡（K＋居室13㎡）
家　賃	52,000～54,000円	31,000～33,000円

さくらヴィレッジ（3名の学生によるシェアハウス形式）



	シングル仕様
部屋数	105室＋バリアフリー2室
間取り	53㎡（DK＋居室9㎡×3）
家　賃	48,000～50,000円

※家賃：1人あたり／月　※光熱水費、インターネット使用料含む。※退去時に清掃費用を別途お支払いいただきます。（2023年度）
※家賃は、2023年9月以降の改定額を記載。

かけがえのない仲間との楽しい時間

アメリカ、台湾、韓国、オーストラリア、タイ、カナダ、フィンランドからの留学生とつばきヴィレッジで共同生活をしています。12人で生活をしているため、お互いに快適に過ごせるよう、掃除の分担など、一緒に暮らすうえでのルールをしっかり決めています。共有スペースでは、それぞれの国の料理を披露したり、お互いの言語を教え合うなど、とても明るい雰囲気で、またそれぞれに個室もあるため、勉強や自分の時間もしっかり確保できています。主に英語を使ってコミュニケーションを取っているので、普段の生活でも英語力を向上させることができます。共同生活だからこそ、かけがえのない仲間と出会い、ともに楽しい時間を過ごせることをとても嬉しく感じています。

寮生活体験談
瀬尾 美月
（東京都／2020年入学）

レジデント・アシスタント（RA）

寮・宿舎生活をRAがサポート

学生寮および学生宿舎では、1年間の寮生活を既に経験し、新入生のお手本となる先輩たちが、レジデント・アシスタント（RA：通称アール・エー）としてともに生活します。RAは、居住者のキャンパス内での生活が快適になるように行動し、居住者同士のコミュニケーションが活発に行われるような環境を築くためのサポートをします。

学生活動 Student Activities

クラブ活動などの学生活動への積極的な参加は、充実した学生生活につながることはもちろん、人間関係や組織・社会への適応力も養います。好奇心旺盛で行動力のある学生が集まる国際教養大学では、数多くの学生団体が設立されており、日本全国、世界各国・地域から集まった学生たちが日々、意欲的に活動し、学年や国籍の垣根を越えて交流を深めています。

特別団体 AIU竿燈会

代 表 幸田 拓 Taku KODA（茨城県／2021年入学）

私たちAIU竿燈会は、開学翌年に創設されて以来、秋田の夏の風物詩である「秋田竿燈まつり」に参加し、地域交流や伝統文化の継承を願って活動しています。「秋田竿燈まつり」は、約270年もの歴史を誇る国の重要無形民俗文化財であり、毎年130万人以上が県内外から訪れる秋田県を代表するお祭りです。ここ数年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となっていましたが、2022年は実に3年ぶりに竿燈まつりが開催され、その魅力と熱狂を肌で感じることができました。また、留学生も在籍しており、留学生とともに一つの演技を作り上げることができるということも、私たちAIU竿燈会の魅力の一つです。

クラブ ワンダーフォーゲル部

代 表 奥野 美優 Miyu OKUNO（広島県／2021年入学）

AIUでは都会の大学では味わえない楽しみを見つけることができます。秋田県の魅力は、自然が豊かなこと、身近に登り甲斐のある山が多いこと、そして豊富な温泉地があること。これらを最大限楽しむことをポリシーに、私たちワンダーフォーゲル部は、秋田県周辺の山々でハイキングやトレッキングを行っています。留学生にも非常に人気の部活動で、一緒に自然を楽しむだけでなく、温泉を通して日本文化を伝えたり、お互いの国の山について紹介しあったりしています。自然に触れることを通して、「秋田にいるんだな」「秋田に来てよかったな」と実感することができ、日々秋田ならではの良さを部員みんなで発見しています。

クラブ一覧（2022年度実績）

文化部
- ◎AIU学生赤十字奉仕団
- ◎AIUを広め隊
- ◎会う輪
- ◎FROMPROJECT秋田
- ◎ハッピーピープルイン秋田
- ◎環境クラブ
- ◎きものクラブ
- ◎茶道部
- ◎書道部
- ◎震災復興サポーター
- ◎バイブルスタディ部
- ◎プログラミング部
- ◎文芸部
- ◎ボードゲーム部

言語系・国際理解
- ◎V-ACT
- ◎ディベート部
- ◎手話部
- ◎ダイバーシティクラブ
- ◎北東アジア学生ラウンドテーブル
- ◎模擬国連部
- ◎秋田県高校留学推進委員会
- ◎スピーチ部

音楽・舞踏
- ◎アカペラ部あいう
- ◎軽音楽部
- ◎ジャズ研究会
- ◎ダンス部
- ◎日本舞踊部
- ◎ハワイアンフラダンス部
- ◎ミュージカルシアター
- ◎ヤートセチーム亜瑠団
- ◎ヲタ芸部

運動部
- ◎弓道部
- ◎剣道部
- ◎硬式テニス部
- ◎少林寺拳法部
- ◎女子フットサル　ESPERANZA
- ◎ソフトテニス部
- ◎男子フットサル　GPIAS
- ◎軟式野球部
- ◎バスケットボール部
- ◎バドミントン部
- ◎バレーボール部
- ◎フライングディスク部
- ◎ラグビー部
- ◎ワンダーフォーゲル部
- ◎卓球部
- ◎スパイクボール部

大学公式Instagramでは
クラブ活動の様子を紹介しています
#ONEが行く

国際教養大学
マスコットキャラクター
ONE（ワン）
モチーフは秋田犬。名前の由来は「最先端、一番である。」ことと、犬の鳴き声の組み合わせです。

委員会組織図

- 学生総会
- 中央委員会
- 学生会本部
  - 〈特設委員会〉
    - 卒業アルバム制作委員会
  - 〈常設委員会〉
    - イベント委員会
    - Intercultural Affairs 委員会
    - AIU祭 実行委員会
    - Club Circle Affairs
    - 選挙管理委員会
      - 各クラブ

年間行事 AIU Campus Calendar

4 April
新入生入寮日（4月入学）
新入生オリエンテーション
春季入学式・開学記念日

6 June
サマープログラム
（短期留学生向け）

バストリップ（田沢湖）

7 July
夏祭り（学生会主催）
第1回オープンキャンパス
春学期期末試験期間

オープンキャンパス

8 August
夏期休業期間
秋田竿燈まつり
新入生入寮日（9月入学）
新入生オリエンテーション
夏卒業日

AIU祭

9 September
秋季入学式
第2回オープンキャンパス

10 October
AIU祭

12 December
秋学期期末試験期間
冬期休業期間

地域との交流

1 January
冬期プログラム授業開始日

2 February
冬期プログラム期末試験期間

卒業式

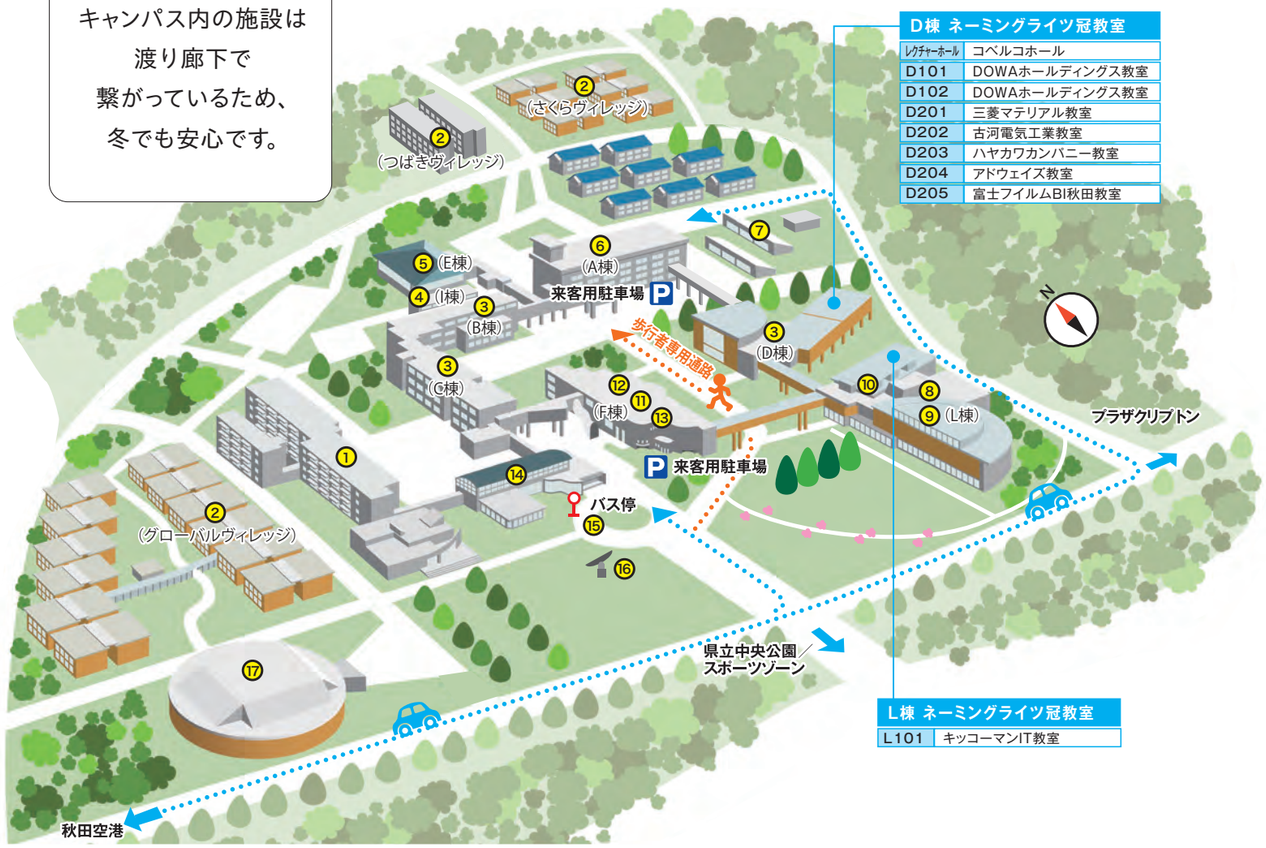
3 March
卒業式／春卒業日

最新版はウェブサイトより
ご確認いただけます。

キャンパスマップ Campus Map

ミズバショウの花が咲く秋田の豊かな森に広がるキャンパスには、都会で簡単に手に入れることのできる利便性はありません。しかし、「ないものばかり」ではありません。図書館やコンピュータルームはいつでも学生に使ってもらえるように24時間オープンしています。大学の敷地内には、学生寮や学生宿舎が整備されています。学生の本分である勉学に集中できる環境、そして日本全国からの学生や世界各国からの留学生とともに学び、生活する、多文化共生の環境が整っています。

キャンパス内の施設は
渡り廊下で
繋がっているため、
冬でも安心です。



/ 国際教養大学/Akita International University >> 360° キャンパスツアー動画を公開中！

① 学生寮（こまち寮）

新入生は全員、入学後の1年間をこの学生寮で生活します。

P.54 »

② 学生宿舎

（グローバルヴィレッジ、さくらヴィレッジ、つばきヴィレッジ）

1年間の寮生活を終えた学生は、学内の学生宿舎で生活するか、学外の民間アパートや自宅から大学へ通学します。

P.55 »

③ 講義棟（B・C・D棟）

3つの講義棟では、授業が行われるほか、D棟のコベルコホール（レクチャーホール）は公開講座などにも使用されます。

④ 学生イニシアティブセンター（I棟）

本学のスーパーグローバル大学創成支援事業によるプロジェクトの活動の場として使用されます。このセンターでは、24時間リベラルアーツ教育推進を目指したテーマ別ハウスの活動や、英語教育改革のためのイングリッシュビレッジ、ティーチャーズセミナーなどを開催しています。

P.16 »

⑤ 保健室／カウンセリングルーム（E棟）

保健室では看護師が常駐し、体調がすぐれない時や、けがをした時などの応急処置を行っています。また、カウンセリングルームでは常勤のカウンセラーがメンタルヘルスから学業、交友関係、自己理解の悩みまで、幅広く相談に応じています。

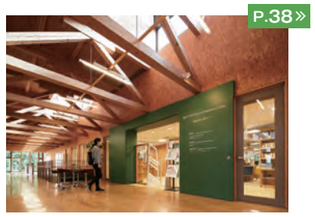
⑥ 管理棟（A棟）

学長室、教員オフィス、事務局などがあります。

⑦ サークル棟

⑧ 能動的学修センター（L棟）

学生の自律学修をサポートする、言語異文化学修センターと学修達成センター、国内外への大学院進学をサポートするアカデミック・キャリア支援センター、数理的能力の強化を支援する超域学修ルームからなる複合施設です。



P.38 »

⑨ 中嶋記念図書館（L棟）

24時間365日開館の図書館では、約8万冊の蔵書と豊富な電子リソースを取り揃えています。

P.36 »

⑩ IT教室（L棟）

3つのIT教室（コンピュータルーム）があり、合計約100台のWindows端末が設置されています。図書館と同様、24時間365日利用できます。なお、Wi-Fiはキャンパス全域で使用することができます。

⑪ 学生会館（F棟）

学生活動の拠点となる施設で、レクリエーションスペース、ラーニングスペース、和室、カレッジカフェ、AIU Shop、就職支援を行うキャリア開発センター、海外大学との提携や学生の海外派遣・留学生の受入手続きなどを行う国際センターがあります。

⑫ AIU Shop（F棟）

お弁当・パン類、飲み物、菓子類や文房具、日用品まで、学生生活に必要なものが揃っています。また、大学グッズも販売しています。

⑬ カレッジカフェ（F棟）

軽食やコーヒーなどを楽しむことができるカフェスペースです。週替わりのランチメニューもあり、天気の良い日はオープンテラスを利用することもできます。

⑭ カフェテリア

明るく開放的で、食事のほか、催し物やパーティにも使われる交流の舞台です。

⑮ バス停

国際教養大学前のバス停からは、イオンモール秋田行きとJR和田駅行きの2つのバス路線を利用できます。多くの学生が、休み時間や放課後、休日を利用して買い物などを楽しんでいます。

⑯ 記念モニュメント

開学10周年を記念して制作された大学発展の象徴となるモニュメントです。

⑰ Suda Hall（多目的ホール）

式典やコンサート、スポーツイベントなどに使われる施設です。トレーニングジムも設置されています。

FEATURE 04

多彩な可能性を広げる進路選択支援

Career Support

多彩なプログラムを通じて個々の進路選択をバックアップします

本学のキャリア教育の根幹は、仕事や職業に対する深い理解を通して、「自分はこれからどのようにして生きていくのか」を考え、向き合える力を育むこと。このため、本学では、多彩なキャリア教育を提供しています。

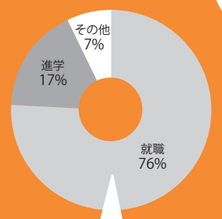
卒業生は、在学中に修得した国際的な視野を伴う教養、優れたコミュニケーション能力、留学経験で得たスキルをもとに、世界を舞台に事業を展開する企業や団体などに就職しています。

また、卒業生の一部は国内外の大学院へ進学しています。国際教養大学で過ごす4年間を「自分の興味をしっかり見極める期間」とし、希望する分野の大学院への進学後に専門知識を身につけるというプロセスは、まさにリベラルアーツカレッジとしての役割にほかなりません。

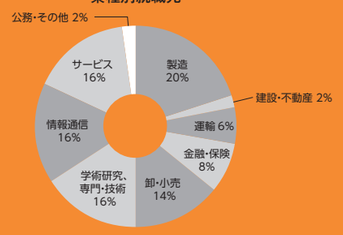
就職活動においては、確かな目標を見つけ、それに向けて努力する皆さん一人ひとりを、キャリア開発センターのスタッフがきめ細かく支援します。また、国内外の大学院への進学や高度専門職を目指す皆さんには、アカデミック・キャリア支援センターが多岐に渡るサポートを行っています。

2022年度 就職決定率 100%

【2022年度進路】



業種別就職先



進路選択支援

CDC

キャリア開発センター（CDC: Career Development Center）

キャリア・カウンセリング、インターンシップ、企業の人事採用担当者にご協力いただいて実施する「仕事研究会」など、多彩な進路選択支援を行っています。また、学内では就職や進学に関連した学生同士の相談会も活発に行われています。教職員だけでなく、先輩が後輩を積極的にサポートしてくれるのも、少人数のアットホームな環境で築かれた人間関係の賜物といえます。

キャリア・デザイン科目　CCS140キャリア・デザイン（必修科目）

本学では「キャリア・デザイン」が必修科目となっており、学生は1年次から「職業意識の形成」を目的としてキャリアについて考え始めます。「入学後の履修科目や学生生活をどのようにキャリアと結び付けて考えるか」や「自分はいったいどのような人間で、どんなことに喜びを感じるか」など、入学後間もない時期からキャリアに対する意識を高め、知識や経験を通した自己理解の上に立って、キャリアを幅広い視点で考え、職業選択に結び付けられるようにサポートします。

社会探求活動（選択科目）

インターンとなる期間は2週間から3カ月程度で、活動先は、各学生の出身地や秋田県内、あるいは留学先の国の企業、官公庁、国際機関、NGOなど多岐にわたります。

オンライン就職支援システム

キャリア開発センターでは、これまで仕事研究会を学内で開催するなど、学生の就職活動支援を主に対面で実施してきました。現在は、留学中から就職活動が始められるよう、オンラインでの支援も推進しています。

主な仕事研究会参加企業／NHK、博報堂、JR東日本、日本郵船、商船三井、鹿島建設、三菱地所、JTBグループ、東京海上日動火災保険、三菱UFJ銀行、伊藤忠商事、住友商事、豊田通商、丸紅、三井物産、三菱商事、三越伊勢丹、日本製鉄、神戸製鋼所、三菱重工業、川崎重工業、IHI、住友金属鉱山、古河電気工業、三菱電機、ソニー、クボタ、デンソー、旭化成、AGC、富士フイルム、日本ガイシ、キッコーマン、日清製粉グループ、ネスレ日本、Meiji Seika ファルマ、コクヨ、アシックス、日本製紙、外務省　ほか

卒業生の主な就職先（過去3年分／50音順）

IHI
アウトクロップ
秋田海陸運送
秋田魁新報社
秋田里山デザイン
旭化成
朝日新聞社
アシックス
伊藤忠商事
宇宙航空研究開発機構（JAXA）
AGC
NTTデータ
NTTドコモ
ENEOS
鹿島建設
川崎汽船
川崎重工業
キッコーマン
キユーピー
京セラ
共同通信社
クボタ
KDDI
高知県
神戸製鋼所
国際協力銀行
国土交通省（航空管制官）
コクヨ
小松製作所
サントリーホールディングス
JFEスチール
JTB
時事通信社
資生堂
清水建設
法務省（出入国在留管理庁）
住友金属鉱山
住友ゴム工業
住友商事
セールスフォース・ジャパン
全日本空輸（ANA）
ソニー
帝国ホテル
東京海上日動火災保険
東北電力
東洋エンジニアリング
トヨタ自動車
西日本旅客鉄道（JR西日本）
日産自動車
日清製粉グループ本社
日本ガイシ
日本製鉄
日本年金機構
日本放送協会（NHK）
日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ
日本IBM
日本航空（JAL／パイロット）
日本貿易振興機構（JETRO）
日本貿易保険
野村総合研究所
パナソニック
P&Gジャパン
PwCあらた有限責任監査法人
PwCコンサルティング
東日本旅客鉄道（JR東日本）
富士フイルム
ブリヂストン
古河電気工業
防衛省
星野リゾート
ボストン・コンサルティング・グループ
本田技研工業
マルハニチロ
丸紅
三井住友銀行
三井物産
三越伊勢丹
三菱重工業
三菱商事
三菱電機
三菱UFJ銀行
村田製作所
楽天グループ

進路支援の詳細はウェブサイトをご覧ください。

社会で活躍する先輩たち Messages from Alumni

自分の頭で考えて、発信する

収益性のあるサステイナブルな事業を通して、国の発展に寄与したいと思い、総合商社に入社しました。コーヒー生豆の物流・営業業務を経て、現在は食関連の新規案件を担当しています。貿易関連のトラブル対応も、新規事業の仕組みづくりも、答えは一つではありません。どの様な分野でも、仕事を進める上で大切なのは、間違ってもいいので、自分で考えて「仮説立て」をすることだと思っています。

AIUでは、授業中のグループディスカッションや課題のエッセイなどを通して、自分の意見（仮説）を発信する機会が多く、今の自分の土台になっています。

皆さんも、AIUで様々なバックグラウンドを持つ仲間たちと一緒に学びながら、自分の頭で考え、発信する力を育てませんか?

三井物産株式会社
安田 奈未さん（大阪府）
食料本部 Emerging Business事業部
Innovation・ESG事業開発室

多様な仲間との相互研鑽

「世界を舞台に日本を支えたい」「活気のある組織で働きたい」という想いから入社しました。現在は、自動車用ガラスビジネスの営業として、お客様と自社の間に立ち、既存商売の継続・拡大に向けた契約交渉や、モビリティ社会のさらなる発展に向けた新商品の提案を担当しています。

AIUでは物事を多角的に捉え、意見を発信する力を養えただけでなく、国内外から集まった仲間との共同生活や1年間の交換留学の経験から、相手に関心を寄せ信頼関係を丁寧に構築する大切さを学びました。これらの学びや経験は、社内外の様々な関係者の利害調整を行い、価値を創り出す現在の業務に活きていると強く感じます。

AIUで自分に磨きをかけ、一緒に社会をさらに明るくしましょう!

AGC株式会社
伊藤 健太さん（愛知県）
オートモーティブカンパニー
アジア事業本部
トヨタグローバルユニット

秋田から世界へ

「鉄道会社にしかできないまちづくり」に携わり、地域社会に貢献したいという想いから入社しました。これまで本社での設備投資計画策定、大宮支社での駅構内開発事業、現業機関での駅・運転士業務など、様々な業務を経験してきましたが、AIUでの少人数授業の中で「自ら考え、ものごとの本質を理解する力」を養えたからこそ、異なる分野でも好奇心を持って仕事に励むことができています。将来は、輸送サービス・生活サービスのシナジーを最大化させ、世界を舞台にしたまちづくりに携わることを目指しています。

皆さんも秋田の小さな学び舎で新しい「仲間」と出会い、「自分」の世界を大きく広げてみませんか?

東日本旅客鉄道株式会社
宮嶋 耕平さん（東京都）
大宮支社　さいたま運転区

大学院進学支援

ACSC

アカデミック・キャリア支援センター（ACSC: Academic Career Support Center）

大学院進学を検討している学部生に対し、出願支援、奨学金制度に関する相談会、ワークショップ、特別講演などを開催し、国内外の大学院および専門職大学院への進学支援を行っています。

特別講演・講習会によるサポート

特別講演および講習会を毎学期開催し、大学院での研究および修士・博士課程修了後の進路などについて、幅広く理解する機会を提供します。

特別講演　第一線で活躍している高度専門職業人を講師に招き、大学院での学修・研究および大学院進学後の多様なキャリア形成について紹介します。

講習会　センターのコーディネーター教員などが、様々な視点から大学院進学の現状について情報を提供します。

海外大学院との連携

SOASロンドン大学（イギリス）はヨーロッパを代表する高等教育機関の1つで、アジア・アフリカ・中東における人文社会科学分野での教育研究を行っています。2020年度から本学は同大学と提携しており、所定の基準を満たす本学の学部卒業生は、SOASでの1年間の大学院修士課程（MA/MSc; taught courses）へ「プログレッション・ルート」を使い出願できます。

大学院合格実績

オックスフォード大学大学院（イギリス）
ケンブリッジ大学大学院（イギリス）
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学院（イギリス）
サセックス大学大学院（イギリス）
SOASロンドン大学大学院（イギリス）
パリ政治学院（フランス）
パンテオン・ソルボンヌ大学大学院（フランス）
INSEAD（フランス）
ハイデルベルク大学大学院（ドイツ）
国際・開発研究大学院（スイス）
ボローニャ大学大学院（イタリア）
ジョージタウン大学大学院（アメリカ）
ハワイ大学大学院（アメリカ）
ソウル国立大学大学院（韓国）
香港大学大学院（香港）
東京大学大学院
京都大学大学院
一橋大学大学院
国際教養大学専門職大学院　ほか

大学院進学者の声 Message from Graduate Student

AIU入学当初より、国際移住や難民分野でのキャリアを志望していたのに加え、マイノリティとして生活する経験を積みたいという思いから、海外進学を希望していました。進学先は、移民研究プログラムの中でも政策を中心としたカリキュラムや修士論文で研究対象を希望している地域への近接性といった点から決定しました。

AIUの学際的なカリキュラムでは、「国境と人の移動」や「国際強制移動学」といった専門的な講義に加え、人類学や社会学、政治学といった様々な分野から国際移住について広く視野を持てたという点で非常に有益でした。

ACSCでは2年次の頃からオフィスアワーを利用して大学院進学へのモチベーションを保持したり、留学先の選定や進学準備の際に助言をいただいたりしました。

将来は、国際移民や多様性の包摂に貢献できるような仕事に携わりたいと考えています。

ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
London School of Economics and Political Science
後藤 明日香さん（兵庫県）
専攻／MSc in International Migration and Public Policy

FEATURE 05

多様な人材を発掘する入試制度

Admissions

本学では、一定の基礎学力に加え、多彩な能力および資質を備えた学生を選抜するため、16種類もの入試制度を用意しています。「9月入学」「特別科目等履修生」、入学前のボランティア活動などを評価する「ギャップイヤー入試」や、問題解決型合宿での活動を評価する「グローバル・ワークショップ入試」など独自の制度を入試に取り入れることにより、情熱と可能性を秘めた多様な人材をきめ細かく発掘します。他の国公立大学とは異なる入試日程を組み、受験機会を多く設定しているのも大きな特長です。

入学時期は、4月と9月の年2回。入学時に志望する領域を決めず、学部一括で175名を募集します（編入学・転入学者を除く）。少人数授業を基本とするため入学定員は決して多くありませんが、最大6回の受験機会を用意しています。世界を舞台に活躍することを目指す皆さん、ぜひ国際教養大学に挑戦してください。

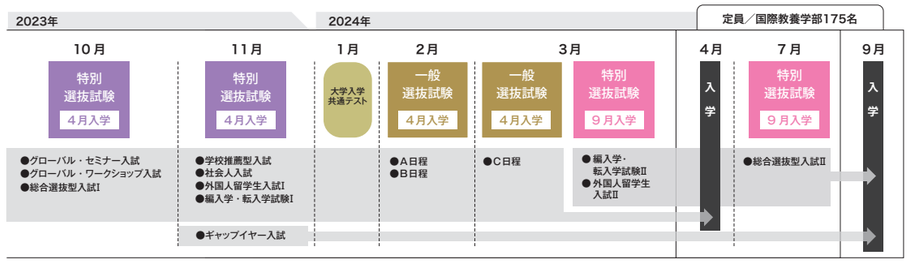
2023年度 オープンキャンパス開催日程

>> 第1回　7月16日（日）
>> 第2回　9月17日（日）

新型コロナウイルス感染症の状況により、内容が変更となる可能性があります。
最新情報は「学生募集要項」および本学ウェブサイトをご覧ください。

グローバル人材になるための意欲と素質を求めます

入試日程 Admissions Schedule



入試制度一覧 Admissions

特別選抜試験（2024年4月入学） >> 大学入学共通テストを利用しない試験

種　類	定　員	併願●／専願★	英語資格	個別学力検査	試験日（2023年度実施）	会　場
グローバル・セミナー入試	15名	●	不要	●面接（日本語・英語）	10月14日（土）	秋田
グローバル・ワークショップ入試	5名	★				
総合選抜型入試Ⅰ	10名	★	要※	●面接（日本語・英語） ●筆記試験（英語小論文）	10月14日（土） 15日（日）	
学校推薦型入試	35名	★			11月25日（土） 26日（日）	
社会人入試	若干名	★				
外国人留学生入試Ⅰ	若干名	●		●書類選考	——	——
編入学・転入学試験Ⅰ 2年次	7名	●		●面接（日本語・英語） ●筆記試験（英語小論文）	11月25日（土） 26日（日）	秋田
編入学・転入学試験Ⅰ 3年次	1名	●				

※詳細は、「入学者選抜要項」および各試験の「学生募集要項」をご覧ください。

一般選抜試験（2024年4月入学） >> 大学入学共通テストを利用する試験　WEB出願

種　類	定　員	併願●／専願★	英語資格	大学入学共通テスト	個別学力検査	試験日（2023年度実施）	会　場
A日程	55名	●	不要※	5教科	●筆記試験（国語・英語）	2月 3日（土）	秋田・札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡
B日程	40名	●		3教科		2月17日（土）	
C日程	5名	●		1教科	●筆記試験（英語小論文）	3月14日（木）	

※英語資格保持者への特例措置　一般選抜試験において、次のいずれかの英語を保持する者については、受験した大学入学共通テストの英語科目を満点と換算し、合否判定します。（TOEFL iBT® TEST 72点以上、TOEIC® Listening & Reading TestとTOEIC® Speaking & Writing Testsの合計1200点以上、英検準1級以上、英検CBT準1級以上、英検S-CBT(1 day) 準1級以上、英検S-Interview(2 day) 準1級以上、IELTS™バンド6.5以上、GTEC CBT 1200以上、GTEC Advanced 1200以上、TEAP 360以上、TEAP (CBT) 760以上、ケンブリッジ英語検定 B2 FirstおよびB2 First for Schools 176点以上）

特別選抜試験（2024年9月入学） >> 大学入学共通テストを利用しない試験

種　類	定　員	併願●／専願★	英語資格	個別学力検査	試験日（2023年度実施）	会　場
総合選抜型入試Ⅱ	5名	★	要※	●面接（日本語・英語） ●筆記試験（英語小論文）	8月1日（火）（2023年9月1日入学）	秋田
ギャップイヤー入試	5名	★	不要		11月25日（土） 26日（日）	秋田
外国人留学生入試Ⅱ	若干名	●	要※	●書類選考	——	——
編入学・転入学試験Ⅱ 2年次	1名	●		●面接（日本語・英語） ●筆記試験（英語小論文）	3月14日（木）	秋田
編入学・転入学試験Ⅱ 3年次	1名	●				

※詳細は、「入学者選抜要項」および各試験の「学生募集要項」をご覧ください。

TOEFL, TOEFL iBT, and TOEIC are registered trademarks of Educational Testing Service (ETS). This brochure is not endorsed or approved by ETS.

受験生応援サイトはこちらから！ 最新の入試情報は、こちらをご覧ください。

入試制度一覧 Admissions

新型コロナウイルス感染症の状況により、内容が変更となる可能性があります。
最新情報は「学生募集要項」および本学ウェブサイトをご覧ください。

特別選抜試験（2024年4月入学） >> 大学入学共通テストを利用しない試験

入試の種類と定員	●併願 ★専願	概要と出願資格など	英語資格	個別学力検査	試験日
グローバル・セミナー入試（15名）	●	秋田県内の高校生を対象とした制度です。毎年4月と8月に開催するグローバル・セミナーで作成・提出した2点のレポート、面接、高等学校の調査書や自己アピール書などに基づき、総合的に評価します。 ●出願資格・要件 →秋田県内の高校生で、3年次にセミナーに1回以上参加した者	不要	●面接（日本語・英語） 会場 秋田	2023年10月14日（土）
グローバル・ワークショップ入試（5名）	★	自己アピール書、調査書、グローバル・ワークショップで作成・提出したレポート、同ワークショップでの活動および面接に基づき、総合的に評価します。 ●出願資格・要件→2023年度グローバル・ワークショップに参加した者			
総合選抜型入試I（10名）	★	書類選考により、高い英語能力または海外での経験を評価するとともに、英語小論文と面接により、読解力、表現力、論理的思考力および学習意欲を評価します。 ●出願資格・要件:次のいずれかに該当する者 →右記の英語資格を有する者 →高校在学中に1年程度留学し、30単位程度認められた者 →日本国内において国際バカロレアのDiploma Programを修了し、最終試験6科目に合格した者 →外国において中等教育の最終学年を含め2年以上継続して教育を受け、右記の英語資格を有する者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 61 TOEIC® (L&R+S&W) TEST 1100 英検準1級 GTEC CBT 1000 TEAP 300　他	●面接（日本語・英語） ●筆記試験（英語小論文） 会場 秋田	2023年10月14日（土）15日（日）
学校推薦型入試（35名）	★	書類選考により、幅広い基礎学力を十分に備えているか、課外活動などに特に積極的に取り組んだか、英語能力が一定の水準以上であるかなどを評価するとともに、英語小論文と面接により、読解力や表現力、論理的思考力および学習意欲を評価します。 ●出願資格・要件：次のいずれかに該当する者 →高等学校長の推薦、全体の学習成績の状況4.0以上、右記の英語資格を有する者 →学業やスポーツ、文化活動などの特定分野で、国際大会出場あるいは日本国内の全国規模の大会等で優秀な成績を修めた者（英語資格要件なし）	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 45 TOEIC® (L&R+S&W) TEST 840 英検2級 GTEC CBT 800 TEAP 230　他		2023年11月25日（土）26日（日）
社会人入試（若干名）	★	一定の年齢に達した社会人を対象とした制度です。書類選考により、英語能力が一定の水準以上であるかなどを評価するとともに、英語小論文と面接により、読解力や表現力、論理的思考力および学習意欲を評価します。 ●出願資格・要件→入学時に23歳以上で、右記の英語資格を有する者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 45 TOEIC® (L&R+S&W) TEST 840 英検準2級　他		
外国人留学生入試I（若干名）	●	国内外で学校教育における12年の課程を修了した外国人を対象とした制度です。書類選考により、幅広い基礎学力を十分に備えているか、英語能力が一定の水準以上であるかなどを評価するとともに、志願理由書により学習意欲を評価します。 ●出願資格・要件: 次のすべてに該当する者 →日本国籍を有しない者 →学校教育における12年の課程を修了している者 →各国の大学入学資格を満たしている者 →右記の英語資格を有する者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 61 TOEIC® (L&R+S&W) TEST 1100 英検準1級 GTEC CBT 1000 TEAP 300　他	●書類選考	
編入学・転入学試験I 2年次（7名）	●	国内外の大学、短大などを卒業、または1年以上（3年次は2年以上）在籍した方を対象とした制度です。書類選考により、本学への編入に足る学力を十分に備えているか、英語能力が一定の水準以上にあるかなどを評価するとともに、英語小論文と面接により、読解力や表現力、論理的思考力および学習意欲を評価します。 ●出願資格・要件 →大学、短大、高等専門学校、専修学校の専門課程を卒業した者、または2024年3月までに卒業見込みの者。あるいは大学において1年以上（3年次は2年以上）在学した者、または2024年3月までに同要件を満たす者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 71 （3年次は79） IELTS™ 6.5	●面接（日本語・英語） ●筆記試験（英語小論文） 会場 秋田	2023年11月25日（土）26日（日）
編入学・転入学試験I 3年次（1名）	●				

一般選抜試験（2024年4月入学） >> 大学入学共通テストを利用する試験　WEB出願

1次試験として大学入学共通テストを課し、2次試験として個別学力検査を実施します。本学のA・B・C日程と、他の国公立大学の前・中・後期日程は併願することができます。

入試の種類と定員	●併願 ★専願	概要と出願資格など	個別学力検査	試験日	会場
A日程（55名）	●	大学入学共通テスト（5教科） ●国語　●外国語（英語）リーディングおよびリスニング ●地理歴史・公民（世B、日B、地B、現社、倫理、政経、倫・政経から1科目） ●数学（数I、数I・A、数II、数II・Bから1科目） ●理科（物、化、生、地から1科目または物基、化基、生基、地基から2科目）	●筆記試験（国語・英語）	2024年2月3日（土）	秋田・札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡
B日程（40名）	●	大学入学共通テスト（3教科） ●外国語（英語）リーディングおよびリスニング ●次の①～④から2教科選択 ①国語 ②地理歴史・公民（世B、日B、地B、現社、倫理、政経、倫・政経から1科目） ③数学（数I、数I・A、数II、数II・Bから1科目） ④理科（物、化、生、地から1科目または物基、化基、生基、地基から2科目）		2024年2月17日（土）	
C日程（5名）	●	大学入学共通テスト（1教科） ●外国語（英語）リーディングおよびリスニング	●筆記試験（英語小論文）	2024年3月14日（木）	

英語資格保持者への特例措置

一般選抜試験において、次のいずれかの英語を保持する者については、受験した大学入学共通テストの英語科目を満点と換算し、合否判定します。（TOEFL iBT® TEST 72点以上、TOEIC® Listening & Reading TestとTOEIC® Speaking & Writing Testsの合計1200点以上、英検準1級以上、英検CBT準1級以上、英検S-CBT(1 day) 準1級以上、英検 S-Interview(2 day) 準1級以上、IELTS™ バンド6.5以上、GTEC CBT 1200以上、GTEC Advanced 1200以上、TEAP 360以上、TEAP (CBT) 760以上、ケンブリッジ英語検定 B2 FirstおよびB2 First for Schools 176点以上）

特別科目等履修生制度

一般選抜試験において合格に至らなかった受験生のうち、成績優秀者で、学習意欲に満ち、本学への入学を強く希望する方を「特別科目等履修生」として登録します。
1年間、正規学生と同様に単位を取得し、年度末に編入学試験を経て、次年度に正規生（2年次）となることができる制度です。

2024年度入学における国際教養大学および国公立大学の一般選抜試験日程

2024年	国際教養大学 A日程	国際教養大学 B日程	国際教養大学 C日程	他の国公立大学 前期日程	他の国公立大学 中・後期日程
1月	大学入学共通テスト（1/13・14）				
	出願受付（1/11～1/19）	出願受付（1/15～2/1）		2次試験出願受付（1/22～1/31）	
2月	試験日（2/3）				
	合格発表（2/13） 入学手続（2/14～2/19）	試験日（2/17） 合格発表（2/27） 入学手続（2/28～3/4）	出願受付（2/13～3/1）	前期日程試験（2/25～）	
3月				合格発表（3/6～3/10） 入学手続締切（～3/15）	中期日程試験（3/8以降） 後期日程試験（3/12以降）
			試験日（3/14）		
			合格発表（3/21） 入学手続（3/22～3/26）		合格発表（3/20～3/24） 入学手続締切（～3/27）

入試制度一覧 Admissions

新型コロナウイルス感染症の状況により、内容が変更となる可能性があります。
最新情報は「学生募集要項」および本学ウェブサイトをご覧ください。

特別選抜試験（2024年9月入学） >> 大学入学共通テストを利用しない試験

入試の種類と定員	●併願 ★専願	概要と出願資格など	英語資格	個別学力検査	試験日
2023年9月入学					
総合選抜型 入試Ⅱ（5名）	★	書類選考により、高い英語能力または海外での経験を評価するとともに、英語小論文と面接により、読解力、表現力、論理的思考力および学習意欲を評価します。 ●出願資格･要件:次のいずれかに該当する者 →右記の英語資格を有する者 →高校在学中に1年程度留学し、30単位程度認められた者 →日本国内において国際バカロレアのDiploma Programを修了し、最終試験6科目に合格した者 →外国において中等教育の最終学年を含め2年以上継続して教育を受け、右記の英語資格を有する者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 61 TOEFL® PBT TEST 500 TOEIC® (L&R+S&W) TEST 1100 英検準1級 GTEC CBT 1000 TEAP 300 他	●面接（日本語･英語） ●筆記試験（英語小論文） 会場 秋田	2023年 8月1日（火） （2023年 9月1日入学）
ギャップイヤー 入試（5名）	★	4月～8月までのギャップイヤー期間に行う独自の活動について計画書を提出し、面接を通して問題意識や意欲を評価します。 ●出願資格･要件 →高等学校または中等教育学校を卒業した者または2024年3月に卒業見込みの者。または通常の12年の学校教育を修了した者および2024年3月に修了見込みの者	なし	●面接（日本語･英語） ●筆記試験（英語小論文） 会場 秋田	2023年 11月25日（土） 26日（日）
外国人留学生 入試Ⅱ（若干名）	●	国内外で学校教育における12年の課程を修了した外国人を対象とした制度です。書類選考により、幅広い基礎学力を十分に備えているか、英語能力が一定の水準以上であるかなどを評価するとともに、志願理由書により学習意欲を評価します。 ●出願資格･要件:次のすべてに該当する者 →日本国籍を有しない者 →学校教育における12年の課程を修了している者 →各国の大学入学資格を満たしている者 →右記の英語資格を有する者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 61 TOEIC® (L&R+S&W) TEST 1100 英検準1級 GTEC CBT 1000 TEAP 300 他	●書類選考	
編入学･転入学 試験Ⅱ 2年次（1名）	●	国内外の大学、短大などを卒業または1年以上（3年次は2年以上）在籍した方を対象とした制度です。書類選考により、本学への編入に足る学力を十分に備えているか、英語能力が一定の水準以上にあるかなどを評価するとともに、英語小論文と面接により、読解力や表現力、論理的思考力および学習意欲を評価します。 ●出願資格･要件 →大学、短大、高等専門学校、専修学校の専門課程を卒業した者または2024年8月までに卒業見込みの者。あるいは大学において1年以上（3年次は2年以上）在学した者または2024年8月までに同要件を満たす者	いずれか1つ TOEFL iBT® TEST 71（3年次は79） IELTS™ 6.5	●面接（日本語･英語） ●筆記試験（英語小論文） 会場 秋田	2024年 3月14日（木）
編入学･転入学 試験Ⅱ 3年次（1名）	●				

科目等履修生および聴講生について

本学では、正規学生と一緒に本学の授業を履修する科目等履修生と聴講生を受け入れています。履修可能科目、出願資格、受講料などの詳細は、アドミッションズ･オフィスまでお問い合わせください。

入学試験情報の詳細は、「入学者選抜要項」および各試験の「学生募集要項」をご覧ください。

大学で配布するほか、本学のウェブサイトから請求･閲覧できます。特別選抜試験および一般選抜試験の募集要項と入学願書の配布時期は、それぞれ7月中旬、9月中旬を予定しています。

●入学試験に関するお問い合わせ先
〒010-1292 秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱
国際教養大学 アドミッションズ･オフィス
TEL:018-886-5931 FAX:018-886-5910
E-MAIL: info@aiu.ac.jp

本学への志望動機は？

将来の夢が明確に決まっていなかった私にとって、様々な学問に触れて視野を広げることができるAIUは魅力的でした。馴染みのない秋田の地での生活や英語で行われる授業など、新しいことに溢れた大学を目指すことは大きな挑戦ではありましたが、「AIUでしか得られない出会いや経験は必ず私を成長させてくれる」と確信し、志望しました。また、教育分野に興味があったので教職課程があることも自分に合っていると考えました。何より、大学に通っている自分を想像したときに一番ワクワクしたのがAIUだったということが決め手でした。

受験時の入試タイプを選んだ理由は？

受験のチャンスを増やそうと学校推薦型入試を受験しましたが、不合格でした。私の周囲には国立大学を目指す人が多く、5教科を網羅することが一般的だったので、一般選抜試験では、A日程を選びました。大学入学共通テストの割合が大きいA日程は、飛び抜けた得意科目や苦手科目がなく、満遍なく基礎を固めていた私にとって、合っている入試タイプだったと思います。

AIUを目指す皆さんに伝えたいこと

AIUでの生活は高校時代に想像していたよりも密度が濃く充実しており、自分の視野がどんどん広がる毎日を過ごせています。受験の過程では途中で壁にぶつかったり、悔しい思いをしたりすることもあると思いますが、自分で続けた努力は必ず自分の力と自信になります。近道はなくても結果はどこかで現れてくるものです。息詰まったときには入学後の自分を想像して、後悔のないように、最後まで諦めず頑張ってください。応援しています！

本学への志望動機は？

私は将来、中小企業の海外進出と外国人雇用をサポートする仕事をしたいと考えており、その夢の実現のためAIUを志望しました。様々な国・地域からの留学生と日常的に交流することができ、異なる価値観や考え方にたくさん触れることができる環境も魅力的に感じました。また、AIUが主催する国際協働PBLや地域交流活動を通してローカルな問題とグローバルな問題の関係性を深く理解することができると感じました。「今、ここ」でしか得られない経験ができるAIUは、私の夢の実現を大きく後押ししてくれる場所であると確信し、志望しました。

受験時の入試タイプを選んだ理由は？

私は中学3年生の時からAIUに憧れ、入学したいと強く願っていました。高校時代はAIUが求める人材になるために、勉強だけではなく部活動や校外の様々な人との関わりを通して、AIUが掲げる“Global Leader”となるための人間力向上にも努めました。学校推薦型入試は、その経験やAIUに対する強い熱意をよりアピールできる入試だと感じ、この入試タイプを選びました。

AIUを目指す皆さんに伝えたいこと

受験勉強をしている期間は不安でいっぱいだと思います。私の場合も、どんな対策をしても合格までの距離が見えず、今の自分の現状が見えなかったことが最も大きな不安要素でした。受験前で不安に押しつぶされそうだった時、「AIUを広め隊（AIU生が生の声を発信しているクラブ活動）」の「結局最後は自分を信じ切れた人が受かっている」という投稿を見て、大きく勇気づけられました。そして今こうしてAIU生として、憧れていたもの以上の日常を送れています。だから皆さんも自分を信じて、入学後の充実した生活を送っている自分の姿を思い描いて、頑張ってください！応援しています！！

学費と奨学金 Tuition and Financial Aid

学費

入学金（初年度のみ）　県内学生 282,000円　県外学生 423,000円

授業料（年間）　696,000円

入学金 ＋ 授業料：1,119,000円
（秋田県出身者 978,000円）

授業料の減免

本学は、高等教育の修学支援新制度の対象校です。この制度の適用者には、入学金、授業料の減免があります。また、この制度の申請対象外の学生には、大学独自の減免制度があります。減免額の詳細については、本学ウェブサイトを参照してください。

留学中の学費　授業料は相互免除（P.45）

学費・授業料の減免について詳細はこちらをご覧ください。

Question　入学金と授業料を除き、最初の年にはどのくらいお金がかかりますか？

Answer　約81万円です。

経費内訳（2023年度予定額）

寮費……554,600円

寮費には右記の費用を含みます
- ●11.5カ月分の家賃
- ●ゴールデンウィーク、年末年始、長期休業期間等を除いた8カ月分の平日の食費（1日3食）
- ●退去時清掃費　●光熱水費　●冷暖房費

その他……約250,000円

内訳

入学時諸経費
- ●学生活動費 ……39,000円（1年間の留学期間を除く在学期間分。今後、増額する可能性あり。）
- ●「保護者の会」会費……20,000円（在学期間分）
- ●学研災・学研賠保険料 ……4,660円

教科書代・テスト受験料
- ●教科書代 ……50,000円～70,000円程度／学期
- ●英語能力テスト受験料 ……50,000円前後

奨学寄附金

国際教養大学では、「学生、留学生等への奨学支援」「本学における教育活動への支援」などを目的として、「奨学寄附金」をお願いしています。寄附金は常時受け付けておりますので、ぜひご協力をお願い申し上げます。なお、寄附金には公立大学法人への寄附として、免税措置が講じられます。

国際教養大学
寄附金担当
TEL : 018-886-5900
FAX : 018-886-5910
E-MAIL : info@aiu.ac.jp

奨学金

在学生には、以下の制度について紹介するとともに、奨学金の相談に応じています。また、ご寄附により、国際教養大学独自の奨学金制度を設けて学生をサポートしています。

AIU独自奨学金（給付）

名　称	AIU留学時成績優秀者報奨奨学金
金額（一時金）	100,000円
資　格	当該学期の翌学期に、大学が認める１年間の交換留学に出発する学生のうち、成績優秀者を大学が選抜。

名　称	AIUアンバサダー奨励金
金額（回）	国内最大2万円／海外5万円
資　格	国際会議又は研究発表会に参加する予定の者で、その参加が本人、あるいは大学に有益と認められる場合、旅費、登録料等を一定額補助。

名　称	AIU秋田県出身学生奨学金「わか杉奨学金」
金額（年額）	160,200円／80,100円［本学独自授業料減免適用者の場合］
資　格	2012年4月以降入学の秋田県出身学生のうち、本制度に申請し、大学が定めた期日までに授業料を納付した者。※審査は学期毎に行います。

名　称	AIU県外出身学生奨学金「修学支援奨学金」
金額（年額）	第1区分：160,200円／第2区分：106,800円／第3区分：53,400円
資　格	2012年4月以降入学の秋田県外出身の学部学生のうち、国の高等教育修学支援新制度の適用を受けている者で、なおかつ本制度に申請し、大学が定めた期日までに授業料を納付した者。

名　称	AIUふきのとう特別奨学金
金額（回）	15万円／回（年度毎の採用・在学中、隔年で2回まで受給可能）
資　格	毎年1月の申請時点で、授業料減免、各種給付型奨学金が不適用の学生が対象。本人の申請を受けて、家計状況や成績等を大学が総合的に勘案し、選抜。

日本学生支援機構（JASSO）奨学金（給付・貸与）

給付型奨学金および貸与型奨学金を取り扱っています。貸与型には、無利子の第1種奨学金と、有利子の第2種奨学金（年最大3%の利子付き）があります。

月額は、家計や通学方法によって異なります。JASSOのウェブサイト（https://www.jasso.go.jp）から、金額の詳細を確認してください。

地方公共団体・民間団体奨学金（給付・貸与）

各都道府県・市町村などの地方自治体や民間団体などでは、育英奨学事業が実施されており、大学事務局を通して申し込める奨学金もあります。なお、募集対象、期間、給付・貸与などは支援団体によって異なります。

須田人財育成基金

本学が、次世代社会を切り拓く科学技術に関する教育を充実させるとともに、秋田県内への就職支援を通して、秋田の科学技術産業の発展に従事する人材の育成に資することを目的として創設された基金です 。

学生が県内企業と連携して行う地域の課題解決活動に対する補助金や、卒業後に県内に就職する学生への奨学金返還支援などに活用されています。

専門職大学院 Professional Graduate School

専門職大学院パンフレットは
こちらからご請求いただけます。

専門職大学院の概要

国際教養大学は、国際社会で活躍するための実践力をさらに高める場として、専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科を設置しています。同研究科は3つの領域を持ち、それぞれ英語教育、日本語教育および国際報道・広報・交渉などの分野に長年従事してきた実務経験豊富な教員から、世界の第一線で活躍するうえで必要となる知識を修得し、専門家としてのスキルを磨くことができます。

研究科名・専攻名	グローバル・コミュニケーション実践研究科 グローバル・コミュニケーション実践専攻	研究科長・専攻長：内田 浩樹
領域名／学位名称	英語教育実践領域／英語教育修士（専門職） 日本語教育実践領域／日本語教育修士（専門職） 発信力実践領域／発信力実践修士（専門職）	領域代表：内田 浩樹 領域代表：左治木 敦子 領域代表：谷川 幹
標準修業年限	2年	入学定員　30名

英語教育実践領域

■英語教育理論を教育現場に応用する具体的方策
■4技能を育む実践的な指導論
■学習者の意欲を高めるアプローチ

理論をいかにして実際の教室に応用しうるかを徹底して議論します。英語指導上の問題発見能力を身につけ、問題への具体的ソリューションを提案し、実践できる教員を養成します。教員専修免許状（英語）の取得が可能です。

日本語教育実践領域

■外国語としての日本語教育に必要な音声学・統語論・外国語教授法・評価法・第二言語習得理論・語彙などの理論科目
■3期にわたる実習実践を通した理論の応用と教育方法の習得

高度な専門知識と教授技術を身につけ、かつ英語でのコミュニケーション能力を持った日本語教師を養成します。国内に限らず海外の日本語教育機関においても活躍できる日本語教師の養成を目指しています。

発信力実践領域

■広報とメディアに関する理論と実践
■ディベート、国際交渉、通訳のスキル
■新聞記事などのメディアコンテンツの作成

メディアと国際社会との関係を深く理解し、ジャーナリズム、国際広報そして国際ビジネスに要する高度なコミュニケーションの実践的能力を身につけた「グローバル人材」を養成します。

専門職大学院の選考・学費

2024年度入学者の選考日程	秋選考2023年9月19日（火）～9月28日（木） 冬選考2023年12月4日（月）～12月13日（水） 春選考2024年4月12日（金）～4月22日（月）
選考方法	入学者の選考は、書類選考のみにより行います。志望理由および学修計画書、推薦状、英語能力・日本語能力などを総合的に判断して選考します。

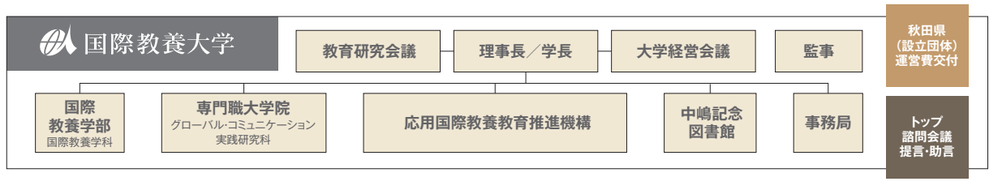
入学金（初年度のみ）		授業料（年間）
県内学生 282,000円	県外学生 423,000円	696,000円

国際教養大学　専門職大学院の詳細については「大学院案内」をご覧ください。大学ウェブサイトより請求可能です。

●お問い合わせ先：国際教養大学　アドミッションズ・オフィス　TEL：018-886-5931　E-MAIL：info@aiu.ac.jp

沿革とガバナンス History and Governance

国際教養大学組織図



トップ諮問会議

委員	明石 康	元国際連合事務次長／公益財団法人国立京都国際会館理事長
	大宅 映子	評論家／公益財団法人大宅壮一文庫理事長
	佐藤 隆三	ニューヨーク大学大学院 C.V. スター財団冠講座名誉教授
	鈴木 典比古	県立広島大学・県立叡啓大学理事長
	須田 精一	YURIホールディングス株式会社取締役会長
	西木 正明	作家
	橋本 五郎	読売新聞特別編集委員
顧問	グレゴリー・クラーク	多摩大学名誉学長／評論家

沿革と開学の歩み

1998年10月	『秋田県高等教育推進懇談会』設置 （座長:秋田県副知事 板東久美子）
2000年４月	『国際系大学（学部）検討委員会』設置 （委員長:東京外国語大学長 中嶋嶺雄）
2002年３月	『国際系大学（仮称）創設準備委員会』設置 （委員長:UMAP国際事務総長 中嶋嶺雄）
2003年11月	文部科学省による国際教養大学設置認可
2004年４月	開学 初代理事長・学長 中嶋嶺雄（～2013年2月） ［2013年 従三位に叙位、瑞宝重光章を受章、秋田県文化功労者表彰を受賞］
2005年２月	地域環境研究センター（CRESI）設置
2005年７月	カレッジプラザにサテライトセンター開設（秋田市）
2006年４月	学部入学定員を100名から130名に増員
2007年６月	学生宿舎（愛称:グローバルヴィレッジ）竣工
2008年３月	1期生が卒業、新図書館"国際教養大学図書館"竣工
2008年４月	教職課程設置、言語異文化学習センター（LDIC）設置 学部入学定員を130名から150名に増員
2008年９月	専門職大学院 「グローバル・コミュニケーション実践研究科」設置（定員30名）
2008年12月	講義棟（D棟）竣工
2010年３月	多目的ホール竣工 開学5周年記念式典挙行（多目的ホール）
2011年４月	学部入学定員を150名から175名に増員
2011年11月	大学の世界展開力強化事業に採択
2012年１月	東アジア調査研究センター（CEAR）設置
2012年10月	経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業 （旧グローバル人材育成推進事業）に採択
2013年３月	学生宿舎（愛称:さくらヴィレッジ）竣工
2013年６月	鈴木典比古理事長・学長就任
2013年９月	能動的学修支援センター（ALSC）設置 国際教養教育推進センター（CPILAE）設置
2014年９月	スーパーグローバル大学創成支援事業（グローバル化牽引型）に採択
2014年11月	開学10周年記念式典挙行 中嶋記念図書館およびSuda Hall（多目的ホール）への改称
2015年４月	アジア地域研究連携機構（IASRC）設置（CRESIとCEAR統合）
2015年９月	学生イニシアティブセンター（I棟）開設
2016年９月	国際教養教育推進機構設置
2017年３月	サテライトセンターをLDICに統合
2021年４月	学科再編および新カリキュラム導入
2021年６月	モンテ・カセム理事長・学長就任
2022年３月	学生宿舎（愛称:つばきヴィレッジ）竣工
2022年４月	応用国際教養教育推進機構設置 （国際教養教育推進機構とアジア地域研究連携機構を統合）

大学経営会議

理事長	モンテ・カセム	国際教養大学学長
常務理事	磯貝 健	国際教養大学副学長
理事	熊谷 嘉隆	国際教養大学副学長
	紺田 英哉	元公益財団法人アメリカ研究振興会理事 元一般財団法人国際経済交流財団理事 元ECCO Japan会長
	佐野 元彦	株式会社サノ・ホールディングス代表取締役 秋田商工会議所副会頭 一般社団法人 東北ニュービジネス協議会副会長
	木村 孟	元東京工業大学学長 東京工業大学栄誉教授
	大西 隆	一般財団法人国土計画協会会長 東京大学名誉教授・豊橋技術科学大学名誉教授 元豊橋技術科学大学学長 元日本学術会議会長
委員	安田 浩幸	秋田県教育委員会教育長
	小野 正則	国際教養大学事務局長
監事	堀井 照重	公認会計士／税理士
	山崎 裕子	山崎ダイカスト株式会社取締役

基礎データ

これらは学部のデータです。（2022年9月1日現在）

設立	2004年4月
学部・学科数	1（国際教養学部　国際教養学科）
領域数	3（グローバル・ビジネス、グローバル・スタディズ、グローバル・コネクティビティ）
定員	175名
学生数	802名（男:263名33%、女:539名67%） うち正規留学生数:14名
提携大学数	51カ国・地域、201大学
受入交換留学生数	26カ国・地域から127名
派遣留学生数	32カ国・地域へ146名
専任教員数	57名（うち外国人教員33名）
専任教員外国人比率	58%
開講科目数	312科目（2022年度実績）
学生数と専任教員数の比	14：1
1科目当たりの平均登録学生数	16名（2022年秋学期）
入学から半年後のTOEFL ITP® TESTスコア平均点	563（2022年4月入学の学生、2022年9月現在）
クラブ数	47団体（2022年度実績）
図書館開館時間	24時間365日（学生・教職員向け）

入試に関するイベントの情報など、
大学の最新情報は
大学公式ウェブサイト・SNSでお知らせします。

大学公式ウェブサイト
https://web.aiu.ac.jp/

受験生応援サイト
https://admission.aiu.ac.jp/

公式SNSアカウント

国際教養大学 アドミッションズ・オフィス
@aiu_admission

国際教養大学／AIU
@akitainternationaluniversity

/ 国際教養大学/Akita International University

国際教養大学/aiu
@AkitaInternationalUniversity

交通アクセス Access to the Campus

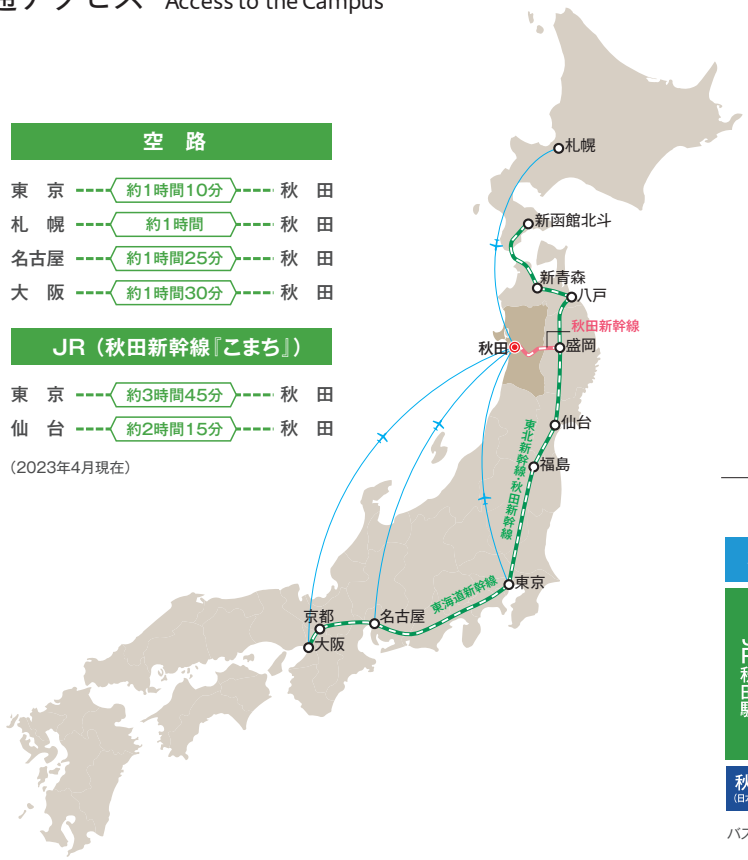
空　路

東　京	約1時間10分	秋　田
札　幌	約1時間	秋　田
名古屋	約1時間25分	秋　田
大　阪	約1時間30分	秋　田

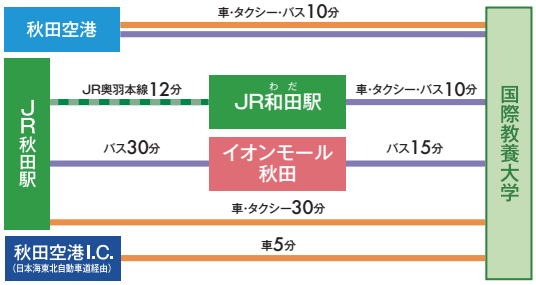
JR（秋田新幹線『こまち』）

東　京	約3時間45分	秋　田
仙　台	約2時間15分	秋　田

（2023年4月現在）



JR最寄り駅・空港からの所要時間



バスをご利用になる場合は必ず大学ウェブサイト等から最新の運行情報をご確認ください。

公立大学法人
国際教養大学
Akita International University

〒010-1292　秋田県秋田市雄和椿川字奥椿岱
TEL: 018-886-5900㈹ FAX: 018-886-5910
E-MAIL: info@aiu.ac.jp　URL: https://web.aiu.ac.jp/

願書などの
請求はこちらから

**国際教養大学
シンボルマーク**

グローバルな国際性を表した緑の地球から、未来へのびる若杉の姿を秋田の“a”で表現。若杉の姿は“人”の文字をイメージし、世界に開かれたこの大学から育ち飛躍する、地域社会や国際社会に貢献する若々しい人材を表しています。